

衣



帽
手 關 機



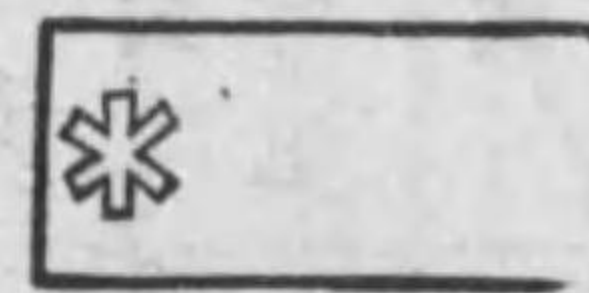
手 防 消



鈕 章 帽

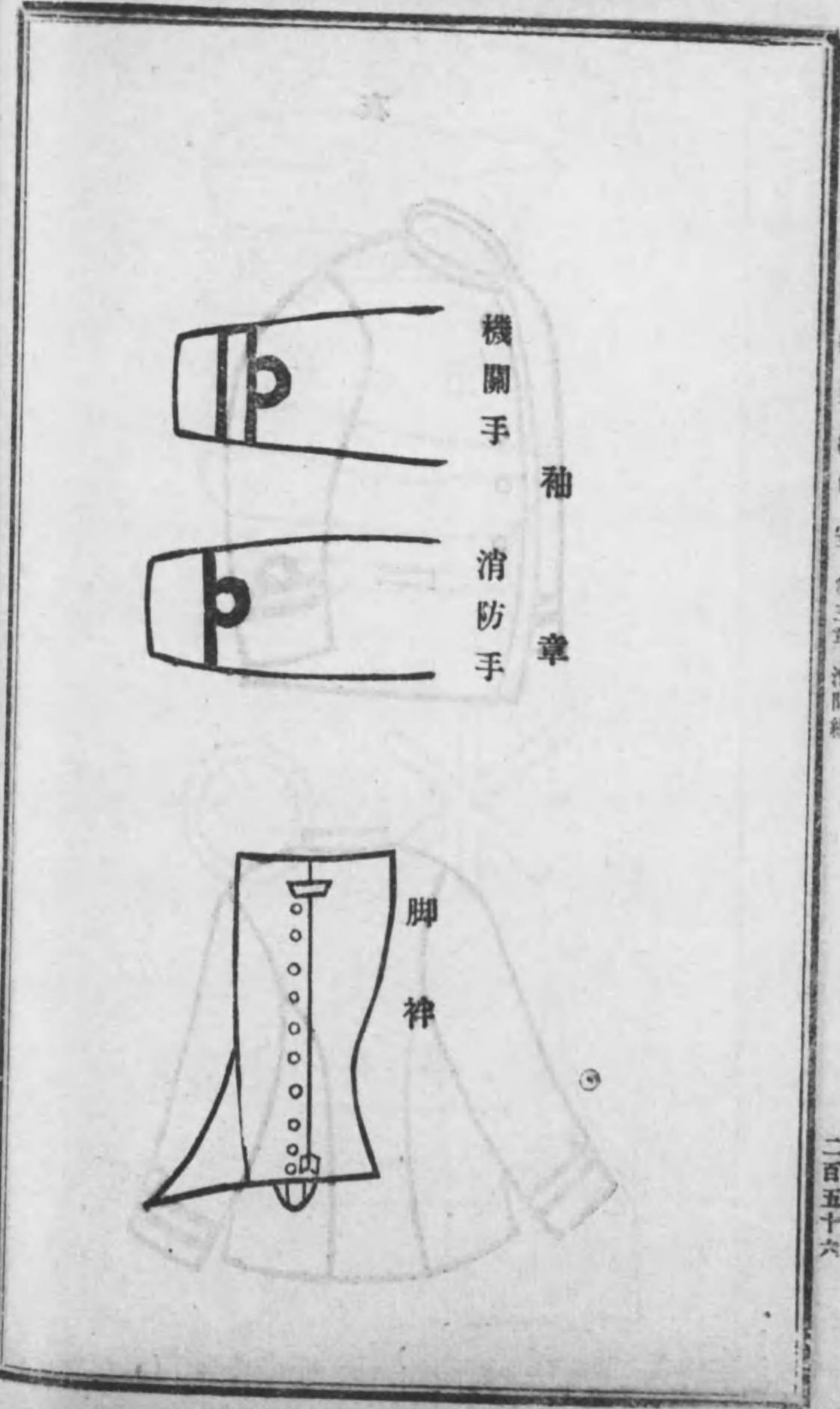
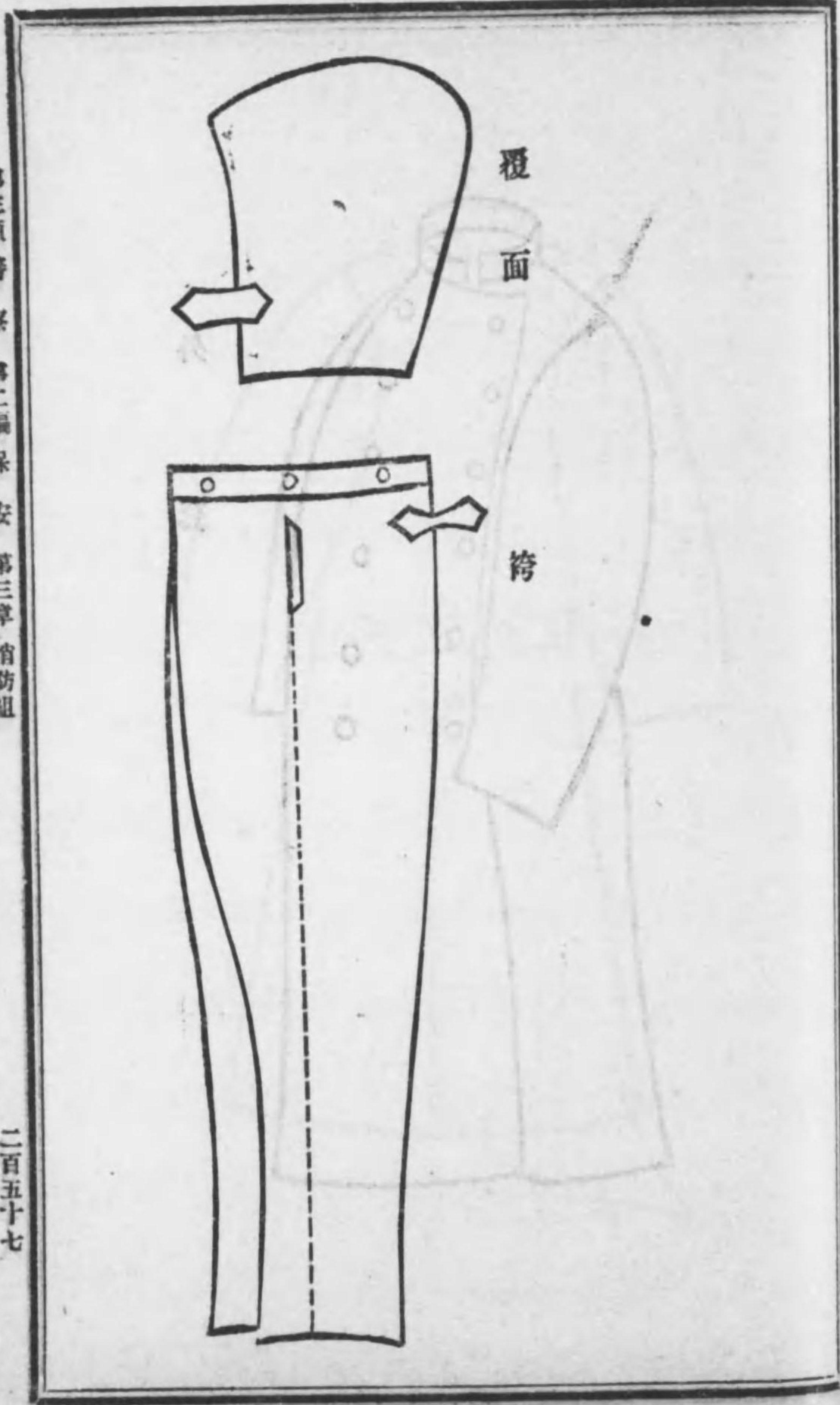


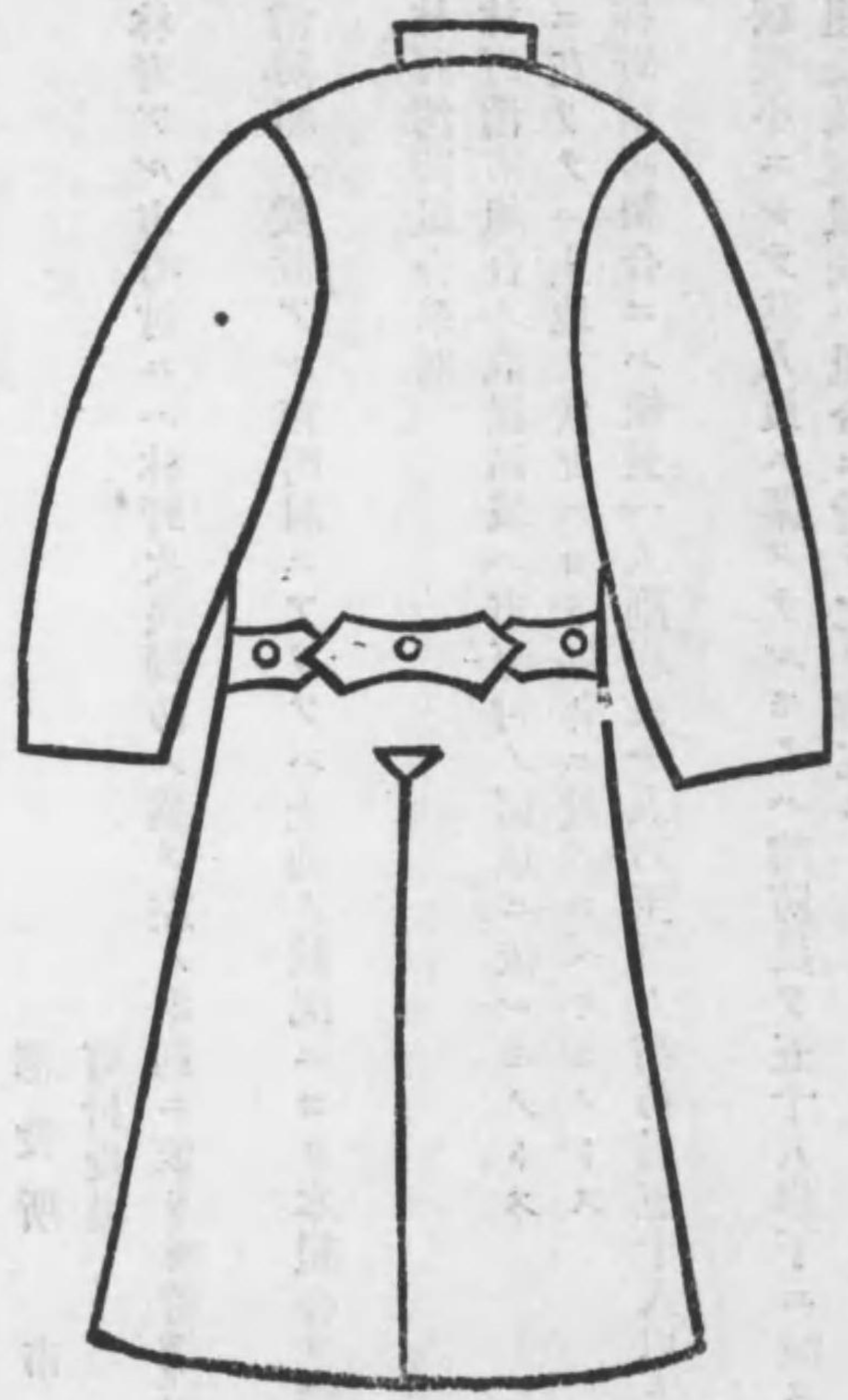
章 襟



備考

手袋及靴(長靴及短靴)ハ適宜トス





外
套

●林野消防組合準則

○訓令甲第四號 明治三十八年三月十一日

郡役所 市役所
町村役場

区域内ニ林野アル市町村ニハ林野火災警防ノ爲メ左ノ準則ニ依リ林野消防組合ヲ設置セシムヘシ

但火災消防組ノ設置アル市町村ニアリテハ土地ノ状況ニヨリ本組合ヲ設ケサルコトヲ得

林野消防組合準則

第一條 林野消防組合ノ設置區域ハ市町村ノ區域ニ依ルモノトス

但村ニ在リテハ土地ノ状況ニヨリ區毎ニ設置スヘキモノトス

第二條 林野消防組合ニハ組長一人副組長一人乃至三人消防員五十人以上ヲ置クヘキモノトス

但區域狹小ニシテ其人員ニ滿タサルモノハ消防員ヲ五十人以下ニ減スルコトヲ得

第三條 組長及副組長ハ組合ニ於テ之ヲ選定ス
組長ハ豫メ消防員ノ擔當ヲ定メ之ヲ指揮監督シ及器具保管ノ責ニ任ス副組長ハ組長ヲ

補住シ組長事項アルトキハ其代理ヲナスモノトス

第四條 林野消防組合ニ備付クヘキ器具概ネ左ノ如シ

高張及手提灯 鋏 鎌 鉞

鋸 斧 水桶 卷(土運搬用)

輻重籠 擔棒

前項ノ器具中高張及手提灯ヲ除キ其他ノ器具ハ消防員自用ノモノヲ以テ之ニ充ツルコトノ得此場合ハ豫メ持寄ルヘキ器具ヲ指定シ置クヘキモノトス

第五條 林野消防組合ハ左ノ事項ヲ定メタル組合規則ヲ設クヘキモノトス

一 組合ノ名稱及區域

二 事務所ノ位置

三 消防員々數

四 消防員資格條件

五 器具ノ名稱箇數

六 林野火災報知ノ信號

前項各號ノ外組合ノ設置及維持ニ關スル必要ノ事項

第六條 林野消防組合ハ別紙様式ニ準シタル消防員名簿ヲ備ヘ置クヘキモノトス

備考	擔當	職名	住所		氏名	
			就職年月日	退職年月日	年	名

●金澤病院ニ火災盜難取締ノ爲メ巡視ヲ置キ其服裝

○告示第八十號 明治三十五年三月二十七日

明治三十五年四月一日ヨリ石川縣金澤病院ニ火災盜難ノ取締ニ從事セシムル爲巡視ヲ置ク巡視ノ服裝ハ左ノ如シ

一 帽

地質ハ黑絨

製式圓形ニシテ黑色ノ眼底及願紐ヲ附シ願紐ノ兩端ハ帽ノ兩側ニ於テ各一個ノ紐卸ヲ以テ留ム

徽章地金ハ白銅ニシテ徑一寸ノ梅形ニ病ノ字トス

紐卸ハ金色圓形模様ハ梅花トス

日覆ハ白布ニシテ帽ノ上部ヲ包ム

上衣

地質ノ色ハ冬衣ハ黑又ハ濃紺夏衣ハ白トス

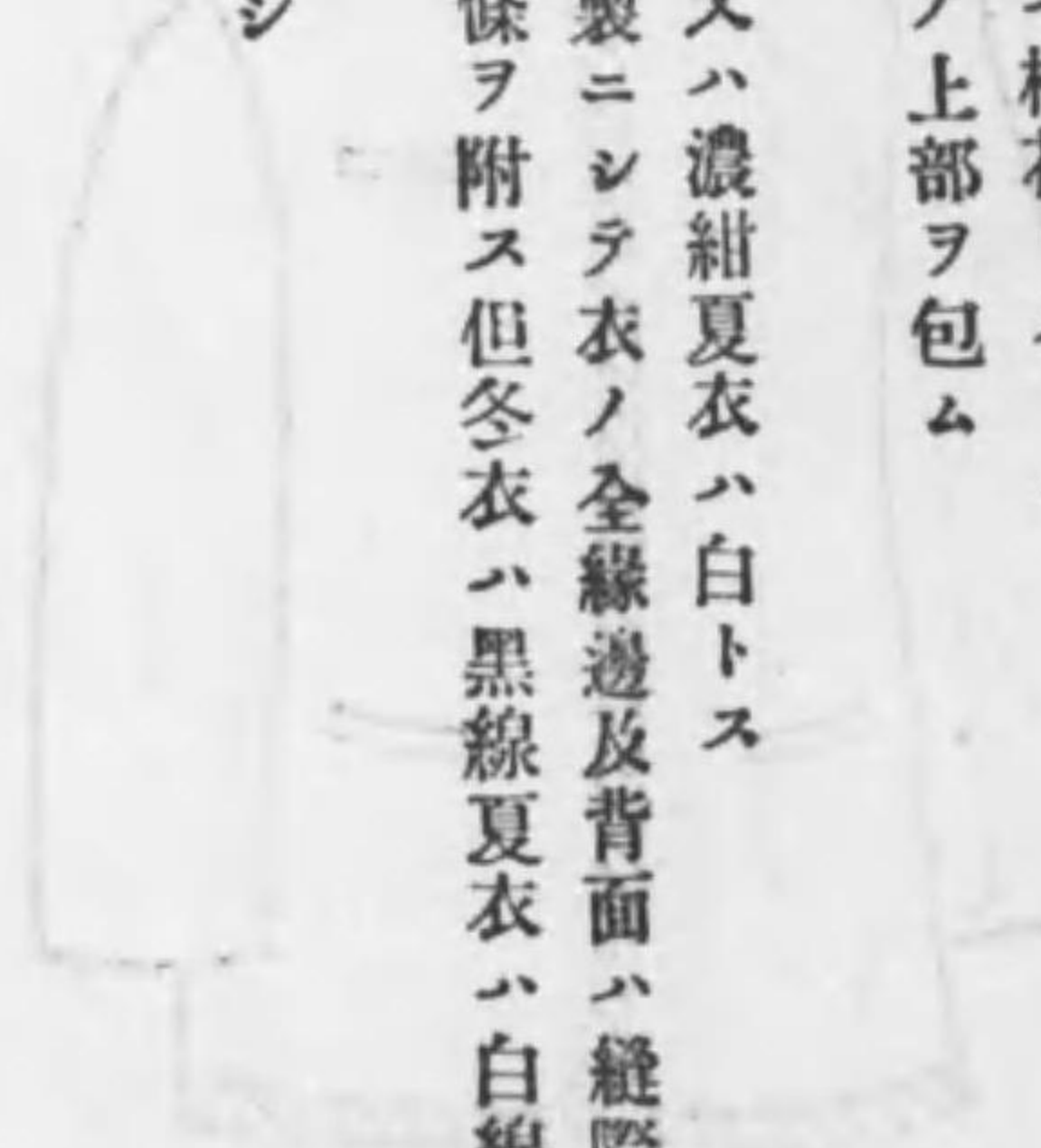
製式長「ジャケツト」製ニシテ衣ノ全縁邊及背面ハ縫際ニ八分幅ノ黑縁ヲ附ス

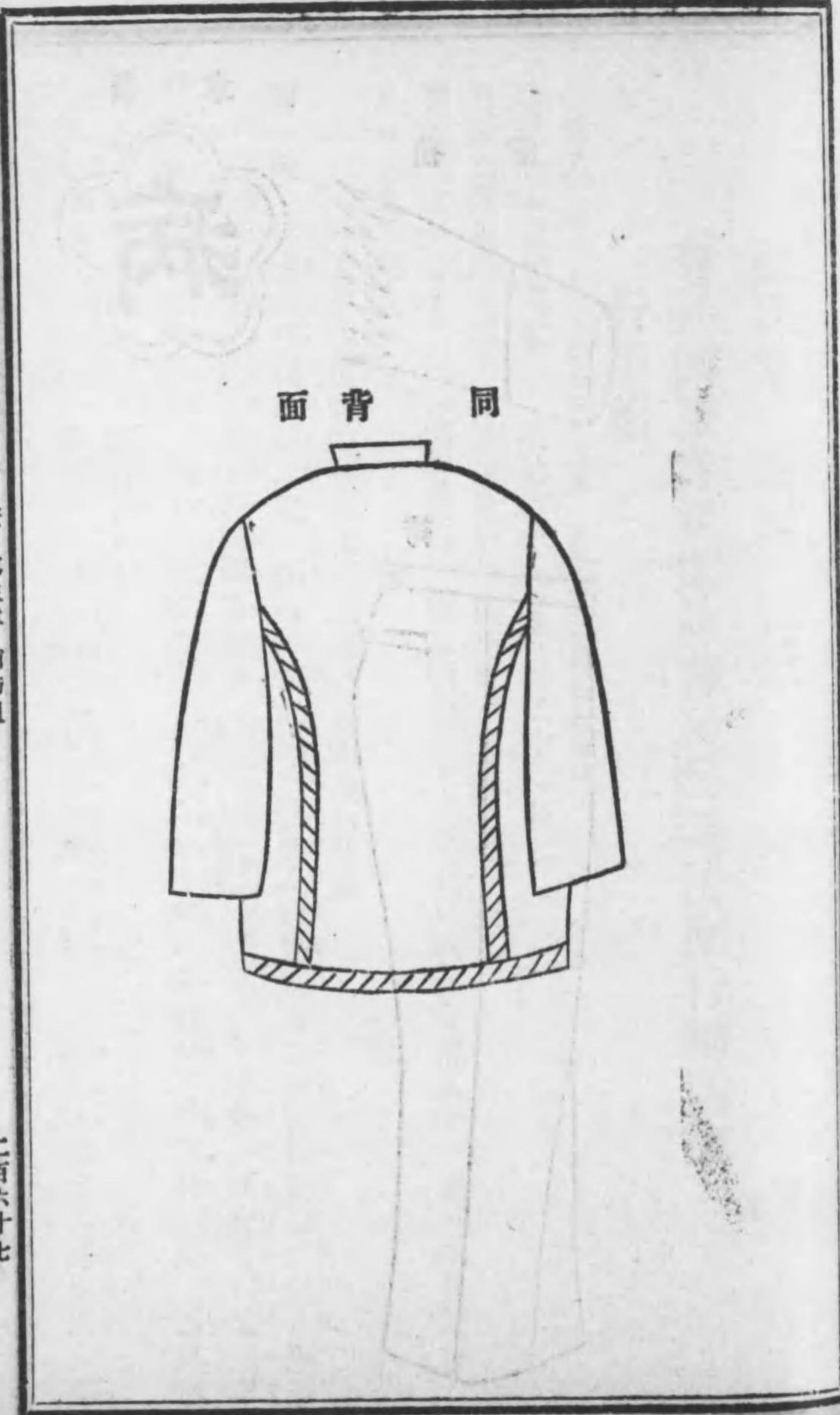
袖章ハ巾五分ノ線一條ヲ附ス但冬衣ハ黑縁夏衣ハ白縁トス

袴

地質ノ色ハ上衣ニ同シ

被服ノ形狀左ノ如シ





面背同



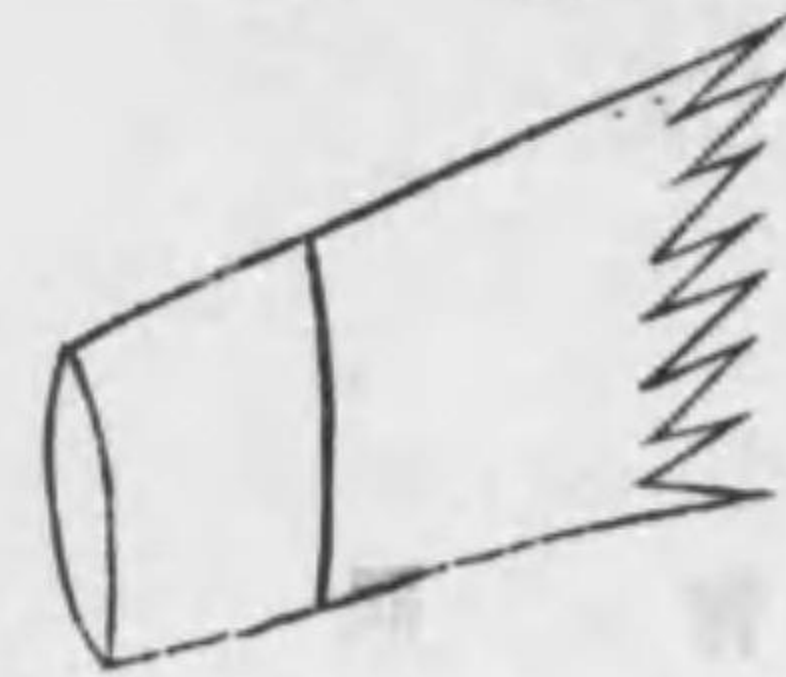
帽

面前衣上

章 徽



章 袖



袴



第四章 移民、旅券

●外國旅券規則並移民保護法施行細則施行手續

(沿革) 四二年六月縣令第三六號、同年七月同第四四號改正
 ○縣令第七十五號 明治四十一年八月二十二日
 外國旅券規則並移民保護法施行細則施行手續左ノ通相定ム
 明治三十一年十二月本縣令第三百三號及明治三十三年六月同縣令第八十一號ハ本令施行ノ日ヨリ之ヲ廢止ス

外國旅券規則並移民保護法施行細則施行手續

第一條 外國旅券規則第二條ノ願書ハ別記第一號書式移民保護法施行細則第二條ノ願書ハ別記第二號書式ニ依リ各醫師診斷書(身體健康、眼病傳染性疾、患者ノ有無ニ對スルモノ)ヲ添附シ所轄警察官署ヲ經由スヘシ尙移民ニアリテハ出願ノ日ヨリ前六ヶ月内ニ撮影シタル寫眞二葉(五歲以下ノ幼者ヲ除ク)ヲ添付スヘシ
 移民トシテ保證人ヲ要スル地ニ渡航セムトスル者ニアリテハ前項ノ書類ノ外尙別記第

三。號書式ノ保證書及別記第四號書式ノ保證人納稅額明書ヲ添付スヘシ

第二條 移民ノ保證人ハ本縣内ニ住所ヲ有シ直接國稅五圓以上ヲ納メ且營利ノ目的ナクシテ左ノ事項ニ該當セサル者ニ限ル

一 無能力者

二 公權剝奪又ハ停止中ノ者

三 豫戒命令中ノ者

四 破産又ハ家資分散ノ宣告ヲ受ケ復權セサル者若クハ身代限リノ處分ヲ受ケ債務ノ辨償ヲ了ヘサル者

第三條 移民渡航許可ノ通達ヲ受ケタルトキハ其指定出發港ヲ管轄スル縣廳ニ出頭シ旅券ノ下附ヲ受クヘシ

移民渡航出願後指定出發港ヲ變更シ若ハ渡航ヲ中止シ又ハ死亡シタルトキハ其旨所轄警察官署ヲ經テ當廳ニ届出ヘシ但シ渡航許可ノ通達ヲ受ケタル後之ヲ中止シタルトキハ指定出發港ヲ管轄スル縣廳ニ届出ルコトヲ得

警察官署ヲ經テ當廳ニ届出ヘシ但シ渡航許可ノ通達ヲ受ケタル後之ヲ中止シタルトキハ指定出發港ヲ管轄スル縣廳ニ届出ルコトヲ得

移民渡航許可證ヲ受ケタル者渡航ヲ中止シ又ハ死亡シ若ハ歸國シタルトキハ許可證ヲ所轄警察官署ヲ經テ當廳ニ返納スヘシ

前二項中死亡ノ場合ハ戶籍法ノ届出義務者ヨリ之カ手續ヲ爲スヘシ

第四條 外國旅券ノ下附ヲ請フ者又ハ移民渡航ノ許可ヲ受ケムトスル者非戶主ナルトキハ戶主、未成年者ナルトキハ親權者(親權者親權ヲ行フ能ハサルトキハ后見人)有夫ノ婦ナルトキハ夫ノ連署ヲ要ス但シ特別ノ事情アル者ハ此ノ限ニアラス

第五條 外國旅券ノ下附ヲ受ケタル者ハ別記第五號書式ノ領收證ヲ差出スヘシ

(第一號書式)

外國旅券下附願

今般何々、目的ヲ以テ何國何地へ旅行致度ニ付旅券下附相成度別紙戶籍謄本(又ハ身分證明書類)相添此段願上候也

年 月 日

本籍地何府何市何町何番地
現住地

族稱身分(戶主家族ノ別家族ナルトキハ戶主ノ職業氏名及戶主トノ續柄ヲ記載スヘシ) 某  (片假名ヲ以テ傍訓ヲ附スヘシ)

何年何月何日生

知事宛

(第二號書式)

移民渡航願

一 渡航國及地名

一 渡航ノ目的

一 指定出發港名(横濱神戸又ハ長崎)「渡航ノ便宜法止ムヲ得サル場合ハ敦賀若ハ函館」

明治何年何月ヨリ向フ何年間渡航仕度候間御許可ノ上旅券下附相成度保證人(又ハ移民取扱人)連署ヲ以テ保證書納稅證書(保證人アルトキニ限ル)醫師診斷書戶籍謄本及寫眞二葉相添此段願上候也

年 月 日

右戶主(親權者又ハ後見人)

何 某 印

本籍地何府何市何町何番地
現住地 縣何郡何村何番地

族稱身分(前同斷)職業

何 某印(前同斷)

何年何月何日生

右戶主(親權者又ハ後見人)

何 某印

何府何市何町何番地

何 某印

何縣何郡何村何番地

同 保證人 何 某印

同 保證人 何 某印

知事宛

(第三號書式)

保證書

相當
收入印紙

(彩紋へ掛ケ
消印スヘシ)

住所

渡航者 何 某

右者今般何國何地へ渡航ノ儀出願仕候ニ就テハ拙者所有ノ財産ヲ目的トシ左ニ掲クル各項ニ對シ保證仕候也

一 渡航者航海中又ハ渡航地ニ於テ疾病其他困難ノ場合ニ陥リタルトキハ相當ノ救助ヲ與ヘ又ハ費金ヲ送附シテ歸國セシムヘシ

一 官ノ救助ヲ受ケ又ハ保護ニ依リ歸國シタルトキハ其一切ノ費用ヲ辨償スヘシ

右保證候也

年 月 日
知 事 宛

住 所
何 某 印

(第四號書式)

證 明 書

一 地租年額 何 圓
(又ハ)

何 府 何 市 何 町 何 村 何 番 地
何 某

一 所得稅年額 何 圓

一 土地何町何反步(家屋若干)所有ス

右者前記ノ適當管内ニ於テ一ヶ年以來納稅(且土地又ハ家屋ヲ所有)セルコトヲ證明ス

年 月 日 市町村長名 印

(第五號書式)

旅券受領證

一 圓
收入印紙 (消印ヲ要セス)

一 第何號外國旅券
右正ニ受領候也

一 葉

年 月 日 住 所
知 事 宛 何 某 印

●移民契約ノ認可ヲ請フ者契約書寫差出方

○縣令第八十二號 明治三十三年六月三十日
移民保護法第十三條ニ依リ移民契約ノ認可ヲ受ケントスルトキハ同法施行細則第十條ニ規定スル書類ノ外仍其ノ契約書寫三通ヲ差出スヘシ
本令ハ明治三十三年七月一日ヨリ施行ス

第三類
警察

第三編
衛生

●移民契約ノ認可ヲ請フ者契約書寫差出方

○縣令第八十二號 明治三十三年六月三十日
移民保護法第十三條ニ依リ移民契約ノ認可ヲ受ケントスルトキハ同法施行細則第十條ニ規定スル書類ノ外仍其ノ契約書寫三通ヲ差出スヘシ
本令ハ明治三十三年七月一日ヨリ施行ス

第三類
警察

第三編
衛生

第三編 衛生

第一章 醫師、藥劑師

●變死場檢視ノ節醫師出頭ノ件

○甲第百十四號 明治十八年七月二十日
變死場檢視ノ節及ヒ取締ニ關スル物件検査等ヲ要スル場合ニ於テ警察署又ハ分署ヨリ醫
業者へ檢斷方通達候節ハ速ニ出頭スヘシ
但本年(六月)甲第八十三號布達ハ取消ス
右布達候事

●本縣ノ處分ニ係ル諸願届ニ添ユル醫師 診斷書式

○告示第九十三號 明治二十四年五月十二日
本縣ノ處分ニ係ル諸願届ニ添ユル醫師診斷書ハ自今別紙書式ニ準シ差出スヘシ
(別紙)

其一

診 斷 書

府(縣)郡(市)町(村)番地住
族及職業

姓 名

年月日生

右ハ天資強實或ハ何々ニシテ嘗テ病ニ罹リシコトナシ或ハ何病ニ罹ル云々何年何月何日
來何症ヲ發シ爾來何々ノ症候(現症候ヲ精密ニ記載スヘシ)アルヲ以テ何症ト診斷シ何々劑ヲ與ヘ何々ノ
法ヲ施シ已ニ何週ヲ經過セシ處何々症増加スルニ由リ或ハ何々ノ症ヲ遺スニ由リ遂ニ危
篤ニ陥ル者或ハ所詮治癒ス可ラサル者ト及診斷候也

年 月 日

主任醫 姓

名 印

其二

診 斷 書

府(縣)郡(市)町(村)番地住
族及職業

姓 名

年月日生

右ハ何年何月何日山林樵伐ノ際或ハ何々ノ時何部ヲ打撲シ何骨ヲ折斷ス或ハ何ノ部ニ何
々ノ傷ヲ被リ即日何術及何綑帶ヲ施シ或ハ何々法ヲ施シ何々劑ヲ與ヘ何々ノ症ヲ治癒ス
ルヲ得ルモ何々症ヲ遺シ或ハ何々ノ症ヲ繼發スルニ依リ所詮治癒ス可ラサル者或ハ爾後
何ヶ月ヲ經サレハ治癒セサル者ト及診斷候也

年 月 日

主任醫 姓

名 印

府(縣)郡(市)町(村)番地住

●醫師藥劑師届出事項ノ件

- 縣令第六十一號 明治三十四年七月十八日
 本縣下醫師、藥劑師ハ開業セルト否トニ拘ハラヌ免狀寫ヲ添へ明治三十四年七月三十一日限り市町村長ニ届出ヘシ
- 醫師、藥劑師ニシテ左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ十日以内ニ市町村長ニ届出ヘシ但第四號及第五號ニ在テハ出發前ニ出發日ヲ記シ届出ヘシ
- 一 新ニ醫師、藥劑師トナリタル者
 - 二 他府縣ヨリ本縣へ轉籍若クハ寄留シタル者
 - 三 開業、休業、復業又ハ廢業シタル者
 - 四 他府縣へ轉籍若クハ寄留セムトスル者
 - 五 海外へ移住又ハ旅行セムトスル者
 - 六 海外ヨリ歸朝シタル者
 - 七 本縣内ニ於テ轉籍若クハ轉寄留シタル者但、居先他ノ市町村ニ係ルトキハ双方ノ市町村長ニ届出ヘキモノトス
 - 八 本籍變更、族稱變更、改姓又ハ改名シタル者
 - 九 失踪決定、失踪取消又ハ死亡シタル者

第一號及第二號ニ在テハ届書ニ免狀寫ヲ添付スヘシ
 第九號ノ失踪決定又ハ死亡ニ係ルトキハ戶籍法ニ依ル届出義務者ヨリ届出ヘキモノトス
 本令ニ違背シタル者ハ一圓九十五錢以下ノ料料ニ處ス

●醫師藥劑師ノ現在及動態調査方

○訓令甲第四十二號 明治三十四年七月十八日

郡役所 警察署
 警察分署 市役所
 町村役場

明治三十四年(六月)内務省令第十六號醫籍、藥劑師名簿編成並加除訂正規程第四條第二項ニ依リ警察官吏ヲシテ醫師、藥劑師ノ現在調査及動態調査ノ補助ヲ爲サシム
 市町村長ハ醫師、藥劑師ノ現在調査表又ハ動態調査票ニ記入濟ノ上ハ該發送期日內ニ警察署長(分署所轄ニ係ルトキハ警察分署長)ノ調査ヲ求メ然ル後發送スヘシ
 明治三十四年(七月)石川縣令第六十一號ニ依リ醫師、藥劑師ヨリ市町村長ニ提出スル届書ハ別冊ト爲シ一ケ年間之ヲ保存スヘシ

●醫師藥劑師開業免狀下附願ヲ受理シタルトキ取扱方

○訓令甲第二十六號 明治三十七年四月二十七日

郡役所 市役所

醫師藥劑師開業免狀下附願書ヲ受理シタルトキハ左ノ事項ニ據リ取扱ハルヘシ

- 一 醫術開業及藥劑師免狀ノ下附並再下附願書ヲ市役所町村役場ニ於テ受理シタルトキハ左ノ手續ヲ爲シタル後進達スヘシ
 - イ 願書面記載ノ族籍氏名生年月日等ハ戶籍簿ト照合シ其ノ相違ナキヲ認メタル上願書ニ戶籍簿照合濟ノ旨ヲ記入シ主任者檢印ヲ爲スヘシ
 - ロ 醫術開業及藥劑師試驗及第者ニ在リテハ其ノ及第證書ヲ醫師免許規則第三條第四條及藥品營業並藥品取扱規則第四十六條ニ該當スル者ニ在リテハ其卒業證書又ハ開業證書ヲ提出セシメ點檢審査ノ上其ノ相違ナキヲ(證書ノ眞偽ヲ調査スヘキハ勿論トス)認メタル上其ノ寫ニ本書對照濟ノ旨ヲ記入シ主任者檢印ヲ爲スヘシ
- 二 改氏名養子縁組其ノ他ノ爲及第若クハ卒業又ハ開業證書ト願書トノ住所氏名年齢ニ相違アルトキハ戶籍謄本ヲ添付セシムルコト

- 三 登録事項變更ノ爲開業免狀書換ヲ願フ者ニハ戶籍謄本ヲ添付セシムルコト
- 四 登録税及手数料額ハ過不足ナカラシムルコト
- 五 藥舖免狀書換ヲ願フ者ニ在テハ前各項ニ準據スルノ外猶左記ノ事項ヲ願書ノ餘白ニ記入スルコト
 - イ 藥舖開業試驗ニ依リ免狀ヲ得タルモノナレハ其ノ受験年月及受験地
 - ロ 學校卒業ニ依リ免狀ヲ得タルモノナレハ其ノ卒業年月及學校名

●醫師會規則施行細則

○縣令第十號 明治四十年三月二日

醫師會規則施行細則左ノ通定ム

醫師會規則施行細則

- 第一條 醫師會ノ設立認可申請書ニハ會則ノ外左ノ書類ヲ添付スヘシ
 - 一 總會議事録ノ謄本
 - 二 會員トナルヘキ者ノ氏名並總會議出席者ノ氏名ヲ記載シタル書類
- 醫師會規則第四條第五條ノ規定ニ依リ縣醫師會ヲ設立スル場合ニ在リテハ前項ノ外其ノ同意ヲ爲シタル郡市醫師會ニ於ケル總會議事録ノ謄本及出席者ノ氏名ヲ記載シタル

書類ヲ添付スルコトヲ要ス

第二條 會則ニハ左ノ事項ヲ規定スヘシ

一 名稱

二 目的

三 事務所ノ所在地

四 入會及退會ニ關スルコト

五 醫師會規則第八條第二項ニ依リ會員ト爲ルコトヲ得ヘキ者ニ關スルコト

六 醫師會規則第六條第一項ニ依リ議員ヲ以テ總會ヲ組織セムトスルトキハ議員ノ定員及其他ノ選任並任期ニ關スルコト

七 役員ノ名稱、定員及其ノ選任並任期ニ關スルコト

八 役員ノ職務權限ニ關スルコト

九 會議ニ關スルコト

十 會費ノ賦課、徵收、支出並決算ニ關スルコト

十一 會務處理ニ關スルコト

十二 會則違反者處分ニ關スルコト

十三 過怠金徵收ニ關スルコト

十四 醫師會ノ支部ヲ置クトキハ其ノ事務所ノ所在地、役員其ノ他必要ナルコト

十五 解散ニ關スルコト

十六 會則變更ニ關スルコト

十七 縣醫師會々則ニハ前各號ノ外議員ノ定員及其ノ選任並任期ニ關スルコト

右ノ他必要ト認ムル事項

第三條 會則變更ノ認可申請書並醫師會解散ノ届書ニハ其ノ變更又ハ解散ニ關スル議事

録ノ謄本及出席者ノ氏名ヲ記載シタル書類ヲ添付スヘシ

第四條 醫師會ニハ會員名簿又ハ議員名簿ヲ備置クヘシ

第五條 醫師會總會ハ毎年一回以上開會スヘシ知事ニ於テ必要ト認ムルトキハ臨時總會

ノ開會ヲ命スルコトアルヘシ

第六條 醫師會ヲ開會セムトスルトキハ其ノ議決スヘキ事項、開會ノ日時場所ヲ七日以

前ニ知事ニ届出ツヘシ但シ臨時緊急ノ場合ニハ開會前ニ届出ツルコトヲ得

第七條 醫師會ニ於テ診察料、手術料及藥價等ヲ定メムトスルトキハ其ノ額ヲ記シ知事

ノ認可ヲ受クヘシ其ノ之ヲ變更セムトスルトキ亦同シ

第八條 左ノ事項ハ七日以内ニ知事ニ届出ツヘシ
一 知事ノ認可ヲ受クヘキモノ及醫師會解散ノ議決ヲ除クノ外總テ醫師會ノ議決但シ

議事録ノ謄本ヲ添付スヘシ

二 役員ノ住所氏名並其ノ異動

三 議員ノ住所氏名並其ノ異動

四 會則違犯者ニ對シ處分ヲ爲シタルトキハ其ノ違犯者ノ住所氏名及違犯ノ事實並之ニ對スル處分

五 經費ノ收支決算

第九條 行政廳ハ吏員ヲシテ醫師會ニ臨席セシムルコトアルヘシ

第十條 郡市醫師會ヨリ知事ニ提出スヘキ書類ハ其ノ事務所所在地ノ郡市長ヲ經由スヘシ

附 則

第十一條 本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●齒科醫師會ニ關スル件

○縣令第十一號 明治四十年三月二日

齒科醫師會ニ關シテハ明治四十年三月石川縣令第十號醫師會規則施行細則ヲ適用ス

●醫師届出規則

(改正) 四一年九月縣令第八一號、四二年一二月同第七六號、四三年六月同第四五號

○縣令第七十六號 明治四十一年八月二十二日

醫師届出規則左ノ通定ム

醫師届出規則

第一條 醫師毎年五月ヨリ十一月迄ノ間ニ於テ下痢患者ヲ診察シ若クハ其ノ死躰ヲ檢案シタルトキハ十二時間以内ニ患者若クハ死者ノ住所氏名ヲ所轄警察官署ニ届出ツヘシ

第二條 明治三十三年九月内務省令第四十一號ニ依リ醫師ノ作爲スヘキ死亡診斷書、死躰檢案書及死産證書、死胎檢案書ノ様式並其ノ記載方ハ第一號書式ニ據ルヘシ

第三條 (削除)

第四條 (削除)

第五條 醫師肺結核、脚氣、ヂストマ十二指腸虫、微毒、軟性下疳、癩病ノ患者ヲ診察シ

若クハ其ノ死躰ヲ檢案シタルトキハ第四號書式ニ據リ半年表(自一月至六月)ヲ作り上

半期分ハ七月十日マテニ下半期分ハ翌年一月十日マテニ所轄警察官署ニ届出ツヘシ

第六條 醫師麻疹、流行性感冒、再歸熱ノ患者ヲ診察シ若クハ其ノ死躰ヲ檢案シタルト

キハ第五號書式ニ據リ前月分ヲ翌月五日マテニ所轄警察官署ニ届出ツヘシ

第七條 醫師中毒患者ヲ診斷治療シタルトキハ中毒ノ症候治療法患者ノ住所氏名年齢職業並毒物ノ品質明瞭ナルトキハ其ノ名稱ヲ記載シ直ニ警察官署ニ届出ツヘシ但毒物ノ品質明瞭ナラサルトキハ其ノ殘餘又ハ排泄物ヲ添付スヘシ

前項ノ場合ニ於テハ更ニ其轉歸ヲ届出ツヘシ

第八條 醫師狂水病患者ヲ診察シ若クハ其ノ死牀ヲ檢案シタルトキハ第六號書式ニ據リ二十四時間以内ニ患者若クハ死牀所在地ノ警察官吏ニ届出ツヘシ

前項ノ患者轉歸シタルトキハ第三號書式ニ據リ患者所在地ノ警察官吏ニ届出ツヘシ

第九條 醫師顆粒性結膜炎患者又ハ其ノ疑アル患者ヲ診察シタルトキハ自衛及豫防上必要ノ注意事項ヲ患者又ハ其ノ家人ニ指示シ且ツ第七號書式ニ據リ前月分ヲ翌月五日マテニ所轄警察官署ニ届出ツヘシ但シ市町村又ハ學校ニ於テ檢診上發見シタル患者ニ付テハ此限ニアラス

第十條 本則ニ依リ警察官署ニ差出スヘキ届書ハ巡查派出所同駐在所ニ差出スコトヲ得

第十一條 本則第一條第五條乃至第九條ニ違背シタル者ハ科料ニ處ス

附 則

第十二條 本則ハ發布ノ日ヨリ施行ス

第十三條 明治三十六年六月本縣令第四十三號及同三十七年(五月)本縣令第十四號醫師

取締規則ハ之ヲ廢止ス

(第一號書式)

第一 死亡診斷書、死體檢案書
死亡診斷書(死體檢案書)

- 一 氏 名
- 二 男女ノ別
- 三 出生ノ年月日
- 四 職業 (死亡者ノ職業)
(家計ノ主ナル職業)
- 五 病死、自殺、其他ノ變死中毒ノ別
- 六 病名 (自殺者ニ手段自殺者以外ノ變死者種類)
(在リテハ手段及中毒者ニ在リテハ種類)
- 七 發病ノ年月日 (變死者自殺者ニ在リテハ之ヲ除ク)
- 八 死亡ノ年月日時
- 九 死亡ノ場所

右證明(檢案)候也

年 月 日

住 所

醫 師 何

某 印

記載方

- 一 戸籍上ノ氏名ヲ記スヘシ自殺者變死者等ニシテ若シ氏名明カナラサルトキハ不詳ト記スヘシ
- 二 經久ノ死體ニシテ男女ノ區別明瞭ナラサルトキハ不詳ト記スヘシ
- 三 自殺者變死者等ニシテ出生ノ年月日明瞭ナラサルトキハ推定年齢何歳ト記シ若シ推定シ能ハサル場合ニ於テハ不詳ト記スヘシ
- 四 死亡者家計ノ主働者ナル場合ニ於テハ死亡者ノ職業ノミヲ記シ、死亡者若シ幼者、老者、婦女等ニシテ一定ノ職業ナキ場合ニ於テハ家計ノ主ナル職業ヲ記シ死亡者ノ職業ナシト記スヘシ又死亡者一定ノ職業アルモ他家計ノ主働者アル場合ニ於テハ死亡者ノ職業ト家計ノ主ナル職業トヲ併記スヘシ
- 五 總テ職業名ハ商又ハ工等單一ノ汎種ニ據ラスシテ何商又ハ何工等成ルヘク細密ニ記スヘシ自殺者、變死者等ニシテ其ノ職業明カナラサル場合ニ於テハ不詳ト記スヘシ
- 六 病死ナルヤ自殺ナルヤ若クハ自殺以外ノ變死ナルヤ中毒ナルヤノ別ヲ記スヘシ
- 七 病死ノ場合ニ於テハ其ノ死因トナリタル病名ノ外何等ノ事項ヲモ記スヘカラス
- 八 同時ニ二種以上ノ疾病ニ侵サレ死亡シタル者ニシテ一ノ原病アリテ他ハ繼發病若クハ胎後病ナルトキハ其ノ原病名ノミヲ記シ又各種獨立ノ疾病ナルトキハ主トシテ死亡ノ原因トナリタル病名ノミヲ記スヘシ若シ以上ノ區別ヲ爲シ能ハサルトキハ各種ノ病名ヲ併記スヘシ
- 九 全ク死因タル病名ヲ診定シ能ハサルトキハ不詳ト記スヘシ
- 一〇 自殺者ニ在テハ其ノ自殺ノ手段例之ハ縊死、刀傷、入水等ノ別ヲ記スヘシ
- 一一 自殺以外ノ變死者及中毒者ニ在テハ其ノ種類例之ハ溺死、壓死、燒死、他殺、河豚中毒、「アルコール」中毒等ノ別ヲ記スヘシ
- 一二 病死者ニ在テハ死因トナリタル疾病ノ發病年月日ヲ記スヘシ若シ明瞭ナラサルトキハ推定何年何月何日ト記スヘシ又全ク推定シ能ハサル場合ニ於テハ不詳ト記スヘシ
- 一三 病死、自殺、變死、中毒ニ拘ハラヌ死亡ノ年月日時ヲ記スヘシ若シ自殺者、變死者等ニシテ死亡ノ時明瞭ナラサルトキハ推定シタル年月日時ヲ記スヘシ此場合ニ於テハ推定ノ二字ヲ冠セシムルヲ要ス
- 一四 死亡ノ場所ハ郡市町村大字名及番地(番戶、番屋敷)ヲ記スヘシ若シ自殺者、變死者等ニシテ漂著セル死體ナルトキハ其ノ漂著シタル場所ヲ記スヘシ此場合ニハ其ノ下ニ漂著ト記スヲ要ス

- 一 胎後病ナルトキハ其ノ原病名ノミヲ記シ又各種獨立ノ疾病ナルトキハ主トシテ死亡ノ原因トナリタル病名ノミヲ記スヘシ若シ以上ノ區別ヲ爲シ能ハサルトキハ各種ノ病名ヲ併記スヘシ
- 二 全ク死因タル病名ヲ診定シ能ハサルトキハ不詳ト記スヘシ
- 三 自殺者ニ在テハ其ノ自殺ノ手段例之ハ縊死、刀傷、入水等ノ別ヲ記スヘシ
- 四 自殺以外ノ變死者及中毒者ニ在テハ其ノ種類例之ハ溺死、壓死、燒死、他殺、河豚中毒、「アルコール」中毒等ノ別ヲ記スヘシ
- 五 病死者ニ在テハ死因トナリタル疾病ノ發病年月日ヲ記スヘシ若シ明瞭ナラサルトキハ推定何年何月何日ト記スヘシ又全ク推定シ能ハサル場合ニ於テハ不詳ト記スヘシ
- 六 病死、自殺、變死、中毒ニ拘ハラヌ死亡ノ年月日時ヲ記スヘシ若シ自殺者、變死者等ニシテ死亡ノ時明瞭ナラサルトキハ推定シタル年月日時ヲ記スヘシ此場合ニ於テハ推定ノ二字ヲ冠セシムルヲ要ス
- 七 死亡ノ場所ハ郡市町村大字名及番地(番戶、番屋敷)ヲ記スヘシ若シ自殺者、變死者等ニシテ漂著セル死體ナルトキハ其ノ漂著シタル場所ヲ記スヘシ此場合ニハ其ノ下ニ漂著ト記スヲ要ス

第二 死産證書、死胎檢案書

死産證書(死胎檢案書)

- 一 父ノ氏名(私生子ノ場合 母ノ氏名)
- 二 父ノ出生年月日(私生子ノ場合ニテハ 母ノ出生年月日ヲ除ク)
- 三 母ノ出生年月日
- 四 父ノ職業(私生子ノ場合 母ノ職業)
- 五 妊娠ノ月數
- 六 分娩ノ年月日時
- 七 分娩ノ場所
- 八 死胎ノ男女ノ別
- 九 死胎ノ嫡出子、庶子、私生子ノ別

右證明(檢案)候也

年 月 日 住 所 醫師 何 某 印

- 一 死胎ノ嫡出子ナルカ又ハ庶子ナルトキハ其ノ父ノ氏名ヲ記スヘシ若シ私生子ナル

トキハ其ノ母ノ氏名ヲ記スヘシ

- 二 死胎ノ嫡出子ナルカ又ハ庶子ナルトキハ其ノ父ノ出生ノ年月日ヲ記スヘシ

- 三 死胎ノ何タルニ拘ハラズ其ノ母ノ出生ノ年月日ヲ記スヘシ

- 四 死胎ノ嫡出子ナルカ又ハ庶子ナルトキハ其ノ父ノ職業ヲ記スヘシ若シ私生子ナル

トキハ其ノ母ノ職業ヲ記スヘシ

總テ職業名ハ商又ハ工等單一ノ汎稱ニ據ラスシテ何商又ハ何工等成ルヘク細密ニ記スヘシ

- 五 妊娠ノ月數ハ受孕ヨリ分娩ニ至ル妊娠ノ經過ニシテ死胎ハ約四週日ヲ一月ト見做

シタル第幾月目ニ該當スルカヲ記スヘシ

- 六 分娩ノ年月日時ヲ記スヘシ若シ明瞭ナラサルトキハ推定シタル年月日時ヲ記スヘシ

此場合ニハ推定ノ二字ヲ冠セシムルヲ要ス

- 七 分娩ノ場所ハ郡市町村大字名及番地(番戶、番屋敷)ヲ記スヘシ

- 八 死胎ノ男女孰レニ屬スルカヲ記スヘシ若シ鬼胎等ニ在テ男女ノ區別ヲ爲シ能ハサル

ル場合ニ於テハ其ノ事由ヲ添テ不詳ト記スヘシ

- 九 死胎ハ嫡出子ナルカ又ハ庶子ナルカ若クハ私生子ナルカノ別ヲ記スヘシ

(第二號書式)

傳染病患者通知

何府縣何郡市町村字番地住(寄留)
(士族)(平民)何某父母兄弟姊妹妻子

病名	氏名	職業年齡	發病場所	發病	初診	診斷
			發病場所	月 日	月 日	月 日 時

年 月 日

何府縣何郡市町村何番地居住或同居等
醫師 何 某 印

(第三號書式)

傳染病患者轉歸通知

何府縣何郡市町村何番地住(寄留)
(士族)(平民)何某父母兄弟姊妹妻子

何病 (何月何日發病)

職業 何 某 年 齡

何月何日(全治)(死亡)其他事故云々候也

何府縣何郡市町村何番地居住或同居等

年 月 日

醫師 何 某 印

市町村長宛

(第四號書式)

明治 年 自 月 至 月 肺結核外六病患者半年表

肺結核	病名		患者	全治	死亡	未治	轉醫	轉歸不明
	男	女						
			越患者					
			本期中患者					
			計					

右及御届候也

脚氣	チストマ	十二指腸蟲	微毒	軟性下疳	痲病	計

年月日

住 所
醫 師 氏

名 印

(第五號書式)

町 村 字 名	越 患 者		本 月 中 患 者	全 治	死 亡	未 治	不 轉 明 歸
	男	女					

右及御届候也

年 月 日

警 察 官 署 宛

住 所
醫 師 氏

名 印

(第六號書式)

恐水病患者發生届

患者ノ住所
患者ノ職業 氏 名
生年月日

發病ノ場所	發病ノ月日	初診ノ日時	病獸ニ咬傷セラレタル月日	被咬傷ノ部位局部ノ症候	被咬傷當時ノ處置

右及御届候也

住所

年 月 日

警察官署宛

醫師 氏 名 印

(第七號書式)

診斷月日	轉歸月日	轉歸不明	住 所	氏 名	年 齡

右及御届候也

年 月 日

警察官署宛

住 所
醫師 氏 名 印

●醫師流行性腦脊髓膜炎若ハ其疑アル患者ヲ診斷シ又ハ其死體ヲ檢案シタルト
キ届出方

○縣令第二十三號 明治三十八年四月二十九日

醫師流行性腦脊髓膜炎若クハ其ノ疑アル患者ヲ診斷シ又ハ其ノ死體ヲ檢案シタルトキハ十二時三以內ニ患者若クハ死者ノ住所氏名ヲ患者若クハ死體所在地ノ警察官吏又ハ市町村長ニ届出ヘシ其ノ轉歸ノ場合亦同シ
本令ニ違背シタル者ハ科料ニ處ス
本令ハ發布ノ日ヨリ施行ス

●齒科整骨科專門醫師ハ種痘術ヲ許サ、
ル件

○甲第十三號 明治十八年一月二十八日

齒科整骨科專門醫師ハ種痘術ヲ許サス
右布達候事

第二章 產婆

●產婆規則施行細則

(改正) 三三年一月二日縣令第一三六號、四一年八月同第六三號、四二年一月二日同第七六號

○縣令第二十七號 明治三十三年三月二十二日

產婆規則施行細則左ノ通相定ム

但明治二十一年(七月)石川縣令第九十七號產婆取締規則ハ廢止ス

產婆規則施行細則

第一條 產婆規則ニ依リ當廳ニ差出スヘキ書類ハ郡市役所町村役場及警察官署ヲ經由スヘシ

第二條 產婆ハ第一號雛形ノ標札ヲ門戸ニ掲出スヘシ

第三條 產婆規則第七條但書ニ依リ臨時救急ノ手當ヲ施シタル時ハ其狀況ヲ診療醫ニ通告スヘシ

第三條ノ二 產婆ハ第三號書式ニ依リ帳簿ヲ製シ相當欄内ニ記入シ且十箇年問之ヲ保存スヘシ

前項ノ帳簿ハ警察官吏ニ於テ隨時檢閱スルコトアルヘシ

第四條 妊娠四箇月以上ニシテ死産セシ者ヲ取扱ヒタルトキハ第二號書式ノ死産證ヲ其家人ニ付與スヘシ

墮胎ノ疑アルモノハ速ニ警察官吏ニ申告シ死産證ヲ付與スヘカラス

第五條 産婆規則第十九條ニ依リ産婆免許ヲ受ケムトスル者ハ市町村長ノ與印アル願書ニ産婆若クハ醫師ノ證明アル履歷書ヲ添付スヘシ

第六條 第三條第三條ノ二第一項第四條第二項ニ違背シタル者ハ壹圓五拾錢以下ノ科料ニ處ス

(第一號雛形)

木製

産婆

何某

寸五巾

縦一尺五寸

(第二號様式)

死産證書

(死胎檢案書)

一 父ノ氏名 (私生子ノ場合母ノ氏名)

二 父ノ出生ノ年月日 (私生子ノ場合ニ在テハ之ヲ除ク)

三 母ノ出生ノ年月日

四 父ノ職業 (私生子ノ場合母ノ職業)

五 妊娠ノ月數

六 分娩ノ年月日時

七 分娩ノ場所

八 死胎ノ男女ノ別

九 死胎ノ嫡出子、庶子、私生子ノ別

右證明檢案候也

年月日

住所

産婆何

某印

記載方

- 一 死胎ノ嫡出子ナルカ又ハ庶子ナルトキハ其父ノ氏名ヲ記スヘシ若シ私生子ナルトキハ其母ノ氏名ヲ記スヘシ
- 二 死胎ノ嫡出子ナルカ又ハ庶子ナルトキハ其父ノ出生ノ年月日ヲ記スヘシ
- 三 死胎ノ何タルニ拘ハラズ其母ノ出生ノ年月日ヲ記スヘシ
- 四 死胎ノ嫡出子ナルカ又ハ庶子ナルトキハ其父ノ職業ヲ記スヘシ若シ私生子ナルトキハ其母ノ職業ヲ記スヘシ
- 五 總テ職業名ハ商又ハ工等單一ノ汎稱ニ據ラスシテ何商又ハ何工等成ルヘク細密ニ記スヘシ
- 六 妊娠ノ月數ハ受孕ヨリ分娩ニ至ル妊娠ノ經過ニシテ死胎ハ約四週日ヲ一月ト看做シ第幾月目ニ該當スルカヲ記スヘシ
- 七 分娩ノ年月日時ヲ記スヘシ若シ明瞭ナラサルトキハ推定シタル年月日時ヲ記スヘシ此場合ニハ推定ノ二字ヲ冠セシムルヲ要ス
- 八 分娩ノ場所ハ郡市區町村大字名及番地(番戶、番屋敷)ヲ記スヘシ
- 九 死胎ノ男女孰レニ屬スルカヲ記スヘシ若シ鬼胎等ニシテ男女ノ區別ヲ爲シ能ハサル場合ニ於テハ其事由ヲ添テ不詳ト記スヘシ

九 死胎ハ嫡出子ナルカ又ハ庶子ナルカ若クハ私生子ナルカノ別ヲ記スヘシ
(第三號書式)

初診 月日	豫定分 娩月日	分娩死産流産 ノ別及月日時	男女ノ別 及氏名	妊婦ノ住所	妊婦ノ氏名	年 齡

●産婆試験規則施行細則

(改正) 四一年八月縣令第六四號
○縣令第二十八號 明治三十三年三月二十二日

産婆試験規則施行細則

- 第一條 産婆試験ハ毎年春秋二回之ヲ舉行ス但其期日及場所ハ一ヶ月前之ヲ告示ス
- 第二條 産婆試験ヲ受ケムトスル者ハ試験期日十日前迄ニ市役所町村役場及警察官署ヲ經由シ出願スヘシ

第三條

產婆試驗願書ハ本人之ヲ自書スヘシ

第四條

(様式)

產婆試驗願

本籍地
 現住所
 族籍
 戸主トノ關係(某姉妹子女等)

氏名

生年月日

私儀明治何年何月施行ノ產婆(實地)試驗相受ケ度候間別紙規定ノ書類相添此段相願候也

年 月 日

石川縣知事宛

氏名印

●石川縣產婆講習所規則

(改正) 三六年三月縣令第二五號

○縣令第十一號 明治三十六年二月七日

石川縣產婆講習所規則左ノ通定ム

石川縣產婆講習所規則

第一條 本所ハ金澤市内ニ設置シ產婆ニ關スル學術ヲ教授シ產婆ヲ養成スル所トス

第二條 講習年限ハ一箇年トシ之ヲ左ノ三學期ニ分ツ

第一學期 四月一日ヨリ七月二十日マテ

第二學期 八月二十一日ヨリ十二月二十五日マテ

第三學期 翌年一月十一日ヨリ三月三十一日マテ

第三條 休業定日左ノ通

一 日曜日

一 大祭祝日

一 夏期休業 七月二十一日ヨリ八月二十日マテ

一 冬期休業 十二月二十六日ヨリ翌年一月十日マテ

第四條 講習科目左ノ通

第一學期

- 一 解剖學大意
- 一 生理學大意
- 一 胎生學大意

第二學期

- 一 正規產褥ノ經過及褥婦生兒ノ看護法
- 一 異常ノ妊娠分娩及其ノ取扱法
- 一 妊婦、產婦、褥婦ノ疾病
- 一 生兒ノ疾病

第三學期

- 一 模型演習
- 一 產科臨床講義
- 一 消毒方法
- 一 產婆ニ關スル法令
- 一 產婆ノ心得

第五條

試験ハ學期試験卒業試験ノ二種トシ學期試験ハ每學期ノ終リニ卒業試験ハ第三學期試験ノ後ニ於テ之ヲ施行ス

第六條

講習生ハ左ノ資格ヲ有スル者ヨリ募集ス

- 一 滿十八年以上三十年以下ノ女子ニシテ講習中家事ニ係累ナキ者
- 一 身體強壯ニシテ品行方正ナル者
- 一 高等小學第二級修業以上若ハ之ト同等以上ノ學力ヲ有スル者
- 一 破廉耻罪ヲ犯シタルコトナキ者

第七條

講習生志願者ハ第一號様式ニ依リ郡市町村長ヲ經テ知事ニ願出ヘシ

第八條

入所ノ許可ヲ得タル者ハ第二號様式ノ誓約書ヲ知事ニ差出スヘシ

第九條

講習生募集ノ期日及人員ハ其ノ時々之ヲ告示ス

第十條

講習生ハ公認寄宿舎ニ宿泊セシム但自宅ヨリ通學スル者ハ此ノ限ニアラス

第十一條

講習生ハ實習ノ爲宿直セシムルコトアルヘシ

第十二條

講習生ニハ講習中手當金ヲ支給ス但疾病ノ爲全月就學セサル者ニハ其ノ月分

ノ手當金ヲ支給セス

第十三條 講習生ハ講習修了後一ケ年内ニ於テ產婆試験ヲ受ケ試験合格後三ケ年間本縣内ニ於テ產婆ノ業務ニ従事スヘキ義務アルモノトス

第十三條 講習中素行修マラス又ハ疾病其ノ他ノ事故ニ依リ成業ノ見込ナシト認メタル者ハ退所ヲ命スルコトアルヘシ

第十四條 講習生自己ノ情願ニ因ルカ又ハ素行修マラスシテ退所セシメラレタル者及正當ノ事由ナクシテ第十二條ノ義務ヲ了セサル者ニハ修業中支給セシ手當金ヲ返納セシムヘシ

第十五條 講習生豫定人員ニ充タザルトキハ開所一ヶ月以内ニ在テハ入所ヲ許可スルコトアルヘシ

第十六條 第十一條ノ手當金給與ノ講習生豫定人員ニ充チタル場合ト雖モ將來本縣内ニ於テ產婆ノ業務ニ從事セムトスル者ニハ自費講習生トシテ入所ヲ許スコトアルヘシ但自費講習生ニ在テハ年齢十八年ニ滿タサルモノト雖モ許可スルコトアルヘシ

第十七條 產婆ニシテ本所長ノ許可ヲ得タル者ハ講習ヲ傍聽スルコトヲ得

第十八條 講習生ノ取締ニ關スル規程ハ別ニ之ヲ定ム

入所願

私儀

產婆講習生志願ニ付入所ノ儀御許可相成度別紙履歷書相添此段相願候也

住所族籍(戸主ニアラサル者ハ戸主トノ續柄ヲ記載スヘシ)

氏名印

生年月日

知事宛

(產婆講習規則第十六條ニ依リ講習生タラムトスル者ハ願書ノ冒頭ニ「產婆講習規則第十六條ニ依リ」ノ十三字ヲ加フヘシ)

(第二號様式)

收入印紙

誓約書

私儀

今般產婆講習所入所ノ儀御許可相成候ニ付テハ同所規則ヲ堅ク遵守致スヘク且卒業ノ上ハ本縣下ニ於テ滿三ヶ年間產婆開業ノ義務ヲ果タシ可申保證人連署誓約書如件

住所族籍

氏名印

年月日

(未成年者ハ戸主又ハ後見人及有夫ノ婦ハ夫ノ連署ヲ要ス)

右保證人
住所族籍

氏名印

知事宛

●產婆名簿登錄願取扱方ノ件

○訓令甲第十三號 明治三十八年六月二日

郡役所 市役所
町村役場

產婆名簿ノ登錄願ヲ受ケタルトキハ產婆名簿登錄規則ニ基キ審査シタル外願書面記載ノ族籍氏名生年月ハ戸籍簿ト照合シ其相違ナキヲ認メタル上願書ニ戸籍簿照合濟ノ旨ヲ記入シ主任者ノ檢印ヲ爲シタル後進達スヘシ

●產婆組合設置規則

○縣令第五十號 明治四十一年六月十二日

產婆組合設置規則左ノ通相定ム

產婆組合設置規則

- 第一條 產婆ハ其ノ業務ニ關スル學術ヲ研究シ且ツ其ノ改良發達ヲ圖ル爲メ組合ヲ設置シ規約ヲ定メ知事ノ認可ヲ受クヘシ其ノ之ヲ變更増補セムトスルトキ亦同シ
- 第二條 組合ハ警察官署長ニ於テ之ヲ監督ス其區域ハ管轄警察官署ノ區域ニ依ル但シ土地ノ狀況ニ依リ知事ノ認可ヲ得テ數個ノ組合ヲ設クルコトヲ得
- 第三條 組合ハ會長一名幹事若干名ヲ互選シ其ノ氏名住所ハ選舉ノ都度知事ニ届出ヘシ
- 第四條 組合ニ於テハ毎年二回以上組合會ヲ開催シ醫師ニ囑託シ毎回五日以上產科學ニ關スル講習ヲ受ケ且ツ業務上ニ關聯スル法令ヲ研究スヘシ
- 第五條 前條集會ノ當日故ナク缺席スルコトヲ得ス若シ病氣又ハ事故ノ爲メ缺席セムトスルトキハ其ノ當日會長ヲ經テ管轄警察官署ニ届出ヘシ
- 第六條 開業產婆ハ所屬ノ組合ニ加入シ其ノ會ニ出席スル義務アルモノトス尙他府縣ヨリ出張所ヲ設ケタルモノニ付テモ亦同シ
- 第七條 會長ハ毎年二回七月一月六ヶ月間ニ於ケル開會度數竝ニ出席及缺席產婆ノ住所

氏名ヲ知事ニ届出ヘシ

第八條 組合ニ關スル一切ノ費用ハ組合産婆ノ負擔トス

第九條 本則ニ依リ知事ニ差出スヘキ願届ハ總ヘテ管轄警察官署ヲ經由スヘシ

（以下は非常に淡く、ほとんど不可読な文字が並んでいる）

第三章 藥種商製藥者及藥品取締

●藥種商製藥者取締細則

（改正） 四一年七月縣令第五八號、四二年三月同第一二號、同年一二月同第七六號

○縣令第十五號 明治四十一年三月十七日

明治二十三年（二月）本縣令第十一號藥種商及製藥者取締細則左ノ通改正ス

藥種商製藥者取締細則

第一條 藥種商、製藥者タラムトスル者ハ族籍住所氏名生年月日（法人ニ在リテハ其名稱事務所定款ヲ添付スヘシ）ヲ記シタル願書ニ履歷書ヲ添付シ知事ニ願出免許鑑札ヲ受クヘシ

第二條 藥種商ハ藥品ノ取扱ニ慣熟シ製藥者ハ製藥ニ關スル技能ヲ有スルモノト認ムル者ニアラサレハ免許セス

第三條 藥種商製藥者ニシテ支店ヲ設ケムトスルトキハ管理人ヲ定メ其履歷書ヲ添ヘ當應ニ願出許可ヲ受クヘシ管理人ヲ變更シタルトキハ五日以内ニ其旨届出ヘシ

第四條 藥種商、製藥者ハ免許鑑札ヲ毀損亡失シ又ハ鑑札記載ノ事項ニ異動ヲ生シタルトキハ其事由ヲ記シ十日以内ニ鑑札ヲ添ヘ書換又ハ訂正ヲ當應ニ願出ヘシ

第五條 藥種商、製藥者廢業、死亡、失踪又ハ他管下ニ移轉シタルトキハ十日以内ニ當
應ニ届出鑑札ヲ返納スヘシ但シ死亡、失踪ノ場合ハ戶籍法ニ依ル届出義務者ヨリ其手
續ヲナスヘシ

第六條 藥種商、製藥者ハ第一號罐形ノ標札ヲ店頭ニ掲クヘシ

第七條 藥種商、製藥者ハ醫療用藥品ト醫療用外藥品トヲ區別シテ貯藏陳列シ工業用藥
品ハ容器又ハ包紙ニ其ノ旨ヲ明記スヘシ

第八條 藥種商ハ毒藥劇藥ノ封緘又ハ容器ヲ開クコトヲ得ス

第九條 製藥者ハ自己ノ製造シタル藥品ヲ適當ノ容器ニ收メ之ニ其ノ據ルトコロノ藥局
方名及自己ノ住所氏名ヲ記シタル封緘ヲ爲スヘシ藥種商ニシテ毒藥劇藥ヲ除ク外藥品
ノ容器ヲ變更シタルトキハ其ノ新ナル容器ニ付亦同シ但シ衛生試驗所若クハ藥劑師化
學者會社等ニシテ醫療用藥品ノ検査證明ヲ業務トスルモノ、検査ヲ受ケ其ノ封緘アル
モノハ此ノ限ニアラス

第十條 藥種商、製藥者ニシテ藥品ノ容器ニ印紙ヲ貼付スルトキハ衛生試驗所ノ検査印
紙ニ紛ハシキモノヲ用フヘカラス

第十一條 藥種商、製藥者ニシテ一ヶ年以上休業シ又ハ六ヶ月以上行衛不明トナリタル
トキハ免許ノ効ヲ失フ

第十二條 製藥者ハ帳簿ヲ備ヘ製藥ノ都度其品名及製造高ヲ記入スヘシ

前項ノ帳簿ハ三年間之ヲ保存スヘシ

第十三條 製藥者ハ第二號様式ニ依リ一ヶ年間製造セシ各藥品ノ數量及販賣高ヲ統計シ
翌年一月三十一日限り届出ヘシ

第十四條 藥劑師ニシテ藥局ヲ開設セス單ニ藥品ノ製造又ハ販賣ヲ爲サムトスル者ハ本
則第一條ノ手續ニ準シ免狀寫ヲ添ヘ當廳ニ届出ヘシ

本則第二條第六條第八條第九條ノ規定ハ前項ノ藥劑師ニ之ヲ準用ス

第十五條 藥種商指定藥品ノ販賣授與ヲ廢止シタルトキハ十日以内ニ當廳ニ届出ヘシ

第十六條 本則第十二條ノ藥劑師及藥種商、製藥者ニシテ一ヶ月以上休業シタルトキハ
十日以内ニ當廳ニ届出ヘシ其復業シタルトキ亦同シ

第十七條 明治二十二年(三月)法律第十號藥品營業並藥品取扱規則、明治四十年(十二
月)內務省令第二十二号内務省令第二十七號並ニ本則ニ依リ當廳ニ差出スヘキ願届書
ハ市役所、町村役場、及警察官署ヲ經由スヘシ

第十八條 第三條乃至第七條第九條第十條第十二條乃至第十六條ニ違背シタル者ハ二圓
以下ノ科料ニ處ス

附則

第十九條 明治四十年(四月)法律第三十五號附則第二項ニ依ル届書ニハ市町村長ノ證明

ヲ受ケ且免許鑑札寫ヲ添付スヘシ
 第二十條 本則ハ發布ノ日ヨリ施行ス
 第二十一條 此細則施行以前ニ付與シタル藥種商、製藥者ノ免許鑑札ハ本則第一條ノ免許ヲ得タルモノト同一ノ効力ヲ有ス
 第二十二條 明治二十三年石川縣令第十一號藥種商及製藥者取締規則ハ之ヲ廢止ス

(第一號錐形)

藥種商、製藥者鑑札

長サ貳尺五寸

尺壹幅

藥種商	(製藥者)	何	某
-----	-------	---	---

(第二號樣式)

明治 年 藥品製造販賣高表

藥名	製造	高	販賣	
			數量	價格

●藥品營業者等心得方

○縣令第五十六號 明治二十三年六月二十一日
 明治二十二年(三月)法律第十號藥品營業並藥品取扱規則第二十六條及第二十七條ノ義ハ直チニ醫藥ニ供用スヘキ藥品ニ適用スヘキモノニシテ左記ノ如キ藥品ハ該兩條ニ依ルヘキモノニ無之然レトモ毒劇藥ニ係ルモノハ右規則中毒劇藥取扱ノ各本條ニ依ル義ト心得

ヘシ

一 製藥原料

藥用製劑（例へハ水劑、硬膏劑、越幾斯篤拉屈篤劑、揮發油類、丸劑、含利別劑、丁幾丟兒劑、錠劑、軟膏劑、酒劑、浸劑、擦劑、涎劑、（臨時可製藥等）ヲ除ク）

一 繪具染料

一 飲食物用

一 職工用、化學試驗用

一 外國輸出藥品

●消毒藥販賣ニ關スル件

○縣令第六十四號 明治二十三年八月八日

毒劇藥ノ販賣授與ハ客年法律第十號藥品營業並藥品取扱規則ニヨリ取扱フヘキトコロ傳染病流行ノ際ニ於テハ其消毒藥ニ調製シタルモノニ限リ右法律ニ據ラス藥劑師藥種商ニ於テ販賣差許スヘクニツキ出願許可ヲ受クヘシ

●藥品監視員携帶證票ノ件

○告示第百五十號 明治二十二年十月九日

本年（三月）法律第十號ニ據リ藥品監視員巡視ノ際ハ左記ノ證票ヲ携帶セシム

（紙製）

曲尺貳寸貳分

表

藥品監視員之證

裏
石川縣

印

第四章 鍼灸術按摩及入齒々拔

●入齒々拔營業取締規則

(改正) 二三年一月縣令第八七號、二七年五月同第一六號、同年六月同第三二號、三二年六月同第三九號

○甲第二百二十九號 明治十八年八月五日

入齒々拔營業者取締規則左ノ通相定來九月一日ヨリ施行ス

入齒々拔營業取締規則

第一條 入齒々拔營業ハ免許鑑札ヲ所持スルモノニ限ル

第二條 廢業或ハ死亡及ヒ他管内へ轉籍寄留ノ節ハ速ニ鑑札ヲ返納スヘシ

第三條 改氏名若クハ管内轉籍ノ節ハ其都度申出鑑札ニ異動檢印ヲ受クヘシ

第四條 他府縣ヨリ轉籍寄留シ營業セント欲スルモノハ免狀寫ニ履歷書相添へ願出スヘシ

第五條 免許鑑札ヲ毀損又ハ亡失セシトキハ書換ヲ願出ヘシ

第六條 入齒々拔ノ外ニ藥劑ヲ投シ又ハ處方ヲ指示スル等總テ醫師ニ紛敷所業ヲ爲スヲ

得ス

第七條 醫師施療中ノ患者ニ對シ其醫ノ指圖ヲ受ケスシテ施術スルヲ許サス

第八條 第一條ニ違犯シタルモノハ壹圓以上壹圓九拾五錢以下ノ科料又ハ三日以上十日以下ノ拘留ニ處ス第六條第七條ニ違犯シタルモノハ五拾錢以上壹圓以下ノ科料ニ處ス

第九條 入齒々抜營業者其業ニ關シ犯罪若クハ不正ノ行爲アリタルトキハ其業ヲ停止又ハ禁止スルコトアルヘシ

右布達候事

●入齒々抜口中療治及接骨術新規開業ニ關スル件

○甲第百二十七號 明治十八年八月五日

入齒々抜及口中療治及接骨術ヲ新規開業セントスルモノハ明治十六年(十月)太政官第三十四號布達ニ據リ醫術開業試驗ヲ經ヘシ

●鍼灸按摩術營業取締規則

○縣令第十七號 明治三十三年三月七日

鍼灸及按摩術營業取締規則左ノ通定ム

但明治十八年(八月)石川縣甲第百三十號ハ廢止ス

- 鍼灸及按摩術營業取締規則
- 第一條 鍼灸術又ハ按摩術營業ヲ爲サムトスル者ハ修業履歷書ヲ添へ願出免許鑑札ヲ受クヘシ但一ヶ年以上修業シタル者ニアラサレハ免許鑑札ヲ付與セス
 - 第二條 他府縣ニ於テ免許鑑札ヲ受ケタル者本縣ニ轉籍又ハ寄留シ營業セムトスルトキハ免許鑑札寫及履歷書ヲ添へ願出免許鑑札ヲ受クヘシ
 - 第三條 外出就業ノ際ハ免許鑑札ヲ携帯スヘシ
 - 第四條 免許鑑札ハ他人ニ貸與スヘカラス
 - 第五條 鍼灸術及按摩術營業者ハ醫師ニ紛ハシキ所業ヲ爲スヘカラス
 - 第六條 左ニ該當スルトキハ患者ノ需メアリト雖モ施術ヲ爲スヘカラス
 - 一 醫師ヨリ鍼灸及按摩ノ施術ヲ禁シタル患者
 - 二 施術ニ依リ病勢ヲ増進セシムルノ虞アリト認メタル患者
 - 第七條 免許鑑札ヲ毀損亡失シ又ハ住所氏名ヲ變更シ若クハ管内移轉ノトキハ免許鑑札

ノ更正又ハ再渡ヲ出願スヘシ

第七條 廢業又ハ他府縣へ移轉シタル者ハ十日以内ニ免許鑑札ヲ返納スヘシ
失踪又ハ死亡シタルトキハ戶籍法ニ依ル届出義務者ヨリ前項期間内ニ免許鑑札ヲ返納
スヘシ

第八條 此規則ニ依ル願届ハ管轄警察官署ヲ經テ縣廳ニ差出スヘシ

第九條 無免許ニシテ營業ヲ爲シタル者及第四條ニ違背シタル者ハ壹圓以上壹圓九拾五
錢以下ノ料料又ハ二日以上十日以下ノ拘留ニ處ス

第三條ニ違背シタル者ハ五錢以上五拾錢以下ノ料料ニ處ス

第十條 鍼灸術及按摩術營業者ハ業ニ關シ犯罪若クハ不正ノ行爲アリタルトキハ前條處
罰ヲ受クルノ外其業ヲ停止又ハ禁止スルコトアルヘシ

附 則

從來ノ按摩術營業者ハ明治三十三年九月三十日迄ニ願出テ免許鑑札ヲ受クヘシ

第五章 賣 藥

●賣藥營業並請賣行商手續

(改正) 一三年三月縣令第二六號、三二年二月同第一〇八號、三三年六月同第六五號、三七年五月同第三九號

○縣令第三十八號 明治二十一年三月二十七日

明治十四年八月甲百八番布達賣藥營業並請賣行商手續別冊ノ通改正ス

(別冊)

賣藥營業並請賣行商手續

第一條 賣藥營業セントスル者ハ第一號書式ニ準シ願出ツヘシ

第二條 賣藥請賣營業セントスルモノハ第二號書式ニ準シ願出ツヘシ

第三條 賣藥營業及請賣者ニ於テ自ラ行商又ハ行商セシメントスル者ハ第三號書式ニ準
シ願出ツヘシ

第四條 賣藥營業及賣藥請賣營業鑑札ハ所持人ノ居家ニ限リ營業ノ權アル者トス故ニ別

戶支店ヲ設クルモノハ更ニ第四號書式ニ準シ願出ツヘシ

第五條 賣藥營業及賣藥請賣營業ノ免許ヲ得タル者ハ第十三號雛形ノ看板ヲ戶外ニ掲ク
ヘシ

第六條

酒類ニ藥品ヲ配伍シ賣藥ニ屬スル者ハ第一號書式ニ準シ願出ツヘシ

第七條

常水海水又ハ鑛泉ニ他ノ鑛泉若クハ鑛泉中ノ固形物(俗間湯ノ花ト稱スル類)或ハ藥物ヲ混和シテ溶劑ト爲シ藥湯ノ用ニ供セントスルモノ又ハ該固形物ニ他物ヲ加ヘ醫治ノ目的ニ販賣セントスルモノハ賣藥規則ニ從ヒ第一號書式ニ準シ願出ツヘシ

第八條

賣藥請賣及行商者ノ鑑札ハ免許人同人ナレハ鑑札一枚ニ五方ヲ限リ記載下附スヘシ

第九條

賣藥營業者代換リ或ハ改姓名又ハ他管下ヨリ轉籍寄留ノ者ハ第五號書式ニ準シ書換願出ツヘシ

第十條

但他府縣へ轉籍寄留ノ者ハ第十一號書式ニ準シ届出ツヘシ

第十一條

賣藥營業者及請賣者行商者町村名ノ改稱或ハ居住地番號變換若クハ管内轉籍等ニテ鑑札ニ異動ヲ生スルトキハ第十號書式ニ準シ訂正願出ツヘシ

第十二條

賣藥營業者鑑札ヲ讓受ナサントスルトキハ其賣藥請賣者行商者ノ住所姓名ヲ府縣分ケニ詳記シタル書面ヲ添付シ第六號書式ニ準シ願出ツヘシ

第十三條

賣藥營業者行商者ナキトキハ其旨記載スヘシ

第十四條

賣藥營業及請賣行商鑑札水火難盜難遺失或ハ毀損等ニテ代リ鑑札下渡ヲ請ハントスルモノハ第八號書式ニ準シ願出ツヘシ

第十五條

賣藥方名又ハ藥劑分量用法服量效能ヲ改正セントスル者ハ第九號書式ニ準シ願出ツヘシ

第十六條

賣藥營業者廢方廢業シタルトキハ其請賣者又ハ行商者ノ住所姓名ヲ府縣分ニ詳記シ第十一號書式ニ準シ免許鑑札(自ラ行商スル者ハ行商鑑札トモ)返納スヘシ

第十七條

但請賣者行商者ナキトキハ其旨記載スヘシ

第十八條

前條賣藥營業者廢方廢業シタルトキハ請賣者ニ於テ第十二號書式ニ準シ請賣鑑札行商鑑札ヲ返納スヘシ

第十九條

但行商鑑札ナキトキハ其旨記載スヘシ

第二十條

賣藥營業者廢業後其請賣者又ハ行商者ニ於テ殘藥アルトキハ時宜ニヨリ六ヶ月間販賣ヲ許スコトアルヘシ

(第一號書式)

賣藥營業願

一 方名

一 劑ノ量

用紙中折系紙 (以下同シ)

何藥 量目何程 何藥 量目何程

以上幾味調合丸藥トシ幾貼ニ分チ或ハ幾粒ヲ一包トシ(膏藥煉藥水藥散 藥煎藥モ微之)一度或ハ一日ノ
用量大人小兒ノ區別等其用法溶劑ハ幾種ヲ調合シ水何程ニ浸煎シ一日入浴ノ度數時間
大人小兒ノ區別華氏(攝氏)ノ溫度等其用法詳細記スヘシ

一 主治功能詳細

右今度調製(外國ノ賣藥ナレハ何)發賣(溶劑ニシテ自家藥湯開散ノモノハ自家藥湯用ニ使用)仕度候間御檢査ノ上免許鑑札
御下渡被下度依テ製劑相添此段奉願候也

年號月日 (記名充所如故)

郡區町村番地

族籍

氏 名 印

年 月 日

知 事 宛

(第二號書式)

賣藥受賣營業願

一 方名 同上 同上

(幾方幾種アルモノハ連記スヘシ營業者異ナレハ假令一方タリト雖モ各營業者ヲ區別

シテ書式ノ如ク連記スヘシ)

郡區町村番地

族籍

右營業人 氏 名

郡區町村番地

族籍

氏 名 印

年 月 日

郡區長宛

〔右願書ニ添フヘキ約定書〕

賣藥請賣約定書

一 方名 一 同上 一 同上 一 同上

右何某ノ免許ヲ得タル賣藥ニシテ今般何某請賣可致示談相整ヘ候ニ付請賣者ニ於テ請
賣鑑札願受ケ營業者ノ調製シタル賣藥取次販賣致スヘシ然ル上ハ總テ賣藥ニ關スル御
規則及御達ノ趣旨ヲ確守シ不正ノ所業致マシク依テ約定書如件
(府)(縣)郡區町村番地

年 月 日

族籍

賣藥營業人

氏

名 印

(府)(縣)郡區町村番地

族籍

賣藥請賣營業人

氏

名 印

(第三號書式)

賣藥行商營業願

何年月日免許

同上

同上

同上

一方名

一方名

一方名

一方名

一方名

右兼テ(受賣人ナレハ此處ニ營業人何某ト記入ス)免許ヲ得タル賣藥ニ候處今般行商仕度(別紙賣子幾名行商爲致度)候間行商鑑札御下渡被下度此段奉願候也

郡區町村番地

族籍

年 月 日

(賣藥營業人)(或ハ賣藥受賣營業人)

氏

名 印

郡區長宛

(請賣者ヨリ行商願ノ節其方數ノ内免許人異ナルニ於テハ假令一方タリトモ

(別紙)

各營業者氏名ヲ分畫シ連記スヘシ

賣子氏名族籍

(府)(縣)何郡區何町村番地

族籍

氏

名

同

同

同

(第四號書式)

賣藥支店願

一方名

右何年月日何處ニ於テ免許ヲ得タル賣藥ニ候處今般何處へ支店取設度ニ付鑑札御下渡被下度該藥御検査濟願書並免許鑑札寫取添此段奉願候也

郡區町村番地

族籍

年月日

(賣藥營業人)(賣藥請賣營業人)

氏

名印

郡區町村番地

族籍

右支店營業人

氏

名印

知事宛

(請賣人ハ郡區長宛)

(第五號書式)

賣藥營業鑑札書換願

一方名

(他府縣ヨリ轉籍寄留ノ營業者ハ藥品製法用法服用量功能營業願書式ノ通り記スヘシ) 右何年月日賣藥營業鑑札何枚御下渡相成候處今度父何某(隱居)(死亡)相續(或ハ他管下ヨリ轉籍寄留等事故)候ニ付鑑札御書換被下度此段奉願候也

郡區町村番地

族籍

賣藥營業人

氏

名印

年月日

(營業相續ハ讓渡人生存ナレハ相續人ト連署スヘシ)

知事宛

(請賣者行商者ハ郡區長宛)

(第六號書式)

賣藥營業鑑札讓受願

一方名

(藥品製法用法服用量功能營業願書式ノ如シ)

(府)(縣)郡區町村番地

族籍

賣藥營業人

氏

名

何年月日檢査濟鑑札御下渡營業仕候處今般示談ノ上讓受申度依テ鑑札返納仕候間御書換被下度此段奉願候也

(府)(縣)郡區町村番地

族籍

讓渡人

氏

名印

郡區町村番地

族籍

讓受人

氏

名印

年月日

知事宛

(右願書ニ取添ヘキ請賣人(行商人)名書式)

一 賣藥讓渡ニ付請賣人(行商人)名書
何年月日約定

何(府)(縣)郡區町村番地
族籍

一 何年月日約定

何藥請賣(行商人)人 氏
何(府)(縣)郡區町村番地
族籍

右ノ他ニ請賣(行商人)人無之候也

年 月 日

(右ハ他府縣ヨリ當縣ノ者へ讓渡或ハ當縣ノ者ニテ讓受渡ノ書式ナリ)

(第七號書式)

一 賣藥營業鑑札讓渡届
一方名

右何年何月日御検査濟第何號鑑札御下渡相成候處今般(府)(縣)族籍何某へ讓渡ノ示談
相調候ニ付鑑札返納此段御届申上候也

年 月 日

知 事 宛

(第八號書式)

賣藥營業(請賣)(行商人)鑑札遺失(毀損)ニ付鑑札御下渡願

郡區町村番地

一 方名

族籍
營業人 氏

族籍

賣藥營業人 氏

族籍

右請賣人 氏

一 方名

一方名

右何年月日(確ト記憶セサレハ概略ヲ記ス)御下渡相成候賣藥營業(或ハ請賣)(或ハ行商)鑑札何月日何々ノ事故ニテ遺失(或ハ毀損)仕候間更ニ御下渡被下度此段奉願候也
郡區町村番地

何某賣子
族籍

氏名

年月日

知事宛

(賣藥營業人)(賣藥(請賣)(行商)營業人)
(請賣或ハ行商鑑札ハ郡區長宛)

氏名印

(第九號書式)

賣藥改正願

何年何月日免許

一方名

藥品分量
製法

用法 服量

功能

右御検査濟營業仕候處今般何々廉左之通改正仕度候間新鑑札御下渡被下度此段奉願候也
一 改正ノ廉ヲ詳記スヘシ

郡區町村番地

族籍

賣藥營業人 氏

名印

年月日

知事宛

(第十號書式)

賣藥營業(請賣)(行商)鑑札訂正願

一方名

右何年月日免許鑑札何枚御下渡相成候處何月日何々(其事故詳細)候ニ付鑑札訂正御下渡被下度此段奉願候也
郡區町村番地

族籍

年月日 (賣藥營業人)(賣藥(請賣)(行商)營業人) 氏 名 印
知事宛 (請賣者行商者ハ郡區長宛)

(第十一號書式)

賣藥廢方(移住)(廢業)ニ付届
一方名 一 同上 一 同上

但行商鑑札ハ郡區役所へ返納(或ハ行商鑑札無之)

(自ラ行商スル者鑑札返納書式ハ第十二號書式ニ據ルヘシ)

右御許可ノ上營業罷在候處今般前書方劑相廢申候(廢業仕候)(何府縣何郡區何町村へ移住仕候)ニ付鑑札返納此段御届申上候也

郡區町村番地

族籍

氏 名 印

年月日
知事宛

(右届書ニ取添フヘキ請賣人行商人名書式ハ第六號書式ノ通ニ付略ス)
(第十二號書式)

賣藥請賣鑑札返納ニ付届

(府)(縣)郡區町村番地

一方名 族籍 賣藥營業人 氏 名
一方名 同上 氏 名

右御許可ノ上請賣罷在候處今般營業人(廢業)(廢方)ニ付鑑札何枚及行商鑑札何枚返納此段御届申上候也

(行商鑑札ナキトキハ其旨記載スヘシ)

郡區町村番地

族籍

氏 名 印

年月日
郡區長宛

(第十三號雛形)

看板雛形 木製寸法長三尺巾七寸五分

免 賣藥營業
許

免 賣藥請賣營業
許

●賣藥廢業屆差出方ノ件

○縣令第四十九號 明治三十年八月十七日
賣藥廢業並廢方屆書ハ自今所轄郡市役所町村役場ヲ經由シ縣廳ニ差出スヘシ
但明治二十八年六月石川縣令第二十九號ハ廢止ス

●賣藥營業免許鑑札料納付方ニ關スル件

○縣令第三十六號 明治二十五年四月十三日
賣藥營業免許鑑札料納付方ハ其願書ニ登記印紙ヲ貼付セスシテ鑑札受領ノ際該印紙ヲ貼付シタル鑑札領收證ヲ差出スヘシ

●賣藥營業免許鑑札下渡及書換訂正ノ分

下渡方ニ關スル件

○訓令甲第三十五號 明治三十年八月十七日

郡市役所 町村役場

從來賣藥營業免許鑑札下渡及其他鑑札面ニ異動ヲ生シ書換ヘ訂正等ニ係ルモノハ總テ所轄稅務署ヲ經テ願人ニ下渡シ來リタル處自今總テ所轄市役所町村役場ヲ經テ下渡スヘキニ付市役所町村役場ニ於テハ明治二十五年四月石川縣令第三十六號ニ依リ賣藥規則第十條及第十七條規程ノ鑑札料ニ相當スル登記印紙ヲ貼用シタル受書ト引換ヘ其鑑札ヲ願人ニ下付シ該受書ハ速ニ縣廳ヘ進達スヘシ

●賣藥部外品營業取締規則

○縣令第四十四號 明治三十一年四月二十七日
賣藥部外品營業取締規則左ノ通り定ム
但明治十七年十二月甲第百二十五番賣藥部外製劑販賣規則ハ廢止ス
賣藥部外品營業取締規則

第一條 本則ニ於テ賣藥部外品ト稱スルハ飲食物ノ防腐劑、防臭劑、鼠取、繩取、蚊遣
リ、蚤取、虱取、染髮料、涅齒料、齒磨粉其他醫治ノ目的ニ非スシテ藥品ヲ配合シ製造シ
タルモノヲ云フ

第二條 毒藥劇藥及醫治ノ目的ヲ達シ得ヘキ效力ヲ有スルモノト認ムル藥品配合ノモノ
ハ之ヲ許可セサルモノトス

第三條 賣藥部外品ヲ製造販賣セントスル者ハ方名藥味分量製法用法功用ヲ詳記シ製劑
ヲ添付シ縣廳ニ願出テ免許證ヲ受クヘシ

他府縣ニ於テ許可ヲ得タル者本縣下ヘ轉籍若クハ寄留シ營業セントスルモノハ前項ノ
手續ヲ爲スヘシ

第四條 免許ヲ得タル製劑ノ方名藥味分量製法用法及功用ヲ變更セントスルトキハ第三
條第一項ノ手續ニ依ルヘシ但方名用法及功用ヲ變更ノ場合ハ製劑ノ添付ヲ要セス

第五條 販賣品ノ容器ニハ方名用法功用及製造者ノ住所氏名ヲ記スヘシ

第六條 既ニ免許ヲ得タル者ト雖トモ有害品ノ配合又ハ私ニ藥味分量ヲ變更シタルコト
ヲ發見シタルトキハ直ニ免許證ヲ取上ケ販賣ヲ禁止スルコトアルヘシ

第七條 賣藥部外品製造營業ヲ他人ニ讓渡サントスル時ハ雙方連署シ縣廳ニ届出テ免許
證ノ書換ヲ請フヘシ

第八條 左ノ事項ニ該當スルトキハ十日以内ニ縣廳ニ届出テ免許證ノ書換訂正又ハ再渡
ヲ請フヘシ

- 一 代換又ハ轉居改氏名シタルトキ
- 二 免許證ヲ毀損亡失シタルトキ

第九條 廢業若クハ死亡シタルトキ又ハ他管下ヘ移轉シタルトキハ十日以内ニ免許證ヲ
縣廳ヘ返納スヘシ

第十條 主務官吏ヲシテ製造所ニ就キ検査セシムルコトアルヘシ但検査ニ使用シタルモ
ノハ其代價ヲ請求スルコトヲ得ス

第十一條 此規則ニ依ル願届書ハ所轄町村役場及郡市役所ヲ經由スヘシ

第十二條 第三條第四條ヲ犯シタル者ハ二日以上五日以下ノ拘留ニ處シ又ハ五十錢以上
一圓五十錢以下ノ科料ニ處ス

第五條第七條第八條第九條ヲ犯シタル者ハ五十錢以上五十錢以下ノ科料ニ處ス

從來ノ營業者ハ明治三十一年七月三十一日迄ニ免許證ノ下付ヲ出願スヘシ
本項ノ手續ヲ爲サ、ルモノハ免許ノ效ヲ失フモノトス

附 則

●賣藥調查表様式

○訓令甲第十八號 明治四十三年四月二十七日

郡役所 市役所

賣藥調查表ハ別紙様式ニ據リ調製毎年一月三十一日迄ニ報告スヘシ
 明治二十七年(二月)訓令甲第十號警察部報告例甲ノ部賣藥請賣肆行商鑑札等員數表
 (十四年五月丙五十三番達)及乙ノ部種痘明細表(二十年六月訓令第四百四十三號)ハ之ヲ
 廢止ス

(別紙様式)

賣藥

(明治何年)

所名

新 規 許 可	製 造 人		請 賣 人		行 商 人	
	人 員 方 數	人 員 方 數	人 員 方 數	人 員 方 數	人 員 方 數	人 員 方 數
年 末 現 在						

一 外國人ニ係ル事實アルトキハ國籍別ニ記載ス可シ

第六章 飲食物取締

●飲食物販賣營業取締規則

○縣令第四十一號 明治三十二年六月七日

飲食物販賣營業取締規則左ノ通定ム

但明治十九年七月甲第百十三號ハ廢止ス

飲食物販賣營業取締規則

第一條 飲食物ヲ店舖ニ露列シ販賣スル者及之ヲ行商スル者ハ此規則ニ遵フヘシ

第二條 飲食物ハ沙塵及虫類ノ付著セサル様適宜ノ覆蓋ヲ爲スヘシ
 但穀物菓物乾物野菜及料理セサル魚鳥類其他皮ヲ剝キ又ハ洗滌シテ食用トスヘキ物

品ハ此限ニ非ス

第三條 當該吏員ハ隨時店舖若クハ行商者ニ就キ飲食物ノ検査ヲ爲スコトアルヘシ

第四條 飲食物ニシテ健康ニ害アリト認ムルモノハ其販賣ヲ差止メ現品ヲ棄却セシムル
 コトアルヘシ

第五條 營業上ニ關シテハ家族雇人等ノ所爲ト雖トモ營業者一切其責ニ任スルモノトス

第六條 此規則第二條ニ違背シタル者ハ科料ニ處ス

●學校又ハ病院附近ニ於テ客間ナキ飲食店ノ新規開業ヲ出願シタル場合許否方

○縣令第六十八號 明治三十七年十月十二日
客間ナキ飲食店モ土地ノ狀況ニ依リ當分ノ内學校又ハ病院附近ニ於テ新規營業ヲ免許セサルコトアルヘシ

●清涼飲料水營業取締規則施行細則

(改正) 四二年四月縣令第二七號、同年一二月同第七六號
○縣令第七十二號 明治三十三年六月二十七日
清涼飲料水營業取締規則施行細則左之通定ム

第一條 清涼飲料水營業取締規則施行細則
清涼飲料水製造營業ノ認可ヲ受ケムトスル者ハ左ノ事項ヲ具シ製品ヲ添願出ヘシ

- 一 製造所ノ位置並構造
- 二 製造セントスル清涼飲料水ノ品目及其原料ノ品名配合ノ分量並飲用量
- 三 用水汲取ノ場所

第二條 前條ノ事項ヲ變更セムトスルトキハ知事ノ認可ヲ受クヘシ

第三條 製造所ノ構造(新設變更トモ)落成シタルトキハ知事ニ届出テ検査ヲ受クヘシ
検査済ニアラサレハ使用スルコトヲ得ス

第四條 清涼飲料水製造場ノ構造ハ左ノ制限ニ從フヘシ

- 一 製造場ノ床ハ漆喰敲キ又ハ板張ト爲スヘシ
- 二 製造場ハ光線ノ射入ヲ良クシ外部ヨリ塵芥ノ入ラサル様爲スヘシ
- 第三條ノ二 炭酸瓦斯含有ノ飲料水製造ニ要スル炭酸瓦斯ハ除害液ヲ貯ヘタル洗滌器ニ筒以上ヲ通過セシムル裝置ヲ爲シ製造ノ都度藥品及水ヲ交換スヘシ

第五條 清涼飲料水ヲ請賣セムトスル者ハ其ノ種類及請賣期間ヲ記シ製造者ノ證明書ヲ添ヘ管轄警察官署ニ届出ヘシ但他府縣ニ於テ製造ノ認可ヲ得タルモノナルトキハ其ノ認可書ノ寫ヲ添付スヘシ

第六條 製造者住所氏名ヲ變換シ若クハ廢業休業又ハ死亡シタルトキハ十日以内ニ知事ニ届出ヘシ但死亡ニ係ルトキハ其届出義務者ハ戶籍法ニ依ル届出義務者トス

請賣者前項ニ該ル(休業ノ場合ヲ除ク)トキハ十日以内ニ管轄警察官署ニ届出ツヘシ

第七條 本則ニ依リ知事ニ差出スヘキ願届書ハ管轄警察官署ヲ經由スヘシ
第八條 第二條第三條第二項第五條ニ違背シタル者ハ五圓以下ノ科料ニ處ス

第六條ニ違背シタル者ハ二圓以下ノ科料ニ處ス

附 則

第九條 本則ハ明治三十三年九月一日ヨリ施行ス但「ラムネ」ニ關シテハ同年七月一日ヨリ施行ス

第十條 明治三十一年六月石川縣令第五十三號嗜好飲料取締規則ハ本令施行ノ日ヨリ廢止ス

第十一條 從來許可シタルモノニシテ製造所ノ構造第四條ニ違フモノハ「ラムネ」ニ在テハ明治三十三年七月三十一日限リ其他ノモノハ同年九月三十日限リ改造シ知事ニ届出テ検査ヲ受クヘシ同日迄ニ改造セサル者ハ營業認可ノ效ヲ失フモノトス

●牛乳營業取締規則施行細則

(改正) 三四年五月縣令第四七號、三五年四月同第二七號、四二年二月同第七六號

○縣令第七十三號 明治三十三年六月二十七日

牛乳營業取締規則施行細則左ノ通定ム

牛乳營業取締規則施行細則

第一條 牛乳ノ搾取又ハ乳製品製造營業ノ認可ヲ受ケムトスル者ハ左ノ各號ヲ具シ願出ヘシ

一 搾取所又ハ乳製品製造所ノ位置並其近傍ノ見取圖面

二 構造仕様書及其ノ圖面

三 乳製品製造營業ニ在テハ其ノ製造方法

四 蒸汽機關ヲ据付ケル乳製品製造營業ニ在テハ當該取締規則ニ據ル許可書ノ寫

第二條 牛乳ノ搾取所ハ市街及市街接續ノ町村ニ在テハ人家ヲ距ル三十間以上其ノ他ノ人家アル地ハ隣地境界ヲ距ル五間以上ニアラサレハ建設スルコトヲ得ス但特種ノ構造ニ係ルモノ若クハ土地ノ狀況ニ依リテハ本條距離ヲ短縮シテ許可スルコトアルヘシ

第三條 牛乳搾取所又ハ乳製品製造所ヲ移轉セムトスルトキハ第一條第一號及第二號ノ事項ヲ具シ改築若ハ變更セムトスルトキハ同條第二號ノ事項ヲ具シ知事ノ認可ヲ受クヘシ

第四條 第一條及第三條ノ認可ヲ受ケ工事落成シタルトキハ知事ニ届出テ検査ヲ受クヘシ

検査済ニアラサレバ使用スルコトヲ得ス

第五條 牛乳請賣營業ヲ爲サムトスル者ハ搾取營業者ト連署シ管轄警察官署ニ届出ヘシ其支店ヲ設ケムトスルトキ亦同シ

但支店ニ係ルモノハ搾取營業者ノ連署ヲ要セス

牛乳搾取販賣業者ニシテ搾取所外ニ販賣店ヲ設ケムトスルトキハ販賣店所在地ノ管轄警察官署ニ其旨届出ヘシ

第六條 牛乳搾取販賣業者及乳製品製造業者ハ左ニ該當スル事項ヲ生シタルトキハ十日以内ニ知事ニ届出ヘシ

一 住所ノ轉換

二 改氏名

三 廢業休業及死亡

但死亡ニ係ルトキハ届出ヲナスヘキ義務者ハ戸籍法ニ依ル届出義務者トス請賣者前項ニ該ル(休業ノ場合ヲ除ク)トキハ十日以内ニ管轄警察官署ニ届出ヘシ

第七條 牛乳搾取所ノ構造ハ左ノ制限ニ從フヘシ

但第七號及第八號ノ構造ハ土地ノ情況ニ依リ幾分ノ省略ヲ爲シタルモノト雖トモ認可スルコトアルヘシ

- 一 搾取所ノ周圍ニハ適宜圍ヲ爲シ運動場ノ周圍ニハ駒止メ柵ヲ設クヘシ
- 二 牛舎ノ屋棟ニハ適當ノ汚氣抜又ハ無双窓ヲ設ケ周壁ニハ土臺ノ處ニ氣孔ヲ穿チ空氣ノ流通ヲ良クスヘシ
- 三 牛舎ノ内壁ハ地盤ヨリ六尺ノ高サ迄板張ト爲スヘシ

四 牛室ハ一頭毎ニ巾五尺奥行八尺以上トシ前面ハ四尺以上後面ニ二尺以上ノ土間ヲ設ケ且拒ヲ以テ隣室トノ境界ヲ爲スヘシ

五 牛室ノ地盤ハ不滲透質ノ材料(石煉瓦石コンクリート)ヲ以テ敷設シ其上ニ厚板ヲ張リ地盤及板張ニハ適宜ノ勾配ヲ付スヘシ

六 尿樋ハ軸藥ヲ燒付ケタル土管又ハ不滲透質ノ材料ヲ以テ舍外ニ尿水ノ流出スル様構造スヘシ

七 尿溜ハ内外ニ軸藥ヲ燒付ケタル甕又ハ不滲透質ノ材料ヲ以テ舍外三尺以上ノ地ニ設ケ適當ノ覆蓋ヲ爲シ其ノ周圍ハ地盤ヨリ高サ三寸以上トシ雨水ノ流入ヲ防クヘシ

八 糞及不潔物溜ハ不滲透質ノ材料又ハ一寸以上ノ厚板ヲ用ヒ舍外六尺以上ノ地ニ設ケ周壁ヲ匝ラシ適當ノ覆蓋ヲ爲スヘシ

第七條ノ二 搾取所ノ牛舎ニハ産室ヲ附設スヘシ

産室ノ構造ハ第七條第四號及第五號ニ依ルヘシ但産室ノ幅ハ八尺以上トシ第七條ノ牛室トノ境界ハ高サ六尺ノ厚板ヲ以テ爲スヘシ

第八條 搾取所ニハ牛乳取扱室ヲ設クヘシ

牛乳取扱室ハ寒冷ノ場所ヲ選ミ日光ノ直射ヲ避ケ且塵芥ノ侵入ヲ防クノ装置ヲ爲スヘシ

第九條 牛舎及運動場ハ清潔ニ掃除ヲ爲シ運動場ハ排水ノ構造ヲ爲スヘシ

第十條 糞便ニ浸染シタル蓐藁ハ清潔ナルモノト取換フヘシ

第十一條 不潔物溜及糞尿溜ハ時々掃除ヲ爲スヘシ

第十二條 牛乳營業者ハ搾取所及搾取所外ト雖トモ同一構内ニハ獸醫ノ健康診断ヲ受ケタル搾取用ニ供スル牛竝種付ニ充ツヘキ種牡牛犢牛ノ外飼養スヘカラス

前項ニ該當セサルモノト雖トモ獸醫ノ健康證明書ヲ添ヘ管轄警察官署ノ認可ヲ得タルトキハ飼養スルコトヲ得

第十三條 乳牛及種牡牛ヲ搾取所ニ入レタルトキハ入所後三日以内ニ獸醫ノ健康證明書ヲ添ヘ第十六條ノ事項ヲ具シ知事ニ届出ヘシ

第十四條 牛乳搾取所内ニ飼養スル乳牛種牡牛ニハ當該官吏又ハ衛生技術員ヲシテ角又ハ蹄ニ検査番號ヲ烙印セシメ若ハ耳朶ニ該番號ヲ記セル耳環ヲ附セシム

第十五條 當該官吏又ハ衛生技術員ヲシテ牛乳營業者ノ牛ヲ検査セシメ一定ノ疾病ニ罹レル牛ニハ角ニ停字又ハ禁字ヲ烙印シ若ハ耳朶ニ停字又ハ禁字ヲ記セル耳環ヲ付セシム

但○禁○止○セ○ラ○レ○タ○ル○者○ニ○ア○ツ○テ○ム○前○條○ノ○烙○印○又○ハ○耳○環○ハ○之○ヲ○消○除○シ○又○ハ○除○去○セ○シ○ム○
前○項○ニ○依○リ○停○止○若○ハ○禁○止○セ○ラ○レ○タ○ル○乳○牛○及○種○牡○牛○ハ○當○該○官○吏○又○ハ○衛○生○技○術○員○ノ○指○揮○ニ○
從○ヒ○速○カ○ニ○之○ヲ○處○置○ス○ヘシ

第十五條ノ二 乳牛及種牡牛ノ使用ヲ廢止シタルトキハ十日以内ニ其ノ旨知事ニ届出ツヘシ

第十六條 牛乳營業者ハ乳牛種牡牛ノ名稱種類年齢毛色產地及検査番號ヲ記載シタル畜牛簿ヲ備置キ管轄警察官署ニ届出テ検印ヲ受クヘシ畜牛ニ増減アリタルトキ亦同シ

第十七條 乳牛及種牡牛ニハ各名稱ヲ付シ左ノ雛形ノ標札ヲ牛室ノ入口ニ掲クヘシ

検査番號	何	種	五
牛名	何	國	産
何	毛	生	年
		月	寸

一尺二寸

第十八條 乳牛ハ日々清潔ニ梳拭シ且適當ノ運動ヲ爲サシムヘシ
第十九條 乳牛種牡牛疾病ニ罹リタルトキ又ハ斃死シタルトキハ獸醫ノ診断書ヲ添ヘ其

ノ旨直チニ知事ニ届出ヘシ

第二十條 牛乳營業者ハ傳染性ノ疾病ニ罹レル牛ノ隔離ヲ行ヒタルトキハ搾取所内ノ牛舎ハ當該官吏又ハ衛生技術員ノ指示ニ從ヒ消毒スヘシ

第二十一條 牛乳搾取ノ際搾取者ハ清潔ナル衣服ヲ著ケ乳牛ノ乳房及搾取者ノ手指ヲ清潔ニ洗滌シ乳汁ニ汚物ヲ混入セシムヘカラス牛乳ヲ搾取シタルトキハ直チニ之レヲ牛乳取扱室ニ移シ清潔ナル白布ヲ以テ濾過スヘシ

第二十二條 乳汁ノ容器ハ使用ノ都度必ス熱湯ヲ以テ洗滌スヘシ

第二十三條 牛乳配達人ニハ左ノ標札ヲ携帯セシムヘシ但標札ハ管轄警察官署ノ檢印ヲ受クヘシ

表

牛乳配達人

氏名

生年月

横 二 寸

裏

營業者ノ

住所氏名

豎 三 寸

前項標札ハ他人ニ貸與スヘカラス

第二十四條 乳製品製造所ハ搾取所内ニ設クルコトヲ許サス

第二十五條 乳製品製造所ハ常ニ清潔ニスヘシ

第二十六條 牛乳營業者ハ前月分ノ搾取高販賣高及乳製品製造高ヲ翌月七日迄ニ知事ニ届出ヘシ

第二十七條 本則ニ依リ知事ニ差出スヘキ願届書ハ管轄警察官署ヲ經由スヘシ

第二十八條 第四條第二項第五條第十二條第十九條第二十一條ニ違背シタル者又ハ第二

十條ノ指示ニ從ヒ消毒ヲ爲サル者ハ五圓以下ノ科料ニ處ス
第六條第十三條第十五條ノ二第十六條第十七條第二十六條ニ違背シタル者又ハ第九條
第十一條ノ掃除ヲ怠タリタル者ハ二圓以下ノ科料ニ處ス

附 則

第二十九條 本則ハ明治三十三年七月一日ヨリ施行ス

明治三十二年(四月)石川縣令第三十一號牛乳營業取締規則ハ本則施行ノ日ヨリ廢止ス

第三十條 從來許可シタル牛乳營業者ニシテ搾取所ノ構造本則ニ牴觸スルモノ及牛乳取扱室ノ設ケナキモノハ明治三十三年十二月三十一日迄ニ改造又ハ建設ヲ爲シ知事ニ届出テ檢査ヲ受クヘシ同日迄ニ改造又ハ建設ヲ爲サル者ハ營業認可ノ效ヲ失フモノトス

第三十一條 從來警察官署ノ検査ヲ受ケ搾取所内ニ飼養シアル乳牛種牡牛ハ明治三十三年七月十五日迄ニ第十三條ノ手續ヲ爲スヘシ

●牛乳中ニ移行スヘキ毒藥等ヲ處方シタルトキ届出方

○縣令第二百二十九號 明治三十三年十一月十七日
牛乳營業者明治三十三年內務省令第四十六號第二條ニ依リ獸醫ヨリ牛乳中ニ移行スヘキ毒藥劇藥ヲ處方シタル旨告知ヲ受ケタルトキハ直チニ管轄警察官署巡查駐在所若クハ巡查派出所ヘ届出ツヘシ違フ者ハ科料ニ處ス

●牛乳脂肪量ノ件

○縣令第七十四號 明治三十三年六月二十七日
明治三十三年(四月)內務省令第十五號牛乳營業取締規則第二條ニ依リ牛乳ノ脂肪量ヲ左ノ通定ム

- 一 全乳 「マルシヤン」氏檢乳計ヲ用ヒ〇、八立方センチメートル以上ノ依リ兒膏脂肪層ヲ折出スルモノ
- 一 脂脱乳百分中〇、五分以上含ムモノ

●飲食物其他衛生上危害ノ物品取締處分

方並職權ヲ警察官署ニ委任ノ件

○縣令第九十二號 明治三十三年七月二十七日
左ノ物件ニ關シテハ明治三十三年二月法律第十五號第一條ノ處分(營業ノ禁止及修正ヲ除ク)及同第二條ノ職權ヲ警察官署ニ委任ス

- 一 牛乳營業取締規則第七條各號ノ牛乳
 - 二 清涼飲料水營業取締規則第五條第一號及第二號ノ清涼飲料水
 - 三 氷雪營業取締規則第三條第一項ノ規定ニ適合セサル氷雪
- 本令ハ明治三十三年八月一日ヨリ施行ス但「ラムネ」ヲ除ク他ノ清涼飲料水ニ關シテハ同年九月一日ヨリ施行ス

● 氷雪營業取締規則施行細則

(改正) 四二年一月二日縣令第七六號

○縣令第九十三號 明治三十三年七月二十七日

氷雪營業取締規則施行細則左ノ通定ム

一 氷雪營業取締規則施行細則

第一條 氷雪營業ノ認可ヲ受ケムトスル者ハ左ノ事項ヲ具シ出願スヘシ

一 營業ノ種類

二 製造所又ハ採集場所ノ位置並其ノ近傍ノ見取圖面

但機械ヲ以テ製造スルモノニ在テハ見取圖面ノ添付ヲ要セス

三 構造仕様書及其ノ圖面

四 採集營業ニ在テハ其ノ貯藏ノ方法

第二條 前條第二號乃至第四號ノ事項ヲ變更セムトスルトキハ前條ノ手續ニ依リ知事ノ認可ヲ受クヘシ

第三條 前各條ノ認可ヲ受ケ工事落成シタルトキハ知事ニ届出テ検査ヲ受クヘシ
検査済ニ非サレハ使用スルコトヲ得ス

第四條 氷池ハ清潔ナル箇所ニ設クヘシ

第五條 氷池ノ構造ハ左ノ制限ニ從フヘシ

但河川ヲ畫シテ氷池ヲ設クルモノハ此限ニ在ラス

一 氷池ハ田地若クハ溝渠ヨリ高クシ汚水ノ流入セサル様爲スヘシ

二 氷池ノ側圍及底部ハ不透透質ノ材料(石、煉瓦石、コンクリ)又ハ厚板ヲ用フヘシ
但厚板ヲ以テ爲スモノハ其ノ張板ト地盤トノ間ニ若干ノ空隙ヲ設クヘシ

第六條 氷池ノ構造ニ破損ヲ生シタルトキハ速カニ修理ヲ加フヘシ

第七條 氷池ハ製氷毎ニ殘水ヲ排除シ之ヲ洗淨スヘシ

第八條 雪採集貯藏ノ場所ハ人家、墓地、火葬場、塵芥ノ投棄並燒却場及廁圍其ノ他不

潔ノ場所ヲ距ルコト三十間以上ヲ有スル高燥ノ地ヲ撰定スヘシ

第九條 雪ノ採集貯藏所ノ構造ハ左ノ制限ニ從フヘシ

一 地面ヲ凸形ニ作り周圍ニ溝渠ヲ設ケ排水ニ便ナラシムヘシ

二 蓋又ハ板ノ類ヲ以テ屋根ヲ設クヘシ

第十條 氷雪請賣營業ヲ爲サムトスル者ハ其營業期間ヲ記シ製造營業者又ハ採集營業者

ト連署シ管轄警察官署ニ届出ヘシ但他府縣ニ於テ飲食用ノ認可ヲ得タルモノナルトキ

ハ其ノ認可證ノ寫ヲ添付スヘシ

第十一條 氷雪請賣營業者ニシテ多量ノ氷雪ヲ藏置スル者ニ在テハ左ノ各項ニ依リ藏置

スヘシ

- 一 藏置所ハ清潔ナル箇所ヲ撰ムヘシ
 - 二 氷雪ハ適當ナル臺上ニ置キ融水ノ流去ヲ便ニスヘシ
 - 三 氷雪ニハ適宜覆物ヲ置キ塵埃ノ付著ヲ防クヘシ
- 第十二條 飲食用ノ氷雪ヲ店舗ニ置キ若クハ行商スル者ハ塵埃ノ付著ヲ防ク爲メ覆蓋ヲ有スル清潔ノ器ニ入ルヘシ

第十三條 飲食用外ノ氷雪ハ行商スルコトヲ得ス

第十四條 氷雪營業者左ニ該當スル事項ヲ生シタルトキハ十日以内ニ知事ニ届出ヘシ但請賣營業者ハ管轄警察官署ニ届出ヘシ

一 住所ノ轉換

二 改氏名

三 廢業休業及死亡

但請賣營業者ニ在テハ休業ノ場合ハ届出ヲ要セス

第十五條 死亡ニ係ルトキハ届出ヲ爲スヘキ義務者ハ戸籍法ニ依ル届出義務者トス

本令ニ依リ知事ニ差出スヘキ願届書ハ管轄警察官署ヲ經由スヘシ

第十六條 第二條第三條第二項第六條第七條第十條乃至第十三條ニ違背シタル者ハ五圓

以下ノ科料ニ處ス

第十四條ニ違背シタル者ハ二圓以下ノ科料ニ處ス

附 則

第十七條 明治二十九年(二月)石川縣令第一號氷雪營業者取締規則中氷ニ關スル規定ハ

明治三十三年七月三十一日限り其ノ他ハ明治三十四年十二月三十一日限り廢止ス

●市街ヲ貫流スル用水及其支流ニ於テ食

料品及飲食物用器具ヲ洗滌スルコトヲ

禁ス

○縣令第三十三號 明治三十八年六月二十四日

市街ヲ貫流スル用水及其支流ニ於テ食料品及飲食物用器具ヲ洗滌スルコトヲ禁ス違フ者ハ

科料ニ處ス

本令ハ明治三十八年七月一日ヨリ施行ス

●販賣ノ用ニ供スル飲食物等ノ製造又ハ
著色ニ著色料ヲ使用セムトスル者届出
ノ件

○縣令第七十七號 明治三十六年十二月二十六日
販賣ノ用ニ供スル飲食物、化粧品、小兒玩弄品（繪双紙、錦繪、色紙ヲ含ム）ノ製造又
ハ著色ニ著色料ヲ使用セムトスル者ハ其著色料ノ種類名稱ヲ記載シ所轄警察官署ニ届出
ツヘシ其届出事項ヲ變更セムトスルトキ亦同シ
前項ノ營業者住所氏名ヲ變更シ又ハ廢業シタルトキハ十日以内ニ所轄警察官署ニ届出ツ
ヘシ但死亡ノ場合ハ戶籍法ニ依ル届出義務者ヨリ本項ニ準シ届出ツヘシ
第一項ノ營業者ニシテ本令發布前ヨリ著色料ヲ使用シツ、アル者ハ本令ニ準シ明治三十
七年二月末日迄ニ届出ツヘシ
本令ニ違背シタル者ハ壹圓九拾五錢以下ノ科料ニ處ス

●人工甘味質取締規則施行細則

○縣令第三十四號 明治三十六年四月二十二日
人工甘味質取締規則施行細則左ノ通定ム

人工甘味質取締規則施行細則

- 第一條 治療上ノ目的ニ供スヘキ飲食物ノ調味ニ人工甘味質ヲ使用シ之ヲ販賣セムトス
ルモノハ左ノ事項ヲ具シ管轄警察官署ヲ經由シ知事ニ出願許可ヲ受クヘシ第三號第四
號ノ事項ヲ變更セムトスルトキ亦同シ
- 一 現職業、住所、生年月日
 - 二 製造所、營業所
 - 三 飲食物ノ種類
 - 四 人工甘味質及配伍品ノ名稱並其ノ配合量
- 第二條 人工甘味質取締規則第三條第三項ノ届書ニハ同項所定ノ外代理販賣者又ハ請賣
者ノ住所及生年月日ヲ記入シ管轄警察官署ヲ經由スヘシ
- 第三條 營業者、代理販賣者、請賣者ハ帳簿ヲ備ヘ買受人受領人ノ住所氏名販賣授與ノ年
月日及其ノ種類數量ヲ記入スヘシ
- 第四條 人工甘味質ヲ混和シタル飲食物ハ需用者ノ住所、氏名、使用ノ目的、飲食物ノ

種類及年月日ヲ記シタル醫師ノ證明書ヲ受クルニアラサレハ販賣授與スルコトヲ得ス
第五條 第三條ノ帳簿ハ使用後第四條ノ證明書ハ其日附ヨリ滿二ケ年間之ヲ保存スヘシ
前項ノ帳簿及證明書ヲ當該吏員又ハ衛生技術員ニ於テ検査ヲ行フ場合ハ之ヲ拒ムコト
ヲ得ス

第六條 人工甘味質取締規則第四條ノ容器又ハ被包ニハ同條所定ノ外製造年月日及製造
者ノ住所氏名ヲ記スヘシ

第七條 營業者代理販賣者受賣者ハ左記雜形ノ標札ヲ門戸ニ掲出スヘシ

整 三 尺

<p>人工甘味質製飲食物 <small>(製造)</small> <small>代理販賣</small> <small>請賣</small> <small>營業</small></p> <p>氏 名</p> <p>寸 八 巾</p>
--

第八條 人工甘味質加味ノ飲食物製造所ニ於テハ他ノ飲食物ヲ取扱フコトヲ得ス

第九條 人工甘味質ヲ加味シタル飲食物ハ他ノ飲食物ト區別シタル一定ノ場所ニ置クヘ

第十條 他府縣ニ於テ許可ヲ得タル人工甘味質ヲ加味シタル飲食物ヲ代理販賣又ハ請賣
スル者ハ十日以内ニ管轄警察官署ヲ經由シ知事ニ届出ヘシ

第十一條 營業者代理販賣者請賣者ニシテ左記各號ノ一ニ該當スルトキハ十日以内ニ管
轄警察官署ヲ經由シ知事ニ届出ヘシ

一 住所氏名ノ變更

二 第一條第二號ノ變更

三 廢業死亡失踪

但死亡及失踪ニ在テハ戶籍法ニ依ル届出義務者ヨリ本條ノ手續ヲ爲スヘシ

四 休業復業

第十二條 營業者廢業若クハ營業禁停止ノ處分ヲ受ケタルトキハ代理販賣者ニ於テモ販
賣ヲ爲スコトヲ得ス

第十三條 第一條ノ末段第三條第五條乃至第十二條ニ違背シタル者ハ科料ニ處ス

附 則

第十四條 本令發布前ヨリ他府縣ニ於テ許可ヲ得タル人工甘味質ヲ加味シタル飲食物ヲ
代理販賣又ハ請賣スルモノハ管轄警察官署ヲ經由シ明治三十六年五月十日マテニ知事

ニ届出ヘシ
前項ニ違背シタル者ニハ第十三條ヲ適用ス

●獸肉販賣取締規則

○縣令第三十一號 明治二十七年六月八日

明治二十三年(十二月)石川縣令第一百十號獸肉販賣取締規則左ノ通改正ス

獸肉販賣營業取締規則

- 第一條 此規則ニ於テ獸肉ト稱スルハ牛馬羊豚ノ生肉ヲ云フ
- 第二條 獸肉販賣營業者ハ賣肉ノ種類ヲ記シ開業前管轄警察署又ハ警察分署ニ届出ヘシ
行商セトスルモノハ別ニ鑑札ヲ受クヘシ
- 第三條 左ノ場合ハ十日以内ニ管轄警察署又ハ警察分署ニ届出ヘシ
 - 一 廢業
 - 二 轉居又ハ改氏名
 - 三 代替
 - 四 賣肉種類ノ變更

行商者第一號ノ場合ハ鑑札ヲ返納シ第二號第四號ノ場合ハ鑑札ノ書換ヲ受クヘシ

第四條 行商ノ際ハ鑑札ヲ携帯スヘシ

第五條 行商鑑札ハ之ヲ他人ニ貸與スヘカラス

第六條 行商鑑札ヲ亡失若クハ毀損シタル時ハ速ニ管轄警察署又ハ警察分署ニ届出再渡ヲ受クヘシ

第七條 食用ニ供スル獸肉ハ該當官署ノ檢印アルモノニアラサレハ販賣スルコトヲ得ス
其管外ヨリ輸入シタルモノニアリテモ亦同シ

第八條 馬肉ヲ販賣スルモノハ他ノ獸肉ヲ販賣シ他ノ獸肉ヲ販賣スルモノハ馬肉ヲ販賣スルヲ得ス

第九條 屠肉ノ種類ヲ詐稱シ若クハ腐敗ノ氣味アルモノヲ食用トシテ販賣スヘカラス

第十條 獸肉ニ塵埃蒼蠅等ノ付著セサル様相當ノ裝置ヲナスヘシ

第十一條 獸肉置場及使用ノ器具ハ常ニ清潔ニ洗滌シ骨片ノ類ハ腐臭ヲ發セサル前取除クヘシ

第十二條 警察官吏ハ店舗ニ就キ臨時検査ヲナシ不良又ハ腐敗ノ徵アルモノト認ムル時ハ其販賣ヲ禁シ若クハ投棄ヲ命スルコトアルヘシ營業者ハ之ヲ拒ムヲ得ス

第十三條 此規則第七條第九條ニ違背シタルモノハ二日以上十日以下ノ拘留又ハ壹圓以

上壹圓九拾五錢以下ノ科料ニ處ス
第二條第三條第四項第五條第八條ニ違背シタルモノハ五錢以上七拾五錢以下ノ科料ニ處ス

●屠場法施行細則

(改正) 四一年四月縣令第三二號、四二年一月同第七六號

○縣令第二號 明治四十一年一月十七日

屠場法施行細則左ノ通り相定ム

屠場法施行細則

- 第一條 屠場設置ノ許可ヲ受ケムトスル者ハ願書ニ左ノ事項ヲ具スヘシ
 - 一 屠場ノ位置及隣接地ノ地種地目並ニ周圍五町以内ノ地形ヲ記シタル圖面
 - 二 敷地及屠場内各建物ノ坪數構造設計書並ニ正面側面平面圖
 - 三 給水ノ方法及汚水汚物ニ關スル處理方法
 - 四 屠殺スヘキ獸類ノ種類
 - 五 設備スヘキ器具ノ名稱箇數ヲ記シタル目錄書
 - 六 工費豫算書

七 工事竣工期限

八 使用期限

九 私人ノ設立ニ係ルトキハ原籍住所族稱氏名生年月日但未成年者禁治産者ハ法定代理人準禁治産者ハ保佐人妻ハ夫ノ連署ヲ要ス

十 法人又ハ數人共同ノ設立ニ係ルトキハ其代表者及管理者ノ氏名定款若クハ設立規約及管理維持ノ方法

十一 市町村ノ設立ニ係ルトキハ市町村會ノ決議録及管理維持ノ方法

十二 借地ニシテ民有地ナルトキハ地主ノ連署官有地ナルトキハ使用許可書ノ謄本屠場ヲ移轉シ又ハ其構造ヲ變更セムトスルトキハ第一號第二號第三號第五號第六號第七號第十二號ノ事項ヲ具シ知事ニ願出許可ヲ受クヘシ

第二條 屠場法施行規則第二條ニ依リ屠場主ノ名義變更ノ許可ヲ受ケムトスルトキハ其ノ事由ヲ記シ新舊屠場主連署スヘシ

前項ノ場合ニ於テ其ノ屠場主又ハ其ノ管理者ハ本則第一條第九號第十號及第十一號ノ事項ヲ具スヘシ

第三條 私人ニ於テ設立スル屠場ノ使用期ハ竣工ノ日ヨリ滿十年以内トス

第四條 屠場法第八條ニ依リ屠場ノ設置ヲ命セラレタル市町村ハ本則第一條第一號乃至

第七號及第十一號ノ事項ヲ具シ知事ノ認可ヲ受クヘシ其ノ事項ヲ變更シ若クハ建物ノ改造ヲ爲サムトスルトキ亦同シ

第五條 屠場ノ位置及構造設備ハ明治三十九年(六月)内務省令第十七號ニ據ルヘシ但土地ノ狀況ニ依リ幾部ノ省略ヲ許可スルコトアルヘシ專ラ羊豚ノ屠殺ヲ目的トスル屠場ニ關シテモ亦同シ

第六條 屠場ノ新築改築増築移轉ノ工事落成シタルトキハ知事ニ届出検査ヲ受クヘシ検査ヲ經タル後ニアラサレハ使用スルコトヲ得ス

第七條 屠場法施行規則第六條但書ノ認可ヲ得ントスルモノハ其ノ事由ヲ詳具スヘシ

第八條 左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ其ノ許可ヲ取消スコトアルヘシ
一 許可ノ日ヨリ三ヶ月ヲ經過スルモ工事ニ著手セサルトキ
二 工事竣工期限後尙三ヶ月ヲ經過スルモ之ヲ竣ヘサルトキ
三 理由ナクシテ六ヶ月以上休業シタルトキ

第九條 死亡又ハ行衛不明者ニシテ六ヶ月以内ニ繼承者ナキトキ

法ニ依ル届出義務者法人解散ノ場合ハ清算人ニ於テナスモノトス
一 屠場主法定代理人法人代表者ノ原籍住所氏名ノ變更

二 法定代理人法人代表者ノ變更

三 屠場ノ廢止

四 屠場主ノ死亡

五 法人ノ解散

第十條 屠場法第九條ニ依リ市町村ノ設立ニ係ル屠場廢止ノ認可ヲ受ケムトスルトキハ其ノ事由ヲ具シ市町村會ノ決議錄謄本ヲ添付申請スヘシ

第十一條 屠場使用料及屠殺料ハ場内見易キ場所ニ揭示スヘシ

第十二條 屠畜業ヲ爲サムトスル者ハ管轄警察官署ニ願出許可ヲ受クヘシ屠場主ニシテ屠畜業ヲ兼ヌル者亦同シ

第十三條 屠場主又ハ屠畜業者ニシテ屠殺解體ニ從事スル屠夫ヲ雇入レムトスルトキハ醫師ノ健康診斷書ヲ添ヘ其ノ住所氏名生年月日ヲ具シ所轄警察官署ノ許可證ヲ受クヘシ屠場主又ハ屠畜業者ニシテ屠殺解體ニ從事セムトスルトキ亦同シ

第十四條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ屠夫許可證ヲ交付セス

- 一 屠場法施行規則第八條ノ疾患ニ罹リタル者
- 二 年齢十七歳未満六十歳以上ノ者
- 三 婦人及精神障礙者

四 獸畜ノ取扱及屠殺ニ慣熟セサル者
屠夫許可證交付後前項各號ニ該當スル事由生シタルトキハ其ノ許可ヲ取消ス
所轄警察官署ハ屠夫ニ對シ隨時醫師ヲ指定シ診斷ヲ受ケシメ診斷書ヲ徴スルコトアル
ヘシ

第十五條 屠夫ハ左ノ事項ヲ遵守スヘシ

- 一 就業中ハ清潔ナル白衣ヲ着用スヘシ
 - 二 屠室内ニハ一定ノ履物ヲ穿テ室外ニ使用スヘカラス
 - 三 就業中ハ許可證ヲ携帯スヘシ
 - 四 屠室内ニ於テ唾痰ヲ吐キ其ノ他不潔ノ行爲アルヘカラス
 - 五 屠場内ニ於テ喧噪ヲ爲シ又ハ放歌高聲ヲ發スヘカラス
 - 六 屠殺解體ニ要スル器具類ハ著手前當該吏員ノ點檢ヲ受クヘシ
 - 七 屠殺解體ノ方法ニ付當該吏員ノ指示アルトキハ之ニ從フヘシ
- 第十六條 獸畜ヲ屠殺セムトスルトキハ第一號様式ニ依リ種類胤種性年齢毛色特徴産地
價格見積肉量及買入先ヲ記シ畜牛結核病検査ノ健康證ヲ有スルモノニアリテハ之ヲ添
付シ屠殺ノ前日管轄警察官署ニ届出ヘシ尙販賣ノ目的ヲ以テ屠殺スルモノハ税金領收
書ヲ添付スヘシ

第十七條 屠殺スヘキ獸畜ハ屠場内繋留所へ検査二時間前ニ牽付置クヘシ

第十八條 屠場ニ於テ屠殺ノ爲メ必要ナル方法ノ外濫リニ獸畜ヲ苦シメ又ハ慘酷ノ取扱
ヲ爲スヘカラス

第十九條 屠室ハ屠殺前淨水ヲ撒布シ置クヘシ

第二十條 屠場内ニハ屠殺外ノ獸畜ヲ牽入ルヘカラス

第二十一條 屠畜ノ際ハ門戸ヲ閉鎖シ關係人ノ外入場セシムヘカラス

第二十二條 屠夫ニシテ左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ當該吏員ニ於テ其ノ當日ノ從業
ヲ停止スルコトアルヘシ

一 泥酔シ居ルト認ムルトキ

二 屠場法施行細則第八條病患ニ罹レル疑アリト認ムルトキ

三 當該吏員ノ指揮ニ從ハサルトキ

第二十三條 屠畜ヨリ生スル血液汚物頭骨皮毛其ノ他廢棄物等ハ即時之ヲ處置スヘシ

第二十四條 屠場使用後ハ直ニ屠場ヲ掃除シ屠室内及器具器械ヲ清潔ニ洗滌スヘシ

第二十五條 病畜屠殺後ハ嚴重ニ消毒ヲ行フヘシ

第二十六條 屠殺ヲ禁止セラレタル獸畜ノ飼養地ヲ轉シ若クハ賣買讓與セムトスルトキ
ハ所轄警察官署ニ届出ヘシ

第七章 病院

●公立病院設立規則

(改正) 三三年三月縣令第一六號

○縣令第三十五號 明治三十年四月二十日

公立病院設立規則左ノ通改正ス

公立病院設立規則

第一條 此ノ規則ニ於テ公立病院ト稱スルハ郡市町村又ハ其ノ組合ニ於テ設立スルモノヲ云ヒ私立病院トハ一人ニ於テ設立スルモノヲ云フ

第二條 公立病院ヲ設立セントスルトキハ左ノ諸件ヲ具シ知事ニ出願許可ヲ受クヘシ

一 病院設置ノ地名番地

二 院名

三 院則

四 院長醫員調劑所長(藥劑師)及調劑員ノ履歷

五 患者ニ對スル看護人ノ定數

六 病院敷地ノ坪數及圖面

七 病院建物及付屬建物ノ位置坪數圖面竝ニ仕様書
八 火災其ノ他非常ノ時ニ於ケル準備

第三條 前條第二號乃至第四號及第八號ノ事項ヲ變更セムトスルトキハ知事ニ出願許可ヲ受クヘシ但私立病院ニ在テハ第四號ノ事項ハ許可ヲ受クルヲ要セス變更後十日以内ニ知事ニ届出ヘシ

第五號ノ事項ヲ變更シタルトキハ十日以内ニ其旨知事ニ届出ヘシ

第四條 病院ヲ改造又ハ移轉若クハ分院ヲ設ケムトスルトキハ第二條ノ手續ニ準據シ許可ヲ受クヘシ
出診所ヲ設ケタルトキハ五日以内ニ知事ニ届出ヘシ

第五條 病院建物ハ新築ト改造トニ拘ハラズ構造落成シタルトキ及移轉シタルトキハ知事ニ届出検査ヲ受クヘシ

第六條 前條ノ検査ニ於テ構造不完全ト認めタルトキハ全部又ハ幾部ノ改造ヲ命スルコトアルヘシ

第七條 病院ノ位置ハ土地ノ狀況ニ依リ劇場寄席諸製造場其ノ他有害ト認めタル場所ニ

對シテハ適當ノ除害法ヲ設ケシムルコトアルヘシ

第八條 廢院シタルトキハ十日以内ニ届出ヘシ

第九條 病院建物ニハ左ノ區劃ヲ設クヘシ

- 一 事務所
- 二 診察所
- 三 施術所
- 四 調劑所
- 五 患者控所
- 六 病室
- 七 浴室

第十條 二階造ノ病室ハ巾六尺以上ノ階段ヲ設クヘシ

但病室三十坪以上ニ在テハ階段二箇以上ヲ設クヘシ

第十一條 病室ノ構造ニ付テハ換氣及採光法ニ注意スヘシ

第十二條 清潔法ニ關スル事項ハ明治二十年石川縣令第七十八號ノ規定ニ依ルヘシ

第十三條 腸室扶斯、實布の里亞、再歸熱、猩紅熱、丹毒、麻疹ノ傳染病患者ヲ入院セシムルトキハ傳染性以外ノ患者ト隔離シタル病室ニ收容スヘク其構造設備ハ左ノ制限

ニ依ルヘシ

- 一 病室ハ床及側壁トモ總テ洗滌消毒ニ便ナラシムヘシ
 - 一 消毒装置及消毒藥品ヲ備フヘシ
 - 一 專任ノ看護人ヲ置クヘシ
 - 一 炊事場及浴室ハ通常患者ノ炊事場及浴室ト區別スヘシ
- 第十四條 前條所載ノ傳染病ニシテ其ノ地方ニ流行ノ兆アルトキハ第十六條ノ規定ニ依ルヘシ

第十五條 危険ナル精神病患者ヲ入院セシムルモノハ鎖鑰室及適當ナル運動場ヲ設クヘシ

第十六條 虎列刺、赤痢、發疹室扶私、痘瘡、ペストノ五傳染病患者ヲ收容スヘキ分院若クハ分病室ノ位置構造及設備ハ總テ避病院設備規則ニ依ルヘシ

第十七條 患者十名以上ヲ自宅又ハ他所ニ收容シテ治療スルモノハ名義ノ何タルニ拘ハラズ總テ此規則ニ依ル

附 則

第十八條 從來ノ公私立病院ニシテ其ノ構造此ノ規則ニ矛盾スルモノハ明治三十一年三月三十一日限り本則ニ從ヒ改造シ知事ニ届出検査ヲ受クヘシ

●石川縣金澤病院治療規則

(改正) 三九年七月告示第一七〇號

○告示第六十二號 明治三十三年三月二十七日

明治二十三年(二月)石川縣告示第二十二號石川縣々立金澤病院受療規則左ノ通り改正ス

石川縣金澤病院治療規則

第一條 診察治療時間ハ左ノ通りトス但急病大患ハ此限ニアラス

九月十一日ヨリ七月十日マテ 午前九時ヨリ 午後三時マテ

七月十一日ヨリ九月十日マテ 午前八時ヨリ 正午十二時マテ

第二條 診察治療ヲ請フ者ハ住所氏名ヲ受付ニ申出テ會計係ニ診察料ヲ納メ診療券ヲ受クヘシ

但シ學用患者ニハ施療券ヲ付與ス

第三條 診察券ノ有効期間ハ一ケ月間トス

入院患者ニ在テハ前項期間ヲ經過スルモ入院中ハ有効トス

第四條 外來患者ハ受領シタル處方箋又ハ手術券ヲ會計係ニ差出シ納金スヘシ

藥品ヲ受クル者ニ在テハ其領收證ヲ以テ調劑ヲ請フヘシ

第五條 診斷書又ハ處方箋ノ付與ヲ請フ者ハ手数料ヲ納ムヘシ

第六條 入院治療ヲ受ケムトスル者ハ金澤市内ニ居住スル戸主ヲ保證人トシ第一號書式

ノ身元引受證ヲ差出シ院長ノ承認ヲ受クヘシ

第七條 病院ハ外來及入院患者ノ診療ヲ主トスト雖トモ其ノ病症ニ依リ往診治療ノ需メ

ニ應スルコトアルヘシ

第八條 往診ヲ請フ者ハ往診料ヲ納ムヘシ

往診ノ申出ハ第一條ノ時間内ニ爲スヘシ但急病大患ハ此限ニアラス

第九條 手重キ手術ヲ請フ者ハ親族又ハ朋友ヨリ第二號書式ノ承認書ヲ院長ニ差出スヘシ

第十條 受療中ハ外來入院ノ別ナク總テ部長又ハ醫員ノ指示ニ從フヘシ

第十一條 病院ニ於テハ相當ノ看護婦ヲ置キ看護セシムト雖トモ別ニ介抱人ヲ要スルト

キハ其ノ住所氏名ヲ管理部ニ届出テ部長又ハ醫員ノ承認ヲ受クヘシ

第十二條 貧窮ニシテ治療費ヲ自辨スルコト能ハサル者ハ第四高等學校醫學部學用患者

トシテ治療ヲ許可スルコトアルヘシ

第十三條 入院治療ヲ請フ者ハ第三號書式ノ願書ヲ管理部ニ差出シ院長ノ承認ヲ受クヘシ

第十四條 施療患者入院スルトキハ金澤市内ニ居住スル戸主二名ヲ保證人トシ第四號書式ノ受書ヲ院長ヘ差出スヘシ

第十五條 施療患者ハ猥リニ轉療スルコトヲ許サス

但病院ノ都合ニ依リ施療ヲ停止スルコトアルヘシ

第十六條 入院施療患者ニハ被服及寢具ヲ貸與シ食物及藥品等ヲ給與ス

第十七條 診察料、往診料、藥價、診斷書、及處方箋ノ手数料、手術術、入院料等ハ別

ニ之ヲ定ム

第十八條 病室ニ出入スル者ハ此規則ノ外尙ホ病院ニ於テ定ムル所ノ規定ニ從フヘシ

附 則

第十九條 此規則ハ明治三十三年四月一日ヨリ施行ス

(第一號書式)

身元引受證

住 所

氏

名

年 齡

二錢印
紙貼用

右者今般入院治療御承認相成候ニ付テハ御規則堅ク可爲相守ハ勿論本人竝ニ付

派人故障有之節又ハ費金不納等有之ニ於テハ總テ拙者ニ於テ引受ケ可申若シ拙者轉居旅行等致候節ハ確實ナル代人相定メ御承認ヲ受ケ可申候依テ保證書如斯候也

年 月 日

住 所
保 證 人 氏

名 印

石川縣金澤病院長氏名殿

(第二號書式)

證

二錢印
紙貼用

住 所

氏

名

年 齡

右今般手術相願候ニ付テハ手術中或ハ手術後何等ノ變症ヲ偶發シ或ハ萬一死ヲ致スコト有之共後日ニ至リ異議無之ハ勿論如何ナル紛議相生シ候モ拙者引受ケ可申候依テ承認證如斯候也

住 所

年 月 日

右親族(朋友) 氏

名 印

石川縣金澤病院長氏名殿

(第三號書式)

年 月 日

住 所

患 者 氏

名 印

施 療 願

住 所

保 證 人 氏

名 印

(第四號書式)

施療願ニ付受書

住 所

氏

名

年 齡

今般入院施療御承認相成候ニ付テハ御規則堅ク可相守ハ勿論萬一不幸ニシテ死

去候トキハ御見込ニ依リ患部剖見相成リ候モ不苦候條豫テ此段御受申上置候也
 年 月 日
 石川縣金澤病院長氏名殿
 右之者今般施療相願候ニ付テハ御規則等堅ク可爲相守ハ勿論本人ニ係ル一切之
 事件ハ拙者共引受可申候依テ保證書如斯候也

住所
 保證人 氏 名 印
 住所
 保證人 氏 名 印

●石川縣金澤病院手術料

○告示第二百二十號 明治三十三年十二月二十二日
 石川縣金澤病院手術料縣會ノ議決ヲ經左ノ通り更正シ明治三十四年一月一日ヨリ徴收ス

等級	種別	徴收金額
一 等	開腹術ヲ要スル内臟手術 大穿齶術 直瘍切斷 上顎切除術 小穿齶術 格外肛門治方	拾圓以上 參拾圓以下
二 等	大關節離斷 大關節切除 困難ナル腫物摘出	七圓以上
三 等	子宮全摘出術	

<p>三 等</p>	<p>四 等</p>
<p>四肢切斷術 大腐骨術 大成形術 箱頓「ヘルニヤ」手術 產科大手術</p>	<p>復雜骨折治術 造鼻術 肋骨切除 膀胱結石手術 深部膿瘍切開 復雜口唇成形術 下顎切除術 氣管切開術 血清療法 白內障摘出 綠內障手術</p>
<p>五圓以上</p>	<p>參圓以上</p>

<p>六</p>	<p>五 等</p>
<p>虹彩切除 眼球摘出 眼窩內腫瘍摘出 復雜斜視手術 復雜眼瞼成形術 舊會陰成形術 陰瘻手術</p>	<p>骨折脫臼整復術 痔核 痔瘻 斜頸 腺摘出 輕度口唇成形術 單斜視手術 單眼瞼成形術 眼內容搔爬</p>
<p>五圓以上</p>	<p>貳圓以上</p>

六 等	
大植皮術 新會陰縫合術 產科小手術 子宮局部切除 屍體帝王切開	穿胸術 穿腹術 小植皮術 麻醉ヲ要スル小切開及小成形術 小關節切斷離斷及切除術 外科電氣大燒灼 沃度ホルム注入 單一痔瘻及小痔核 葡萄腫切除 水晶囊切開 后白內障手術
壹圓以上	

七 等	
顆粒手術 眼科電氣燒灼 眼瞼腫瘍摘出 眼球內異物摘出 翼狀贅片剝刺術 子宮內搔爬術 子宮大出血處置 後產挽出	局部麻醉ヲ要スル切開及摘出術 食鹽水注入 鼻痔摘出 瘰癧 周擁切開 眼膿瘍切開 淚囊切開 局部葡萄腫
七拾錢	

八等	魔酔ヲ要セサル切開及摘出 小創傷處置 トラホーム磨擦 眼瞼小腫瘍手術	五拾錢
九等	汞液注射 複難拔齒 眼耳鼻異物摘出	參拾錢
十等	皮下注射 膀胱洗滌 胃洗滌 滄膈 尿道ブリージー法 拔齒 種痘 尿道洗滌 瀉血	拾貳錢

十一等	兩尿管洗滌 兩眼耳鼻ノ點藥、洗滌、塗布、撒布ノ類 耳通氣法及ブリージー法 電氣療法 蒸氣吸入 尿管ブリージー法 片尿管洗滌 小尿管切開ノ類 婦人科の普通處置(洗滌タンポナーデ點藥)	六錢
十二等	片眼耳鼻ノ點藥、洗滌、塗布、撒布ノ類	參錢
外等	綑帶交換	六錢乃至五圓

●石川縣金澤病院入院料

○告示第二百二十一號 明治三十三年十二月二十二日
石川縣金澤病院ノ一等及二等三等入院料縣會ノ議決ヲ經左ノ通り改正シ明治三十四年四月一日ヨリ徴收ス

- 一等入院料 金壹圓
 - 二等入院料 金七拾錢
 - 三等入院料 金參拾五錢
- 但シ特等金壹圓五拾錢從來ノ通り

●傳染病患者入院及轉歸シタルトキ届出ノ件

○縣令第十六號 明治二十八年四月十九日

公立病院

傳染病患者入院シタルトキ及同患者轉歸シタルトキハ退院又ハ死體ヲ院外ニ昇送前管轄警察署、警察分署又ハ巡查駐在所ニ届出ヘシ

●縣立娼妓病院規則

(改正) 三十三年一月縣令第一三三號

○縣令第二十號 明治三十二年三月二十七日

縣立娼妓病院規則左ノ通定ム

但明治十八年六月甲第八十五番金澤娼妓假驅微院受療規則ハ廢止ス

縣立娼妓病院規則

第一條 本○院○ハ○明○治○三○十○三○年○(十一月)石○川○縣○令○第○三○十○號○娼○妓○健○康○診○斷○規○則○第○七○條○第○一○項○ノ○疾○患○ヲ○治○療○ス○ル○所○ト○ス

第二條 本○院○ノ○治○療○ヲ○受○ク○ル○者○ハ○總○テ○入○院○セ○シ○ム○ル○モ○ノ○ト○ス

第三條 縣○立○娼○妓○病○院○ノ○治○療○ヲ○受○ク○ル○者○ハ○藥○價○及○手○術○料○ヲ○徴○收○セ○ス○其○他○ノ○費○用○ハ○本○人○又○ハ○貸○座○敷○主○ノ○負○擔○ト○ス

但第一條外ノ疾患ヲ併發シタルトキ其症治療ニ要シタル藥價ハ徴收ス

第四條 入○院○患○者○ハ○八○種○傳○染○病○ニ○罹○ル○カ○又○ハ○危○篤○ニ○陥○リ○タ○ル○場○合○ノ○外○第○一○條○ノ○疾○患○全○癒○ス○ル○ニ○ア○ラ○サ○レ○ハ○退○院○ヲ○許○サ○ス

第五條 重○症○患○者○ニ○シ○テ○附○添○看○護○ヲ○願○フ○者○ハ○院○長○へ○申○出○許○可○ヲ○受○ク○ヘシ

- 第六條 賄ハ各自院内ニ於テ調理スルヲ許サス
- 第七條 入院患者ハ外出ヲ許サス但止ムヲ得サル事故アルトキハ院長ノ許可ヲ受クヘシ
- 第八條 入院患者ハ他人ニ面會ヲ許サス但親族又ハ貸座敷主ナルトキハ之ヲ許スコトアルヘシ
- 第九條 賄費並第三條後段及同但書ノ費用等ハ本人又ハ貸座敷主ニ於テ十日毎ニ取締ヘ納ムヘシ
- 但退院ノ場合ハ本期限ニ拘ハラズ即納スヘシ
- 第十條 患者入院中ハ本院ニ於テ別ニ揭示スル所ノ事項ヲ遵守スヘシ

第八章 傳染病豫防

●傳染病豫防法施行細則

(改正) 三一年四月訓令甲第二九號、三八年七月同第一八號、三九年七月同第一五號、四一年五月同第二五號
 ○訓令甲第四十五號 明治三十年十月十六日

郡市役所 町村役場

傳染病豫防法施行細則左ノ通相定ム但該施行上ニ關シテハ所轄警察署長又ハ警察分署長ト協議シ豫防ノ周到ヲ計ルヘシ

傳染病豫防法施行細則

- 第一條 傳染病ノ豫防ハ明治三十年法律第三十六號傳染病豫防法同年內務省令第十一號傳染病豫防法施行規則第十三號清潔方法消毒方法ニ依ルノ外尙本則ニ依ルヘシ
- 第二條 左ノ事項ニ該當スルトキハ市町村長又ハ豫防委員ハ其患者ヲ傳染病院又ハ隔離病舎ニ入ラシムヘシ但第一號第六號ニ係ルモノニシテ健康者ヲ隔離所ニ入ラシムルトキハ此限リニアラス
- 一 患者ヲ隔離シ得ヘキ適當ナル室ヲ有セサルモノ
- 二 患家不潔又ハ濕地ニシテ病毒傳播ノ虞アリト認ムルモノ

- 三 主治醫ナキモノ
- 四 専從スヘキ看護人ナキモノ
- 五 患者ニ専用スヘキ家具什器ヲ有セサルモノ
- 六 飲食店宿屋其他多數ノ家族同居人アリテ豫防方法行届難シト認ムルモノ
- 七 自宅治療ノ患者ニシテ豫防方法ヲ遵守セサルモノ
- 實布の里亞病患者ニ限リ前項ニ該當スルモノト雖モ自宅治療ヲ許スコトヲ得
- 第三條 傳染病院又ハ隔離病舎ヘ移送スヘキ患者ハ其病狀ニ依リ成ルヘク飲料ニ供スヘキ凍氷嗽盤其他必要ナル藥品ヲ携帶セシムヘシ
- 第四條 傳染病院又ハ隔離病舎ヘ移送スヘキ患者ニシテ死ニ瀕スルカ又ハ暴風雨若クハ炎熱ノ時間ハ一時其移送ヲ停止スヘシ
- 第五條 傳染病院又ハ隔離病舎ニ入ルヘキ患者ノ附添看護ヲ請フモノアルトキハ當該吏員ノ見込ニ依リ許スコトヲ得但痘瘡患者ノ看護人ハ痘瘡濟ノ者又ハ種痘濟ノ者ニアラサレハ許可スヘカラス
- 第六條 患者ノ自宅ニ於テ治療スルトキハ左ノ各項ヲ遵守セシムヘシ
 - 一 病室ニハ醫師及看護人ヲ除クノ外當該吏員ノ認可ヲ受クルニアラサレハ交通セシムヘカラス

- 二 看護人ハ當該吏員ノ認可ヲ受ケ衣服身體ヲ消毒シタル後ニアラサレハ外出セシムヘカラス
- 三 病室内ニ於テハ患者ノ外飲食セシムヘカラス
- 四 患者ニ供シタル飲食物ノ殘餘ハ消毒ノ上當該吏員ノ指示シタル一定ノ場所ニ投棄セシメ其器具ハ使用ノ都度消毒セシムヘシ
- 五 病室ニハ患者ノ治療及看護ニ必要ナル物品ノ外置カシムヘカラス
- 六 患者ノ吐瀉物及病毒ニ汚染セル物品竝病室内ノ塵芥ニシテ直ニ燒却又ハ消毒スルコト能ハサルトキハ覆蓋ヲ有スル一定ノ器物ニ入レ置カシムヘシ
- 七 當該吏員ノ許可ヲ得ルニアラサレハ患者ヲ他室ニ移サシムヘカラス
- 八 患者ヲ他室ニ移シタルトキハ前病室ハ直ニ消毒セシムヘシ
- 九 患者ノ沐浴シタル湯水ハ消毒ノ上當該吏員ノ指示シタル一定ノ場所ニ投棄セシムヘシ
- 十 以上各項ノ外當該吏員ノ指示スル事項
- 第七條 病毒混入ノ虞アリト認メタル井戸ニ對シテハ直ニ該井戸ノ使用ヲ禁シ其水量五十分一ノ鹽酸又ハ粗製鹽酸ヲ投入攪拌ノ後封鎖シ二十四時間後井戸浚ヲ爲シ井側ヲ洗淨セシメ且水上ケ器械ヲ消毒シタル後ニアラサレハ使用セシムヘカラス但石灰乳ヲ以

テ代用スルモ妨ケナシ此場合ニ於テハ五十分一以上ノ石灰乳ヲ用ヒ鹽酸同様ノ處理ヲ爲シ銳敏ナル赤色試驗紙ノ變色セサルマテ數回汲換ユヘシ

第八條 市町村長又ハ豫防委員ハ傳染病患者若クハ死體ノ移轉ヲ請フモノアルトキハ警察官若クハ檢疫委員ニ協議シ差支ヘナキ者ニ限り之ヲ許シ移轉地ノ市役所町村役場ニ其趣通報スヘシ

第九條 傳染病豫防法第八條ニ依リ交通遮斷ヲ爲シタルトキハ市町村ハ患家ニ於ケル日用品買入其他必須ノ用務ヲ辨セシムル爲メ人夫ヲ雇入ルヘシ

第十條 傳染病豫防法第十九條第二ニ依リ交通ヲ遮斷シ又ハ人民ヲ隔離シタルトキハ隔離及隔離内ノ人民ノ用務ヲ辨セシムル爲メ相當ノ人夫ヲ雇入レ且其區域内ニ於テ之カ爲メ自活シ能ハサル者アルトキハ市町村長ハ左ノ制限ニ依リ救助スヘシ

十二年以上ハ 一日金八錢以内
十二年以下ハ 一日金六錢以内

前項ノ費用ハ遮斷又ハ隔離ヲ解キタル日ヨリ五日以内ニ明細書ヲ作り縣廳ニ請求スヘシ但町村長ヨリ差出ヘキ請求書ハ郡長ノ證明ヲ受クヘシ

第十一條 市町村長又ハ豫防委員ハ傳染病ノ疑ヒアル患者又ハ死者アルトキハ市町村醫ヲシテ檢診セシムヘシ

第十二條 傳染病患者ノ死體ハ沐浴セシムヘカラス

第十三條 二十四時間内ニ死體ノ埋葬ヲ請フ者アルトキハ醫師ノ檢案ヲ調査シ不都合ナシト認ムルモノハ速ニ之ヲ認可スヘシ

第十四條 警察官又ハ檢疫委員ヨリ傳染病患者ノ有無ヲ檢診スル爲メ市町村醫ノ派遣ヲ求ムルトキハ速ニ之ニ應セシムヘシ

第十五條 市町村ハ常ニ左ノ器具及消毒藥ヲ備フヘシ

- 一。檢温器及蓋付金 (口徑二尺以上ニシテ一重ノ者ニアリテハ毛布ヲ以テ包圍スヘシ) 壹。組。以。上。
- 一。屬製蒸汽消毒器 壹。個。以。上。
- 一。煮沸消毒用釜 (口徑一尺八寸以上) 壹。個。以。上。
- 一。汚物及未消毒物運搬器 (長三尺巾二尺高二尺三寸以上ニシテ蓋付長持形トシ可成車ヲ附スヘシ) 市町村ハハ 二五個。以。上。
- 一。患者運搬器 (ヅツク製擔荷) 市町村ハハ 二五個。以。上。
- 一。蓋付糞便煮沸消毒器 市町村ハハ 二五個。以。上。
- 一。便器 市町村ハハ 二五個。以。上。
- 一。如露器 市町村ハハ 二五個。以。上。

強○壓○撒○布○器

秤

液○量○器

(メートルグラス)
(二合及一升)

提○桶○柄○杓○付

石○炭○酸○溶○解○用○樽

昇○汞○溶○解○用○瓶○或○ハ○甕

消○毒○所○用○石○炭○酸○水○容○器○(蓋○付○壹○斗○以○上○入○ノ○甕)

昇○汞○水○容○器○(蓋○付○壹○斗○以○上○入○ノ○甕)

煮○沸○水○容○器○(蓋○付○壹○斗○以○上○入○ノ○甕)

病○室○用○石○炭○酸○容○器○(蓋○付○甕)

病○室○用○唾○壺○(蓋○付○ヲ○用○フ○ヘシ)

石○炭○酸

町市	若	若	二	二	二	三	三	町市	各	壹	壹	町市
村	千	千	個	個	個	個	個	村	壹	個	個	村
ハ	十	廿	磅	磅	個	個	個	ハ	個	個	個	ハ
ハ	磅	磅	以	以	以	以	以	ハ	以	以	以	ハ
	以		上	上	上	上	上		上	上	上	

昇○汞○(鎖○鑰○ア○ル○箱○中○ニ○格○納○ス○ヘシ)

鹽○酸

ス○カ○レ○ツ○ト○又○ハ○酸○性○フ○ク○シ○ン

生○石○灰○(鐵○葉○罐○ニ○入○レ○密○閉○ス○ヘシ)

食○器○入○棚○(患○者○健○康○者○ノ○區○劃○ス○ヘシ)

食○器○煮○沸○釜

消○毒○用○石○鹼

偈○里○設○林

食○鹽

偈○里○設○林○灌○腸○器

イ○ル○リ○カ○ト○ル

ブ○ラ○ハ○ツ○氏○注○射○器

木○綿

五	壹	壹	壹	壹	壹	若	壹	若	町市	壹	町市	町市
反	個	個	個	磅	磅	干	個	干	村	磅	村	村
	以	以	以	以	以	以	以	以	ハ	以	ハ	ハ
	上	上	上	上	上	上	上	上		上	上	上

- 一 ガーゼ
 - 一 綿
 - 一 脱脂綿
 - 一 體温器
 - 一 下駄草履
 - 一 消毒衣
 - 一 右ノ外必要ナル物品
- 第十六條 衛生組合ニハ常ニ左ノ藥品及器具ヲ設備セシムヘシ但一ノ大字ヲ以テ數組合ト爲シタル箇所ハ聯合シテ之ヲ設備シ又市役所町村役場所在地ノ組合ニ在テハ之ヲ設備セサルコトヲ得
- 一 便器
 - 一 升
 - 一 石炭酸溶解用樽
 - 一 提桶 柄杓付
 - 一 石炭酸
- 一 五〇反
 - 一 三〇袋
 - 一 二〇個
 - 一 三〇個
 - 一 各五〇
 - 一 五〇著
 - 一 五〇以上
 - 一 一〇以上
 - 一 一〇以上
 - 一 一〇以上
 - 一 一〇以上

(但鉄葉罐ニ入レ密封シテ貯藏スヘシ)

- 一 鹽酸
 - 一 生石灰
 - 一 撒布器
 - 一 如露
- 右ノ外適宜必要ナル物品
- 第十七條 市町村ハ傳染病豫防救治ノ爲メ相當ノ手當ヲ給スル市町村醫一名若クハ數名ヲ置クヘシ但町村ノ狀況ニ依リ當時醫師ヲ置ク能ハサルトキハ豫メ醫師ヲ指定シ置キ臨時差支ナキ様取計フヘシ
- 市町村長醫師ヲ撰定スルニハ警察署長又ハ警察分署長ニ協議スヘシ
- 市町村長ハ市町村醫ノ氏名及手當額ヲ縣廳ニ届出ヘシ
- 第十八條 市町村ハ傳染病發生ニ際シ豫防消毒ニ必要ナル人夫ヲ雇入ルヘシ但人夫ノ雇入員數等ニ付警察官郡吏員又ハ檢疫委員ノ指示アルトキハ其指示ニ從フヘシ
- 第十九條 隔離病舎ヲ開キタルトキハ市町村長ハ受持醫師ヲ定メ且看護人及人夫ヲ雇入レ治療消毒其他ニ差支ナカラシムヘシ
- 第二十條 傳染病院隔離病舎ノ設置ナキ村ニ於テハ之ニ充ツヘキ適當ノ建物ヲ豫定シ圖面ヲ添ヘ郡役所ヲ經由シ縣廳ノ認可ヲ受クヘシ其ノ之ヲ變更セントスルトキ亦同シ
- 同
 - 五貫目以上
 - 三貫目以上
 - 二個以上
 - 三個以上
 - 一個以上
 - 一升及一合升各一個以上
 - 一個以上
 - 一個以上
 - 一個以上

附 則

本則ハ發布ノ日ヨリ施行ス

明治二十四年四月石川縣訓令第三十五號明治二十七年九月石川縣訓令第四十號明治二十八年五月石川縣訓令甲第三十一號同年六月石川縣訓令甲第三十三號同月石川縣訓令甲第三十六號及同月石川縣訓令甲第三十七號ハ本則施行ノ日ヨリ廢止ス

●市町村ニ於テ負擔スヘキ傳染病豫防費ノ件

○縣令第四十七號 明治二十七年八月二十八日

傳染病豫防ニ關スル左ノ諸費ハ發病地ノ市町村ニ於テ負擔スヘシ

但明治二十一年(八月)縣令第二百二號傳染病豫防費負擔區別ハ廢止ス

- 一 種痘ニ關スル諸費
- 一 豫防消毒ニ要スル諸費
- 一 避病院隔離病室又ハ隔離所ニ關スル諸費
- 一 豫防並治療ノ爲備入レタル醫師ニ關スル諸費

●傳染病院隔離病舎ノ設備並管理規則

(改正) 三二年七月縣令第五八號、三八年四月同第二二號

○縣令第五十一號 明治三十一年五月二十四日

傳染病院隔離病舎ノ設備並管理規則左ノ通定ム

傳染病院隔離病舎ノ設備並管理規則

第一章 通 則

第一條 市町村傳染病院又ハ隔離病舎ノ設置移轉増築模樣換若ハ改築ヲ命セラレタル片

又ハ設置移轉増築模樣換若クハ改築セントスルトキハ左ノ事項ヲ具シ縣廳ノ認可ヲ受クヘシ但増築模樣換又ハ改築ニ係ルトキハ一號及二號ノ事項ヲ要セス

一 傳染病院又ハ隔離病舎設置ノ地名番地及近傍建物トノ距離ヲ記シタル見取圖

二 敷地ノ坪數及圖面

三 建物ノ位置坪數圖面並ニ構造仕樣書

四 豫算書類

第一條ノ二 常設傳染病院ノ醫長、醫員及調劑掛ヲ任用セムトスルトキハ其ノ者ノ住所氏名、履歷及手當支給額ヲ具シ縣廳ノ認可ヲ受クヘシ

常設ニアラサル傳染病院及隔離病舎ノ前項職員ヲ任用ノ場合ハ管轄警察署長又ハ警察分署長ノ同意ヲ得テ之ヲ命シ其ノ者ノ住所、氏名、履歴及手當支給額ヲ縣廳ニ届出ヘシ但シ不適任者ト認ムルトキハ改任ヲ命スルコトアルヘシ

第二條 傳染病院又ハ隔離病舎ノ建設地ハ力メテ患者運搬ノ便利ヲ圖リ可成道路險惡交通不便ノ地ヲ避クヘシ

第二章 傳染病院

第三條 傳染病院ハ左ノ建物ヲ設クヘシ

- 一 重症患者室 若干棟
- 一 輕症患者室 若干棟
- 一 快復期患者室 一棟
- 以上ノ建物ニハ各別ニ廁ヲ設ケ且ツ快復期患者室ニハ浴室ヲ備フヘシ
- 一 醫員其他事務員詰所調劑所看護人室小使室及炊場等 一棟
- 但浴室廁ヲ備フヘシ
- 一 消毒所 一箇所
- 但洗濯所ノ附屬ヲ要ス
- 一 屍室 一箇所

- 一 汚物置場及燒却所
- 一 物置 一箇所

町村ニ於テハ其狀況ニ依リ重症患者室輕症患者室及快復期患者室ヲ同一建物中ニ區劃シテ設クルコトヲ得

第四條 傳染病院ノ構造ハ左ノ制限ニ依ルヘシ

- 一 病室ノ廣サハ患者一人ニ付一坪半以上ノ割合ヲ以テ造ルヘシ
- 一 病室ハ床側壁共板張ト爲シ洗滌消毒ニ便スヘシ
- 一 屍室ハ床ヲ漆喰敲キ又ハ板張ト爲スヘシ
- 一 各病室ノ床下ハ漆喰敲キト爲シ傾斜ヲ付シテ汚水ノ流下ニ便ニシ滲透セサル汚水溜ヲ外部ニ設ケテ之ニ流入セシムル施設ヲ爲スヘシ

第五條 傳染病院ニハ左ノ割合ヲ以テ醫師調劑掛看護人事務員ヲ置クヘシ

- 一 醫長 一人
- 一 醫員 患者十五名乃至二十名ニ付一人
- 一 調劑掛 二人以上
- 一 看護人 患者五名ニ付一人
- 一 事務員 若干人

町村ニ於テハ其狀況ニヨリ別ニ醫長調劑掛ヲ置カス醫員ヲシテ之レヲ兼ネシムルコトヲ得

第三章 隔離病舎

第六條 隔離病舎ハ左ノ建物ヲ設クヘシ

一 患者室

一 棟

但重症輕症及快復期室ヲ區劃シテ設ケ且ツ厠及浴室ヲ設クヘシ

一 醫員事務員詰所調劑所看護人室小使室炊場及物置等

一 棟

一 屍室

一 箇所

一 汚物置場、消毒所及燒却所

一 箇所

第七條 隔離病舎ノ構造ハ第四條ニ依ルヘシ

第八條 隔離病舎ニハ左ノ割合ヲ以テ醫師看護人事務員ヲ置クヘシ

一 醫員

患者十五名乃至二十名ニ付一人

一 看護人

患者五名ニ付一人

一 事務員

若干人

第四章 傳染病及隔離病舎ノ管理方法

第九條 醫長ハ傳染病院内ノ醫務衛生事務ヲ掌理シ醫員以下看護人等ヲ監督スヘシ

醫長ハ毎日一回以上回診シ治療並看護ノ方針ヲ醫員及看護人ニ指示スヘシ

隔離病舎ノ醫員ハ前各項ニ準據シ服務スヘシ

第十條 傳染病院ノ醫員ハ醫長ノ指揮ヲ受ケ治療其他患者ニ關スル事務ヲ擔當スヘシ

第十一條 調劑掛ハ醫長ノ指揮ヲ受ケ調劑ニ關スル一切ノ事務ヲ擔當スヘシ

第十二條 消毒ニ從事セシムル爲メ豫メ消毒擔當者若干名ヲ定メ置クヘシ

第十三條 看護人ハ醫長又ハ醫員ノ指揮ヲ受ケ懇切ニ患者ノ看護ヲ爲スヘシ

第十四條 醫員調劑掛事務員ハ交番宿直スヘシ

看護人ハ傳染病院又ハ隔離病舎内ニ宿泊シ交番ヲ以テ晝夜看護ニ從事スヘシ看護人ニ

シテ調劑所及炊場ニ往復スル者ハ豫メ之ヲ定メ置キ其他ハ猥リニ出入セシムヘカラス

第十五條 患者ノ附添看護人ニハ傳染病院又ハ隔離病舎内ノ諸規則及醫長又ハ醫員以下

ノ指揮ヲ遵守セシメ且ツ猥リニ外出ヲ許スヘカラス

第十六條 醫長醫員及看護人病室ニ入ルトキハ病室用衣ヲ被ヒ病室ヲ出ダタルトキハ之

ヲ脱スヘシ見舞人其他病室ニ出入スル者ハ本項ニ準シ病室用衣ヲ被ハシムヘシ

消毒所屍室汚物置場及燒却所ニ出入スルトキモ亦本項ニ準スヘシ

第十七條 病室用衣ハ一週二回以上消毒ノ上之レヲ洗濯スヘシ若シ患者ノ排泄物ニ觸レ

タルトキハ其都度充分消毒ヲ爲スヘシ

患者護送ノ人夫及運搬ノ器具ハ其都度十分消毒ヲ爲スヘシ

第十八條 病室其他ニ於テ患者又ハ其被服寢具器具等ニ接觸シタルトキハ速カニ手足其他觸接シタル部分ヲ二十倍ノ石炭酸水二十倍ノ格魯兒石灰水又ハ千倍ノ昇汞水(著色シタルモノ)ヲ以テ消毒スヘシ

第十九條 飲料水及飲食物ハ必ス煮沸シタルモノヲ用ユヘシ

第二十條 飲食物ハ指定ノモノ、外ハ總テ他ヨリ傳染病院又ハ隔離病舎内ニ運ヒ入ルヲ禁スヘシ

第二十一條 患者用ノ飲食器具ハ毎回必ス之ヲ煮沸シ又ハ熱湯ニテ洗滌スヘシ

第二十二條 患者ニ供シタル飲食物ノ殘餘ハ直チニ消毒ノ上一定ノ場所ニ棄却スヘシ

第二十三條 患者ノ排泄物ハ必ス一定ノ容器中ニ取り概ネ排泄物量ニ倍ノ石灰乳(十倍ノモノ)ヲ混シ一時間以上放置スヘシ

石灰乳ニ代フルニ格魯兒石灰ヲ以テスルコトヲ得此場合ニ於テハ排泄物量約十五分ノ一ノ格魯兒石灰ヲ混シ十五分間放置スヘシ汚水ノ消毒モ亦之ニ準ス

第二十四條 患者ヲ快復期患者室ニ移スルトキハ豫メ相當ノ消毒ヲ爲スヘシ

第二十五條 患者全愈シタルトキハ先ツ千倍ノ昇汞水又ハ四十倍ノ石炭酸水ニテ全身ヲ

拭淨シタル上入浴セシメ石鹼ヲ以テ身體ヲ清洗シ然ル後衣服ヲ更ヘ退院(舎)セシムヘシ

第二十六條 患者ノ被服又ハ寢具器具其他病毒汚染ノ疑ヒアルモノハ消毒法ヲ行ヒタル後ニアラサレハ他ニ持出ツルコトヲ禁スヘシ

第二十七條 患者ノ寢具衣類其他ノ布片ヲ消毒スルニハ蒸汽消毒又ハ煮沸消毒ヲ行フヘシ但同法ヲ行ヒ能ハサルトキハ二十倍ノ石炭酸水中ニ浸漬スヘシ

第二十八條 革製ノ物品ハ二十倍ノ石炭酸水又ハ二十倍ノ格魯兒石灰水ヲ以テ拭淨スヘシ

第二十九條 患者ニ觸接シタルモノニシテ汽熱又ハ藥力ヲ以テ消毒シ能ハサルモノハ少ナクモ六日間日光ノ直射シ乾燥セル場所ニ曝スヘシ

第三十條 患者ノ排泄物ノ觸接セシ物品ニシテ價格ノ低廉ナルモノハ成ルヘク之ヲ燒棄スヘシ

第三十一條 床板側壁及家具中木製及金屬製ノ部分其他之ト類似ノ物品ハ二十倍ノ石炭酸水ヲ以テ濕シタル布片ヲ以テ拭淨スヘシ但床板側壁等ヲ消毒スルニハ十倍ノ石灰乳ヲ用ユルモ可ナリ此場合ニ於テハ少ナクモ二時間放置シタル後洗濯スヘシ

病室ハ消毒ヲ終リタル後可成二十四時間放置シ空氣ヲ流通セシムヘシ

第三十二條 死者ハ直チニ二十倍ノ石炭酸水ニ浸シタル布片ヲ以テ全身ヲ被包シ速カニ

之ヲ屍室ニ移スヘシ

第三十三條 火葬又ハ埋葬スル爲メ死體ヲ他所ニ移ストキハ棺中ニ生石灰又ハ格魯兒石灰ヲ入レ其上ニ屍體ヲ置キ更ニ該藥ヲ撒布シテ之ヲ密閉スヘシ
死體ノ運搬ハ可成未明又ハ夜間ニ於テスヘシ

第三十四條 傳染病院又ハ隔離病舎内ニハ寢具其他必要ナル器具藥品等ヲ備ヘ置クヘシ
院又ハ舎内ノ諸員及外來者ニ使用セシムル爲メ病室用衣ヲ備ヘ置クヘシ
寢臺ヲ用ヒサル場合ニ於テハ疊ノ上ニ油紙其他汚物滲透ノ虞ナキ物ヲ敷クヘシ

第三十五條 傳染病院及隔離病舎ハ閉鎖中ト雖トモ時々掃除ヲ爲シ且破損シタルトキハ速ニ修理スヘシ

第三十六條 傳染病院及隔離病舎ニハ適宜ノ方法ニ依リ看守人ヲ置クヘシ

●町村立傳染病院、隔離病舎閉鎖中他ニ
利用セムトスルトキ認可ヲ受ケシムル
等ノ件

○訓令甲第八號 明治三十七年二月二十七日

郡役所 町村役場

町村立傳染病院、隔離病舎ニシテ閉鎖中他ノ目的ニ利用セムトスルトキハ其目的ヲ具シ郡長ノ認可ヲ受クヘシ
前項ニ依リ郡長ニ於テ認可ヲ與ヘタルトキハ使用ノ目的及認可ノ月日ヲ報告スヘシ

●市町村傳染病豫防費補助規程

○縣令第三十四號 明治三十五年五月二十二日

明治三十年(十二月)石川縣令第八十一號市町村傳染病豫防費補助規程左ノ通改正ス

市町村傳染病豫防費補助規程

第一條 傳染病院、隔離病舎、隔離所及消毒所ノ新設又ハ改築ニ要シタル費用並常設病院ニ要シタル費用ニ對シテハ其ノ精算額ノ三分ノ一ヲ補助ス

第二條 傳染病院、隔離病舎、隔離所及消毒所ノ模様換又ハ修繕ニ要シタル費用ニ對シテハ其ノ精算額ノ四分ノ一ヲ補助ス

第三條 前二條ノ外傳染病豫防法第二十一條及第二十三條第二項ノ支出ニ對シテハ其ノ精算額ノ六分ノ一ヲ補助ス

第四條 市町村ヨリ申請セル支出精算額過當ト認ムルトキハ之ヲ査定シ其ノ査定額ニ對シテ補助スルコトアルヘシ

第五條 補助ハ現品ヲ以テ交付スルコトアルヘシ

第六條 傳染病流行ノ勢ヒ猛劇ナルカ又ハ天災地變其ノ他非常ノ災害ニ依リ傳染病豫防費市町村ノ負擔ニ堪ヘスト認ムルトキ又ハ特別ノ事由アルトキハ規定ノ補助額以上全部迄ヲ補助スルコトアルヘシ

第七條 補助ヲ受ケテ購入シタル土地及建物ヲ傳染病豫防上ニ使用スルコトナク他ニ轉用スルカ又ハ賣却セムトスルトキハ其ノ事由ヲ具シ知事ノ認可ヲ受クヘシ此ノ場合ニ於テハ補助金ヲ返納セシムルコトアルヘシ

第八條 本規程ニ依ル補助ハ當該年度後四ヶ月以内ニ知事ニ申請スヘシ該期限内ニ申請セサル者ハ補助セズ

附 則

第九條 本規程ハ市町村ニ於ケル明治三十五年度所屬ノ分ヨリ之ヲ施行ス

第十條 明治三十四年度以前ニ屬スル市町村傳染病豫防費ノ支出ニ對スル補助ノ申請ハ明治三十五年七月三十一日マテニ爲サ、ル者ハ補助セズ

●市町村傳染病豫防費補助稟請手續

○訓令甲第六號 明治三十六年三月十七日

明治三十一年(六月)石川縣訓令甲第四十號市町村傳染病豫防費補助稟請手續左ノ通改正ス

市町村傳染病豫防費補助稟請手續

第一條 市町村長ハ毎年四月十日マテニ傳染病豫防法第二十一條ノ諸費及第二十三條第二項ノ補助費決議額ヲ知事ニ報告スヘシ追加ヲ爲シタルトキハ其都度之ヲ報告スヘシ但決議書ノ寫ヲ添付スヘシ

第二條 市町村ニ於テ傳染病豫防費ノ補助ヲ受ケムトスルトキハ左ノ各號ノ事項ヲ具シ申請スヘシ

一 市町村傳染病豫防費第一條乃至第三條ニ掲クル諸費ノ支拂精算書但各條ニ區別シ

別記様式ニ依リ調製スヘシ

二 支出ニ伴フ収入又ハ補助金寄附金アルトキハ其ノ精算書

三 歳入歳出豫算表

四 傳染病豫防救治ニ關スル日誌

第三條 市町村傳染病豫防費補助規程第六條ニ依リ特別ノ補助ヲ受ケムトスルトキハ前條ノ他左ノ各號ノ事項ヲ添付スヘシ

一 當該年度及前二ヶ年度ノ一戸平均市町村税賦課額

二 特別ノ補助ヲ要スル理由書

第四條 傳染病豫防救治ニ關スル日誌ニハ左ノ事項ヲ記載シ郡官吏警察官吏又ハ檢疫委員ノ認印ヲ受クヘシ

一 清潔方法消毒方法施行ノ月日並區域及之ニ要シタル人夫ノ員數消毒藥品ノ數量

二 傳染病患者發生ノ届出又ハ通知ヲ受ケタル日時及轉歸又ハ他ノ市町村へ移轉シタル日時

三 傳染病院又ハ隔離病舎ニ收容シタル患者ノ住所氏名及收容退院退舎ノ日時

四 市町村醫(臨時雇醫ヲ含ム)及傳染病院隔離病舎ノ醫長醫員調劑員事務員看護婦小使(婦人)人夫ノ住所氏名雇入及解雇ノ月日並其ノ手當又ハ日給額

五 豫防救治ニ從事シタル者ノ病毒ニ感染シタルトキハ其ノ感染及轉歸ノ日時

六 以上ノ他傳染病豫防救治ニ關スル事項

第五條 市町村傳染病豫防費補助規程第六條ニ依ルヘキモノハ傳染病豫防費ノ支出市町村税徴收額ノ半額以上ニ上リ負擔ニ堪ヘサルトキニ限ルモノトス但天災地變其ノ他非常ノ災害ノ爲特別ノ事由アルモノハ此ノ限ニアラス

第六條 傳染病院隔離病舎隔離所消毒所等ノ建築ニシテ工事ノ兩年度以上ニ跨ルモノニ在テハ申請書ノ精算金額ハ各年度ニ區分スヘシ

第七條 市町村掃除規程ニ依リ施行スル費用中家屋及邸地内ニ於ケル費用ハ市町村費ヲ以テ給シタル消毒藥ノ他算入スヘカラス

第八條 此ノ手續ニ依リ町村長ヨリ提出ノ書類ハ郡長ヲ經由スヘシ郡長ニ於テ補助申請書ヲ受理シタルトキハ速カニ調査シ意見ヲ付シ進達スヘシ

(様式)

明治何年度市町村傳染病豫防費補助規程第何條ニ依ル經費支出精算書

金額	種類及員數	注文又ハ契約ノ年月日 支拂年月日	使用ノ目的	受取人ノ 住所氏名

右ノ通ニ候也

市町村長 氏 名印

備考

- 一 傳染病院隔離病舎隔離所消毒所ノ新設改築又ハ模様換ニ要シタル費用ニ在テハ其ノ認可ノ年月日ヲ使用ノ目的欄ニ記載スヘシ
- 一 精算書ニハ同一ノ受取人ナルモ種類ヲ異ニスルモノニ在テハ各別ニ記スヘシ
- 一 傳染病ノ豫防救治ニ從事シタル者ノ手當金及旅費等ニ在テハ第三欄ニハ支拂年月日ノミヲ第五欄ニハ其ノ職名(市町村吏員ニシテ傳染病豫防委員タル者ハ其ノ旨併記スヘシ)及氏名ヲ記スヘシ
- 一 總テ物品ノ買入ニ在テハ種類員數金額及其ノ使用ノ目的ヲ明記スヘシ

●傳染病豫防救治從事者手當支給準則

(改正) 三七年四月訓令甲第二四號

○訓令甲第三十九號 明治三十五年七月十二日

郡役所 市役所

町村役場

市町村ハ傳染病ノ豫防救治ニ從事スル者及該從事者ニシテ公務ニ因リ病毒ニ感染シ又ハ之ニ原因シテ死亡シタル者ノ手當金支給ニ關スル規定ヲ左記準則ニ依リ設定スヘシ

前項規定ハ市ハ直ニ町村ハ郡長ヲ經テ知事ニ稟請シ認可ヲ受クヘシ其變更ヲ爲サムトスルトキ亦同シ

既ニ届出済ノモノハ前項認可ヲ受ケタルモノト見做ス

傳染病豫防救治從事者手當支給準則

第一條 傳染病ノ豫防救治ニ從事スル者及該從事者ニシテ公務ニ因リ病毒ニ感染シ又ハ之ニ原因シテ死亡シタルトキハ本則ニ依リ手當金ヲ給ス

第二條 手當金ヲ別テ左ノ五種トス

一 特別手當金

二 療治料

三 給助料

四 弔祭料

五 遺族扶助料

第三條

傳染病豫防救治ニ從事スル者ニシテ専ラ該病者又ハ病毒汚染ノ虞アル物品ニ接近スル者ニハ特別手當金ヲ給シ病毒ニ感染シタル者ニハ療治料ヲ給ス感染者治癒シタルトキハ給助料ヲ給シ死亡シタルトキハ其遺族ニ弔祭料及遺族扶助料ヲ給ス遺族ナキトキハ葬儀ヲ行フ者ニ弔祭料ヲ給ス

但シ特別手當金ハ傳染病豫防救治ノ爲臨時雇入レタル醫師及其ノ他ノ吏員雇員ニシテ特ニ之カ爲俸給又ハ給料ヲ受クル者ニハ之ヲ給セス

遺族中遺族扶助料ヲ受クヘキ者ノ順位ハ官吏遺族扶助法ノ例ニ依ル

第四條

特別手當金ハ其俸給又ハ給料月額三分一以内ヲ給ス

第五條

療治料ハ一日壹圓以上貳圓以内ヲ給ス

第六條

給助料ハ給助料ヲ給スヘキ者ノ俸給又ハ給料月額三ヶ月分若クハ日給九十日分ニ相當スル金額ヲ給ス

第七條

弔祭料ハ死者ノ受ケタル俸給又ハ給料月額一ヶ月分若クハ日給三十日分ニ相當

スル金額ヲ給ス

第八條

遺族扶助料ハ死者ノ受ケタル給料ノ金額ニ應シ左表ニ依リ一時之ヲ給ス但日給ノ者ニアツテハ其日給額ニ三十ヲ乗シタル者ヲ以テ月給ト見做ス

遺族扶助料支給表

月給又ハ給料月額

遺族扶助料

百參拾圓以上

八百圓

百圓以上

七百圓

八拾圓以上

六百圓

七拾圓以上

五百圓

六拾圓以上

四百五拾圓

五拾圓以上

四百圓

四拾圓以上

參百五拾圓

參拾圓以上

參百圓

貳拾圓以上

貳百五拾圓

拾圓以上

貳百圓

拾圓未滿

百五拾圓

第九條 給料ヲ受ケサル名譽職員及委員ニ給スル手當支給額ハ左表ニ依ル

名譽職町村長	療治料	給助料	弔祭料	遺族扶助料
一日金壹圓以上 金貳圓以内	遺族扶助料二分 一相當額	金參拾圓以上 金四拾圓以内	金參百圓以上 金參百五十圓以内	金參拾圓以上 金貳百圓以上
同	同	金貳拾圓以上 金參拾圓以内	金貳百圓以上 金參百圓以内	金貳百圓以上 金貳百五十圓以内
豫防委員	同	同	金拾圓以上 金貳拾圓以内	金貳百圓以上 金貳百五十圓以内

肺結核豫防ニ關スル件

○告諭第二號 明治三十七年三月十七日

結核ハ傳染病ニシテ多クハ慢性ノ經過ヲ取り世人ノ注意ヲ惹クコト虎列拉「ベスト」ノ如ク甚シカラスト雖モ全国各地ニ蔓延シ年々多數ノ國民ヲ侵シ國家ニ慘害ヲ及スモノ蓋シ其ノ比ナカルヘシ全國ニ於ケル調査ニ依レハ明治三十二年中結核ニ原因シタル死亡者ハ約七萬ニシテ而シテ都市ニ於テ最モ多ク死亡總數ノ平均六分ノ一ヲ占メ又生産能力ヲ有スル年齢ニ在リテハ其ノ死亡數中六分ノ一餘ニ相當セリト云フ加之近年ニ至リ本病患者死者益増加ノ傾向アルニ依リ今般内務省令第一號ヲ以テ結核諸病中其ノ大部分ヲ占メ從

テ傳染蔓延ノ危害最モ大ナル肺結核ノ豫防ニ關シ取締規則ヲ發布セラレタル義ニ付一般人民ハ克ク該省令ノ趣旨ヲ會得シ其ノ實行ヲ嚴密ナラシムルハ勿論省令ノ規定以外ニ於テ肺結核豫防上個人ニ於テ遵守セサルヘカラサル左記各號ノ事項ハ必ス之カ實行ニ助メ以テ本病豫防ノ實効ヲ收メムコトヲ期スヘシ

- 一 肺結核病毒ノ蔓延ハ主トシテ患者ノ咯痰ニ因ルモノナレハ肺結核又ハ其ノ疑アル患者アル家ニ於テハ患者用トシテ磁製若クハ硝子製ノ有蓋唾壺(少量ノ消毒藥液又ハ水ヲ入レ置キヲ備ヘ唾壺内ノ唾痰ハ便所又ハ下水溝ニ投棄スルニ先チ消毒ヲ行フコト唾痰ヲ消毒スルニハ其同量以上ノ石炭酸水(二十倍)結晶石炭酸五分鹽ヲ加ヘ能ク攪拌シ一時間以上放置スルコト能ク攪拌シ一時間以上放置スルコト
- 二 肺結核患者ノ衣服、寢具、其ノ他患者ノ咯痰ニ汚染シタル物品ハ時々消毒ヲ行フコト
- 三 肺結核患者ノ居住シタル室其使用シタル衣服、寢具、飲食器具其ノ他ノ物品ハ病毒傳播ノ危險最モ大ナルヲ以テ相當ノ消毒ヲ行ヒタル後ニ非レハ他ニ使用セシメサルコト
- 四 呼吸器ニ異狀アル者、病後衰弱シタル者、體質虛弱ナル者、又ハ小兒ノ如キハ容易ニ結核病毒ニ感染スルノ虞アルヲ以テ肺結核又ハ其ノ疑アル患者ニハ可成近接

スルヲ避クルコト

- 五 病院ニアラスト雖モ患者ヲ收容スヘキ設備ヲシタル場所（學校、工場附屬ノ病室等）ニ在リテハ内務省令第一號第四條ニ準シ相當ノ施設ヲ爲スコト
- 六 塵埃中ニハ屢々結核菌ヲ含有シ爲ニ該病感染ノ原因トナリ又結核菌ヲ含有セサル塵埃ト雖モ呼吸器ヲ害シ肺結核ノ誘因トナルモノナレハ學校、工場其ノ他多人數集合スル建物ニ於テハ濕潤セル雜巾ヲ用ユル等可成塵埃ノ飛散セサル方法ヲ用キテ掃除ヲ行フコト

●顆粒性結膜炎「トラホーム」豫防ニ關スル件

○告諭第三號 明治三十七年三月十七日

顆粒性結膜炎（トラホーム）ハ傳染性ノ眼病ニシテ其ノ經過長ク治療困難ナルヨリ知ラス識ラス之ヲ等閑ニ付スルノ弊アリ明治三十五年本縣ニ於ケル陸軍徵兵検査成績ニ依ルニ檢丁三萬一千人中四千五百六十八人乃チ其ノ百人中十四人強ハ該病ニ冒サレ又本年同海軍志願兵受檢者百人ニ對シ五十人迄ハ該病ニ冒サレ居レリト謂フ願フニ縣民中壯健者タ

ル檢丁ニシテ斯ノ如ク夥多ノ患者アル以上ハ一般縣民中罹病數ノ多大ナルハ察知スルニ難カラス今ニシテ豫防ノ方法ヲ講セザラムカ病毒ハ益滋蔓シ將來復救フヘカラサル悲境ニ沈淪スルハ瞭然タルヲ以テ此際學校製造所其ノ他衆人群集ノ場所ハ勿論個人ニ於テモ之レカ病症及傳染ノ經路ヲ知悉シ以テ自衛ノ途ヲ講スルハ實ニ刻下ノ急務ニ屬スルニ因リ茲ニ本病ノ原因症狀豫防法等ノ梗概ヲ叙シ豫防ノ資ニ供セシム各自協力シテ防遏ノ方法ヲ實行シ以テ該病ノ撲滅ヲ期スヘシ

第一 原因

本病ハ一種ノ傳染性眼病ニシテ其ノ病原ハ患眼ノ分泌液中ニ存在シ種々ノ媒介物ニ依リテ傳染ス而シテ其ノ傳染力ノ強勢ナルハ分泌物ノ最モ旺盛ナル時期ニアリト雖モ又平時ニ在リテモ傳染力ヲ有スルモノトス
本病ハ直接ニ傳染スル場合ナキニアラスト雖モ其ノ多クハ夥多ノ媒介物ニ依ル即チ患家ノ交通、手指、手拭、手巾、洗面洗手器等ノ共用ニ因ル故ニ衆人群居ノ個所衣食住共同ノ場所假令ハ工場、獄舎、兵營、學校等ニアリテハ大ニ蔓延シ易シトス

第二 症候

本病ヲ分チ急性慢性症ノ二ニス其ノ急性症ナルモノニアリテハ始メ眼瞼結膜發赤腫服シ眼内ニ粗糙ノ感覺アリ恰モ砂塵等ノ入りタルニアラサルナキヤヲ疑フ斯クシテ漸ク涙

液ノ分泌盛トナリ灼熱羞明等アリ然レトモ分泌物ハ日ヲ經ルニ從ヒ粘稠膿樣ニ變ス此際
眼瞼ヲ翻轉スレハ灰白黃色ノ圓形小顆粒ヲ認ム其ノ甚シキニ至リテハ恰モ粟粒ノ相連ル
ニ似タリ眼球結膜モ亦甚シク發赤シ且多少腫脹ヲ呈ス慢性症ニアリテハ初ヨリ慢性ニ起
ルモノアリ又ハ急性症狀ノ去リテ慢性ニ移行スルモノアリテ症狀一定セスト雖モ概シテ
羞明搔痒等アリ試ニ眼瞼ヲ翻轉スレハ扁平灰白黃色ノ顆粒散在性ニ或ハ擴汎性ニ發生シ其
ノ甚シキハ恰モ桑實樣ノ觀ヲ呈スルモノアリ斯ノ如クシテ其ノ顆粒ハ自然ニ吸收セラレ
テ消失スルモノアリ然ラサルモノハ潰爛シテ創面ニ變シ分症物ハ膿性ニシテ疼痛羞明又
一層強ク遂ニ角膜ニ炎症ヲ及シ大ニ視力ノ障害ヲ來スニ至ル

第三 經過

急性症ハ罕ニハ三四ヶ月ニシテ顆粒吸收セラレ幸ニ治愈ノ轉歸ヲ取ルコトアリト雖モ多
クハ其顆粒遺存シ慢性症ニ轉スルモノトス或ハ時々急性症ノ發作等アリテ長キハ數月若
クハ數年時トシテハ終世ニ涉ルモノアリ

第四 豫後

本病ハ初期ニ於テ速ニ適當ノ治療ヲ施セハ全治スヘシト雖モ病勢ノ大ニ増進シタル後ニ
アリテハ結膜ニ癍痕萎縮ヲ來シ多クハ角膜病ヲ繼發シ視力障害ヲ惹起シ殆ント失明スル
ニ至ルコトアリトス

第五 豫め法

- 一 凡テノ塵烟極度ノ光線視力過度ノ使用睡眠不足等ノ如キ眼球ヲ刺戟シ又ハ疲勞セ
シムル等ハ本病ヲシテ感染シ易カラシムル原因トナルモノナレハ可及的之レヲ避
クルヲ要ス
- 二 本病ノ極メテ初期ニ於テハ特別ノ症狀ナキヲ以テ等閑ニ流レ易キモノナリ故ニ眼
球ニ異常ノ感覺アルカ若ハ睡眠後睫毛ニ粘液糊著等ノ場合ハ直ニ醫師ノ治療ヲ請
フヘシ
- 三 凡テ傳染病毒ハ不潔ニシテ空氣ノ流通惡シキ場所ニ於テ播殖力旺盛ナルカ故ニ身
體及居室ヲ清潔ニスルハ勿論爪ヲ短ク剪リ不潔物ノ附着セサル様注意シ其ノ不潔
ノ場所ニ對シ時々藥物消毒法ヲ施行シテ病毒ノ發生ヲ防止スルヲ要ス
- 四 家族中本病ニ罹ルモノアルトキハ健康者ト隔離スルハ最モ豫防ノ本領トス然ラサ
ルモ洗面洗手器手拭手巾衣服臥具食器等ハ必ラス之ヲ區別シ置キ決シテ健康者ヲ
シテ使用セシメサルヲ要ス且洗面洗手器手拭手巾ハ時々二十倍ノ石炭酸水若ハ熱
灰汁(木灰一分ニ水四分ヲ加ヘ煮沸シタルモノ)ヲ以テ消毒スヘシ
- 五 健康者ニシテ手指ヲ眼ニ觸レントスルトキハ必ス淨水ニテ洗滌シタル後之ヲ爲シ
又患者ニシテ手指ヲ眼ニ觸レタルトキハ其ノ都度必ス二十倍ノ石炭酸水ニテ消毒

- 六 シタル後更ニ淨水ヲ以テ洗滌スルヲ要ス
浴槽内ノ湯ニシテ洗面シ又ハ社寺其他共同使用ノ手拭ヲ使用スル等ノ行爲ハ病毒
傳染ノ危険アルニヨリ之ヲ爲サ、ルヲ要ス
- 七 凡テノ治療ハ醫師ニ頼ルハ勿論ナリト雖モ本病ハ一時治スルカ如キモ容易ニ再發
スルモノナルカ故ニ患者ハ半途治療ヲ廢スル等ノコトナク忍耐シテ充分療養ヲ加
ヘ之レカ全治ヲ期スルヲ要ス

●傳染病豫防ニ關シ衛生留意方

○告諭第一號 明治四十二年四月二十八日

傳染病ノ豫防ニ關シテハ從來屢々注意シタル所ナルモ其發生流行ハ年々繼續シテ多大ノ
人命ト財産トヲ犠牲ニ供セシノミナラス直接間接ニ生産力ヲ阻害セルハ既往ノ事實ニ徴
シテ明カナリ明治三十七年ヨリ同四十一年ニ至ル五ケ年間ニ發生シタル各種傳染病患者
ノ總數ハ實ニ五千八百八十二名ニ達シ内死者千三百九十六名ヲ算セリ而シテ其ノ大部分ハ
消化器系統ノ傳染病ニ屬ス即チ赤痢患者三千百九名内死者七百八十一名腸窒扶斯患者六
百三十三名内死者百九十八名ニシテ總患者數ノ七割以上ヲ占ム就中赤痢病ハ去ル明治三

十二年ノ大流行後年々其ノ數ヲ減シタリシカ客年ニ至リ更ニ千百十七名ノ多數患者ヲ發
シテ慘狀ヲ極メタリ

上叙ノ事實ハ要スルニ各自衛生上ノ注意ヲ缺ケルト豫防方法ノ周到ナラサルトニ職由セ
スンハアラス特ニ本年秋季ニ於テハ 皇太子殿下本縣ニ行啓アラセラル、趣此際縣民當
然ノ用意トシテ力ヲ傳染病ノ防遏ニ注キ萌芽ヲ絶チ根底ヲ清メ縣下ノ全土ヲ舉ケテ健康
地トナシ以テ鶴駕ヲ奉迎スルノ覺悟ナカルヘカラス願フニ消化器系ノ傳染病ハ毎年初夏
ノ候ニ發シ八七月稍々流行ノ兆ヲ示シ九月十月ニ至リテ最モ猖獗ヲ極ムルヲ例トス本年
亦其ノ軌ヲ同フスルコトナキヲ保セス各人宜シク思フ茲ニ致シ深ク衛生ヲ慎ミ警戒ヲ怠
ラス特ニ春期掃除ヲ持續シテ以テ傳染病發生ノ機ナカラシムルコトニ努ムヘシ尙麻疹ハ
目下縣内各所ニ流行シ爲メニ巨多ノ危害ヲ加ヘツ、アルヲ以テ一層ノ注意ヲ拂ヒ遺算ナ
キヲ期スヘシ

●癩ニ關スル消毒其ノ他豫防方法

○訓令甲第六號 明治四十二年二月二十二日

警察署 警察分署

癩ハ古來本邦各地ニ蔓延シク其ノ病症ヲ誤認セラレタルモ癩菌ノ發見ニ依リテ其ノ傳染性ナルコトヲ確定セラレタルモノニシテ主トシテ觸接ニ依リ又ハ患者ノ鼻汁、唾液潰瘍部ノ膿汁等ニ汚染シタル物件ヲ介シテ病毒ヲ他ニ傳播スルノ危險アルモノトス是ヲ以テ政府ハ明治四十年三月本病ノ豫防ニ關シ法律第十一號ヲ發布シ癩患者ニシテ療養ノ途ヲ有セス且ツ救護者ナキモノハ之ヲ府縣ノ療養所ニ隔離シ其ノ他ハ各自ニ於テ消毒其ノ他豫防方法ヲ行ハシメ以テ本病ノ蔓延ヲ防止シ漸次其ノ根絶ヲ圖ラントス然ルニ本病ハ從來非傳染性ト思惟シ來レルト其ノ經過緩慢ニシテ長年月ニ涉ルヲ以テ縱令外部ヨリ督勵ヲ嚴ニスト雖一般人民ヲシテ自衛ノ途ヲ講セシメ又患者竝家人ヲシテ公德ヲ重ンセシムルニアラサレハ隱微ノ間ニ於テ病毒ノ散漫ヲ來タシ所期ノ目的ヲ達センコト容易ナラス依テ一般人民ニ對シ常ニ本病ノ性質豫防ノ方法等ヲ訓諭シ之レカ誘導ヲ怠ラサルハ勿論現ニ患者アル家ニ對シテハ特ニ左記各號ノ事項ヲ指示シ學校、病院、製造所、旅店船舶等ニ於テ患者ヲ發見シ若ハ患者ヲ入ラシメタルトキ亦之ニ準シ相當處置セシムル等本病豫防ノ效果ヲ收ムルニ努ムヘシ

右訓令ス

癩ニ關スル消毒其ノ他豫防方法

- 一 患者ノ居室ハ可成別ニ之ヲ定メ他ノ家人等ト雜居セサルコト
- 二 患者ノ衣類、寢具其ノ他日用器具等ハ特ニ專用ノモノヲ備ヘ他ト混同セサル様注意スルコト
- 三 患者用衣類、敷布、寢具等ハ時々消毒ヲ行ヒタル後洗濯スルコト
- 四 患者ノ居室ハ常ニ清潔ヲ保持スルコト
- 五 患者ノ居室ニハ消毒藥ヲ容レタル唾壺ヲ備フルコト
- 六 病毒ニ汚染シタル綑帶、手巾等ハ消毒ヲ行ヒ患者ノ紙屑縋類ハ燒却スルコト
- 七 患者ノ外出ハ可成避ケシメ止ムヲ得ス外出セントスルトキハ清潔ナル衣服ヲ著用シ又潰瘍アルモノハ其ノ綑帶ヲ更ムルコト
- 八 患者ハ可成他トノ交通ヲ避ケシメ又理髮店、公衆浴場、料理店、飲食店、劇場、寄席、乗合船車等公衆ノ出入スル場所ニ立入ラサルコト
- 九 患者ハ牛乳ノ搾取、飲食物、飲食物具、(金屬陶器類ヲ除ク)玩具ノ調製又ハ其ノ販賣其ノ他病毒傳播ノ虞アル業ニ從事セサルコト
- 十 患者ノ住居シタル家屋ハ消毒ヲ行ヒタル後ニアラサレハ他ニ使用、貸與又ハ授與

セサルコト

- 十一 患者ノ使用シタル衣類、寢具、器具ハ勿論家人ノ常用衣類等病毒ニ汚染シ又ハ汚染ノ疑アル物件ハ消毒ヲ行ヒタル後ニアラサレハ他ニ使用、授與、移轉又ハ遺棄セサルコト
- 十二 患者ノ一時滞留シタル場合ニ於ケルモ其ノ占居シタル室竝其ノ使用シタル衣類、寢具、器具等ニ對シテ亦前二號ヲ適用スルコト
- 十三 看護等ノ爲メ常ニ患者ニ近接シ又ハ病毒汚染ノ物件ヲ取扱フ者等ハ常ニ手指ノ消毒ニ注意シ又可成上被ヲ着用シ時々之ヲ消毒スルコト
- 十四 癩患者ノ死體ハ消毒ヲ行ヒタル後可成之ヲ火葬スルコト
- 十五 消毒方法ハ明治三十年内務省令第十三號ノ規定ニ準シ施行スルコト

●外國人タル癩患者取扱心得

○訓令甲第二十二號

明治四十一年五月七日

警察署 警察分署

明治四十年(九月)勅令第二九四號外國人タル癩患者ノ取扱ニ關シテハ爾今左ノ通心得ヘシ

外國人タル癩患者取扱心得

- 一 海港檢疫ヲ施行セサル縣下諸港ニ於テハ警察官署ハ其官吏ヲシテ該患者ノ有無ニ意セ注シメ疑ハシキ患者アリタル場合ハ醫師ヲシテ檢診ヲ行ハシムヘシ
- 二 患者ヲ發見シタルトキハ患者及船長又ハ其代理人ニ消毒其他豫防方法ヲ指示シ患者ノ上陸ヲ禁止スヘシ
- 三 前項ノ患者便船ノ都合又ハ在本邦ノ親戚知人取引商店等ニ重要ナル用務アル等已ムヲ得サル事由アル爲メ一時上陸ヲ願出タルトキハ左ノ條件ヲ附シテ之ヲ許可スルコトヲ得
 - (一) 上陸中ハ可成病院其他適當ト認ムル場所ニ於テ療養シ醫師又ハ當該吏員ノ指示ニ從ヒ消毒其他豫防方法ヲ行フコト
 - (二) 上陸中已ムヲ得サル事由アリテ外出セントスルトキハ豫メ警察官署ノ許可ヲ

受クヘキコト

- (三) 最近ノ便船ニテ本邦ヲ退去スヘキコト
- (四) 必要アリト認ムルトキハ何時ニテモ退去ヲ命スルコト
- 四 前項各號ノ事項ハ本人ニ示シ其請書ヲ徴スヘシ但第三號ニ關シテハ豫メ其乗船セ
ントスル船舶ノ船主又ハ代理人ノ承諾書ヲ提出セシムヘシ
- 五 第三項第二號ニ依リ外出ヲ許可シタルトキハ相當監督ヲ爲スヘシ

●癩患者救護及費用ニ關スル取扱手續

○訓令甲第十六號 明治四十二年五月十五日

内務部	警察部
郡市役所	警察署
警察分署	町村役場

癩患者救護及費用ニ關スル取扱手續左ノ通定ム

癩患者救護及費用ニ關スル取扱手續

第一條 警察官署ハ明治四十年内務省令第十九號第二條第一項及第三項ニ依リ市町村長

ヲシテ患者及同伴者、同居者ノ救護ヲ爲サシムル場合ハ被救護者ノ本籍住所氏名年齢
其ノ他必要ノ事項ヲ通知スヘシ

前項ノ通知ヲ受ケタル市町村長ハ適當ノ場所ニ於テ之ヲ救護スヘシ

第二條 患者檢診、救護、送致又ハ死亡ニ關スル費用ハ別表ノ定ムル處ニ依ル其ノ制限
ヲ超過スルトキハ事由ヲ具シ知事ノ認可ヲ受クヘシ

患者ノ同伴者、同居者ノ救護費ニ付テハ前項ノ規定ヲ準用ス

第三條 明治四十年勅令第二百六十二號第二條第三項ニ依リ繰替支辨シタル費用ノ辨償
請求書ニハ收支明細書及證書類ヲ添付スヘシ

第四條 救護中ノ患者ヲ療養所ニ送致シ又ハ扶養義務者ニ引渡シ若ハ患者死亡シタルト
キハ其ノ同伴者、同居者ニ對シ救護ヲ止ムヘシ但シ止ムヲ得サル事由アルトキハ知事
ノ認可ヲ受ケ引續キ救護スルコトヲ得

第五條 當該吏員ハ故ナク患者ニ關スル事項ヲ漏泄スヘカラス

(別表)

種別	單位	金額	備考
檢診料	一回	壹圓以內	
食費	一回	五錢	送致途中ノ食費ヲ含ム
借家料	一晝夜	貳拾錢以內	適當ナル收容所ナキ場合ニ限ル
寢具料	一人ニ付一晝夜	拾錢以內	
診察料	初診一回 次診以後一回	五拾錢以內 拾錢以內	扶養義務者ニ引渡又ハ療養所ニ送致前特ニ醫療ヲ加フルノ必要アル場合ニ限ル
藥價	一人ニ付一日	拾錢以內	扶養義務者ニ引渡又ハ療養所ニ送致前特ニ服藥ノ必要アル場合ニ限ル
手術料	一回	實費	
看護人料	一晝夜	參拾錢以內	病氣危篤若ハ不斷患部ノ手當ヲ要スル場合ニ限ル
人足賃	一晝夜	五拾錢以內	特ニ雇入ヲ要スル場合ニ限ル

消毒藥品費	一回	壹圓以內	
船車賃		最低額實費	
死體番人	一晝夜	四拾錢以內	
診斷書料	一通ニ付	拾錢以內	
棺桶、棒繩、葬具	一式	七拾錢以內	
墓標		拾錢以內	
埋葬人足 (死體片付穴 掘運搬共)	一人ニ付	五拾錢以內	死者一人ニ付二人以內
墓地手當		實費	共同墓地ノ設ナキ市町村ニ限ル
公告料		實費	一日限リ縣下日刊ノ一新聞ニ掲載スルモノトス

●トラホーム豫防規程

○訓令甲第七號 明治四十三年四月九日

郡役所	市役所
警察署	警察分署
町村役場	

トラホーム豫防規程左ノ通相定ム

明治四十一年(十月)本縣訓令甲第三十六號ハ之ヲ廢止ス

「トラホーム」豫防規程

- 第一條 市町村長ハ「トラホーム」豫防ノ爲左記各號ニ該當スル者ニ對シ毎年一回以上市町村醫ヲシテ檢診ヲ行ハシムヘシ但時宜ニ依リ縣醫ヲ派遣シ之ヲ行ハムルコトアルヘシ
- 一 其ノ年徴兵適齡者
 - 二 次年徴兵適齡者
 - 三 十人以上ヲ雇使スル諸工場ノ職工徒弟及其ノ工場ノ同居者
 - 四 料理屋、飲食店、宿屋、鑛泉宿、理髮店、貸座敷、貸席、寄席、芝居茶屋、待合茶屋ノ居住者

五 「トラホーム」ニ罹リタル公私立學校生徒及幼稚園兒童ノ同居者

六 第一號ノ檢診ニ依リ發見シタル「トラホーム」患者ノ同居者

七 前各號ノ外特ニ必要アリト認ムル者

第二條 前條第一號ノ檢診ハ毎年二月中ニ之ヲ行フヘシ

第三條 市町村長ハ警察署長分署長ニ協議シ第一條ノ檢診日時及場所ヲ定メ受檢者ヲ會合セシムヘシ但時宜ニ依リ醫師ヲシテ各戸ニ就キ檢診セシムルコトヲ得

第四條 第一條ノ檢診ニハ警察官吏市町村吏員之ニ立會スヘシ

第五條 市町村長ハ檢診ノ結果發見シタル患者ニ別記第一號様式ノ治療票ヲ交付シ全治シタルトキハ之ヲ返納セシムヘシ

第六條 第一條ノ檢診日時及場所ヲ定メタルトキハ直ニ知事ニ報告スヘシ但町村長ハ郡長ヲ經由スヘシ

第七條 市役所、町村役場、警察官署ニハ別記第二號様式ノ患者名簿ヲ備置キ異動アル毎ニ訂正スヘシ

第八條 治療票ノ交付ヲ受ケタル患者住所ヲ移轉シ又ハ全治シタルトキハ市町村長ヨリ其ノ旨所轄警察官署ニ通知スヘシ

第九條 市町村長ハ貧困患者ニ對シ救療ノ途ヲ講スヘシ

第十條 市町村長ハ私立學校長ヨリ「トラホーム」檢診ノ爲醫師派遣方要求アリタルトキハ市町村醫若ハ適當ト認ムル醫師ヲ派遣スヘシ

第十一條 市町村長ハ學校生徒ニ關スル「トラホーム」豫防規程第四條ノ通知ヲ受ケタルトキハ更ニ之ヲ五日以内ニ所轄警察官署ニ通知スヘシ

第十二條 市町村長ハ學校生徒ニ關スル「トラホーム」豫防規程第六條ノ通知ヲ受ケタルトキハ其ノ縣内ニ係ルモノハ之ヲ轉住先市町村長ニ通知スヘシ

第十三條 當該吏員ハ時々治療票ヲ査閲シ治療ヲ怠ル者アルトキハ説諭ヲ加ヘ全治ノ途ヲ圖ルヘシ

第十四條 檢診ノ結果ハ十日以内ニ治療成績ハ(十二月末日現在)翌年一月二十日マテニ左記各號ニ依リ町村長ハ郡長ニ郡市長ハ知事ニ報告スヘシ

- 一 第一條第一號ノ檢診ハ別記第三號様式ニ依ル
- 二 第一條第二號乃至第七號ノ檢診ハ別記第四號様式ニ依ル
- 三 第一條各號ノ治療成績ハ別記第五號様式ニ依ル

前項ノ報告ハ市町村長ヨリ所轄警察官署ヲ經由スヘシ

(第一號様式)

四寸

「トラホーム」治療票		市町村名	
症 (重中輕疑)	住所職業	市	町字
ノ區別スル	氏名	郡	番地族籍職業
狀 コト	年 齡	氏	名
		年	月生
六 檢診年月日		檢診醫	
交付年月日		主治醫	
全治年月日	(醫師印)		